

2/5/11
365

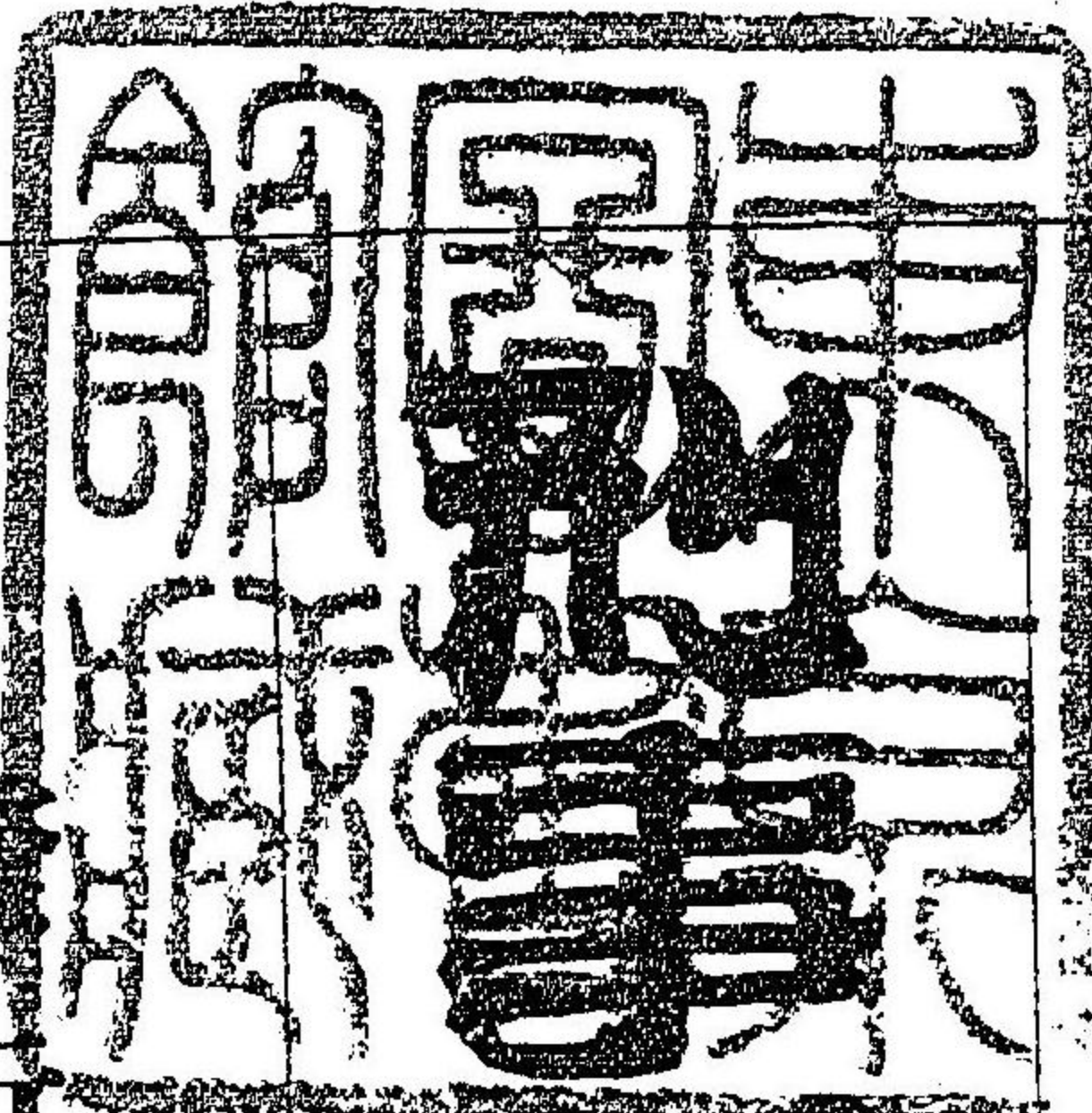
久保田源吉君著

刑事訴訟法詳解
全

發行所
秀文社



特 14
265



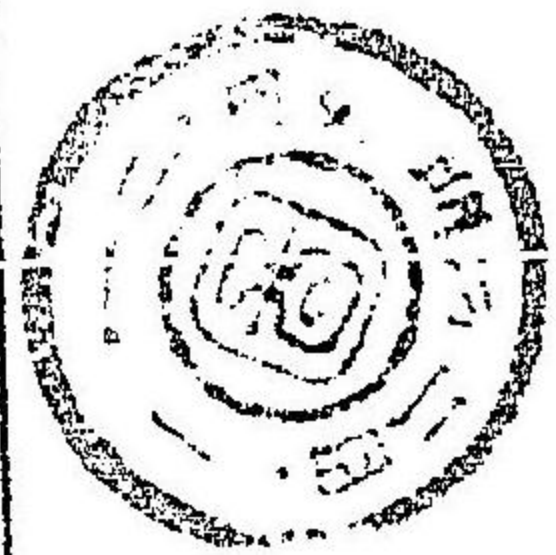
久保田源吉君著

訴訟法詳解

全

發行所

秀文社



凡 例

一 此詳解ハ東西諸學說ノ萃ヲ拔キ簡言以テ逐條ヲ解釋スルヲ主トシタリト雖其必要ノ條項ニ於テハ法理ノ蘊奧ヲ開示シ遺憾ナキヲ務メタリ又單ニ手續ヲ規定シタル迄ニシテ敢テ學理ヲ要セサルモノニ至テハ唯々一編ノ疏解ニ止メ敢テ冗長ノ言ニ涉ラサルコトヲ期セリ

一 明治二十三年十月十五日司法省第二〇八號ヲ以テ刑事局長河津祐之氏ヨリ各府縣及ヒ憲兵部等へ通知ニ依レハ治罪法中ニ改正ヲ加ヘタル重モナル條ハ三十七ヶ所ト示サレタレトモ其一ヶ所ニハ數條ヲ含ミ又

其小部分ノ改正及法語等ノ著シク變更スルモノ極メ
 テ多シ故ニ本著ハ是等ノ点又ハ民法及民事訴訟法裁
 判所構成法ニ關係スル箇所等ヲ明カニシ且ツ必要ノ
 部分ハ以上ノ法典ヨリ拔キ來リテ解釋ヲ爲シ特リ學
 說ニ編セス實務應用ノ便ニモ注意シタルモノナリ
 一 又各條解釋中相關係スル條項又ハ民法民事訴訟法裁
 判所構成法等ニ關連スル條項并ニ前項河津刑事局長
 ノ通知ノ箇所ハ()ヲ設ケ其中ニ掲記シテ索覽ノ便ニ
 供ヘタリ

二

明治廿三年十二月

著 者 述

刑事訴訟法詳解目錄

第一編 總則	一
第二編 裁判所	五十五丁
第一章 裁判所ノ管轄	五十六丁
第二章 裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避回避	七十八丁
第三編 犯罪ノ捜査起訴及ヒ豫審	八十七丁
第一章 捜査	全
第一節 告訴及ヒ告發	九十丁
第二節 現行犯罪	百
第二章 起訴	百九丁
第三章 豫審	百十五丁
第一節 令狀	百十九丁
第二節 密室監禁	百四十丁

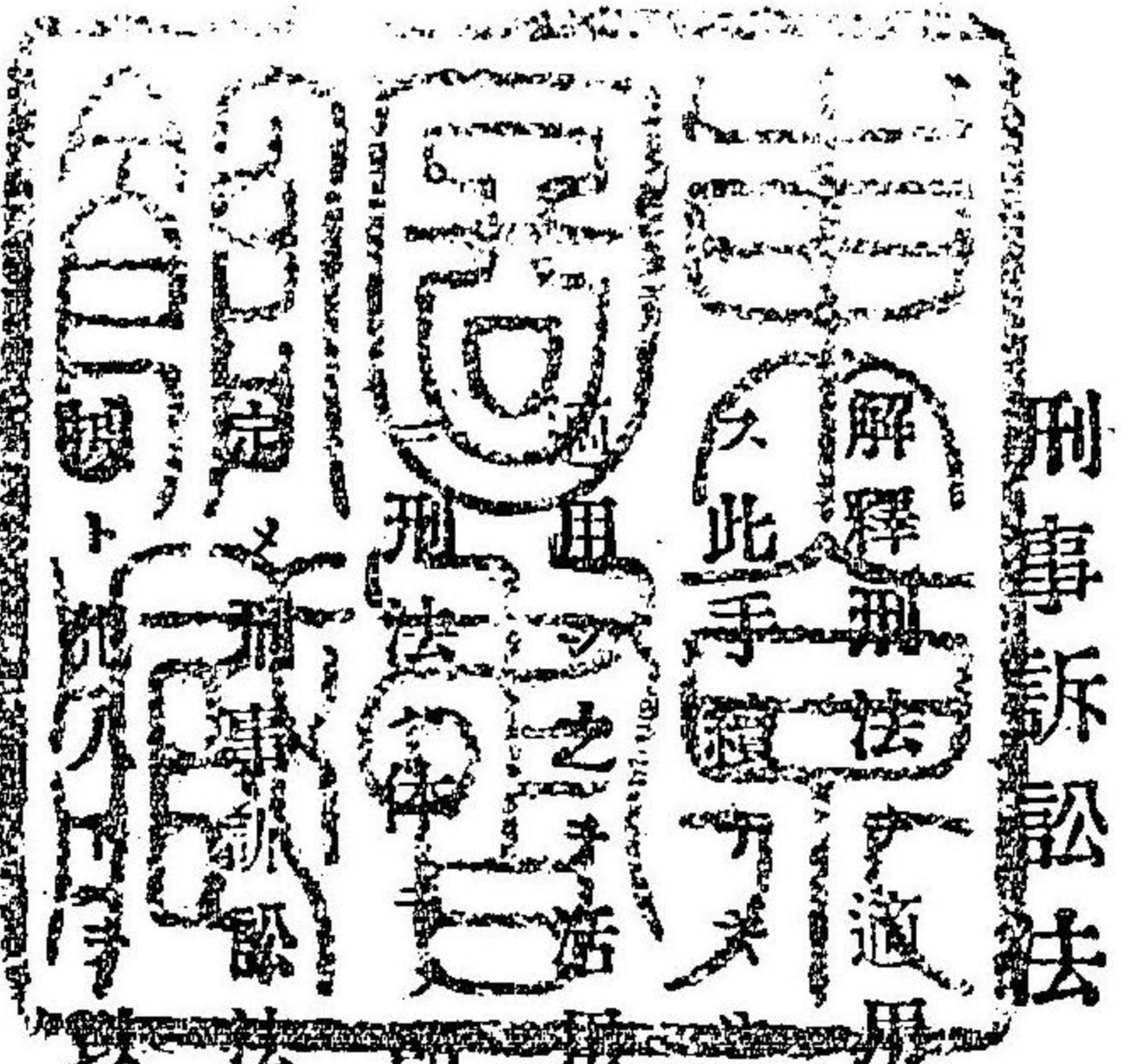
第三節 證據	百四十三丁
第四節 被告人ノ訊問及ヒ對質	百四十七丁
第五節 檢証搜索及ヒ物件差押	百五十五丁
第六節 証人訊問	百六十九丁
第七節 鑑定	百九十六丁
第八節 現行犯ノ豫審	二百四丁
第九節 保釋	二百十六丁
第十節 豫審終結	二百廿六丁
第四編 公判	二百四十二丁
第一章 通則	全丁
第二章 區裁判所公判	二百八十五丁
第三章 地方裁判所公判	三百十一丁
第五編 上訴	三百二十二丁

第一章 通則	三百二十三丁
第二章 控訴	三百三十一丁
第三章 上告	三百四十九丁
第四章 抗告	三百七十七丁
第六編 再審	三百八十四丁
第七編 大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續	三百九十八丁
第八編 裁判執行復權及ヒ特赦	四百六丁
第一章 裁判執行	四百七丁
第二章 復權	四百十五丁
第三章 特赦	四百二十丁
附則	四百二十四丁

刑事訴訟法詳解目錄終

刑事訴訟法詳解

久保田源吉著



刑事訴訟法

解釋刑法ノ適用
シテ犯人ヲ罰センニハ聽訟斷獄ノ手續ナカル可ラ
ハ刑法ヲ適用シ以テ之ヲ活用ヲ爲スヲ能ハス之ヲ
用メテ手續ヲ定メタルモノ之ヲ刑事訴訟法ト云フ故
刑法中ニ
即チ法律上罪ト爲ルヘキ所爲ト之ニ科スヘキ刑トナ
ハ其用ニ即チ犯人ヲ搜索シ且其證據ヲ見出シ証
テ裁判官ニ送致シテ處分ヲ求メ裁判官ハ其事件ニ
付相當ノ裁判ヲ爲シ又其裁判ヲ執行スル方法等ヲ定メタル者ナリ

第一編 總則

(解釋)總則トハ總體ニ適用スル規則ノ謂ニシテ規則編纂ノ便宜ニヨ

リ煩ヲ去リ簡ニ就キ每事逐條重複スル者ナカラシメンカ爲メ設ケル者ナリ例ヘハ此刑事訴訟法ニ於テ各條ニ就キ一々公訴ノ目的私訴ノ方法及之等ノ制限ヲ規定シタランニハ其煩ヤ爾ヘス又其体裁ニ於ルモ犬牙錯雜實ニ見ル可ラス然ルニ如斯總則ヲ設ケ刑事訴訟法總体ニ適用セシメ各條ヲ運用スルハ井然トシテ錯誤ナキナリ又別ニ通則ナル者アリ之ヲ設ケタル主意モ總則ト異ナルナリト雖通則ハ唯々一編ニ止リ總則ノ如シ全体ヲ支配スル者ニ非サルナリ

第一條 公訴ハ犯罪ヲ證明シ刑ヲ適用スルヲ目的トス

ルモノニシテ法律ニ定メタル區別ニ從ヒ檢事之ヲ行フ

(解釋)本條ハ公訴ノ目的ト及ヒ公訴ヲ行フ官吏ヲ定メタルモノナリ公訴トハ刑事ノ訴ヲ謂フ此訴訟ハ固ト國家ニ屬スル公權利ナリ故ニ國家ハ特ニ法律ヲ以テ檢事ニ委任シ此訴訟ヲ行ハシム是公訴ノ名アル所以ナリ

公訴ノ目的ニ付テハ種々議論アリト雖要スルニ公訴ハ犯罪ヲ證明スルコト、刑ヲ適用スルコト、二個ノ目的ヲ有ス(一)ト云フ議論ト又公訴ハ刑ヲ適用スルヲ以テ目的ト爲シ犯罪ヲ證明スルハ其目的ヲ達スル方法手段ニシテ公訴自身ノ目的ニアラス(二)ト云フ議論ニ販着スルモノ、如シ請フ何レカ其正鵠ヲ得タル歟ヲ論ゼン

二個ノ目的ヲ主唱スル論者ハ固シ公訴ハ犯罪ヲ證明スルト刑ヲ適用スルトノ目的ヲ有スルモノナリ故ニ二個具備シテ公訴ヲ起スハ通常ナレバ又時アリテハ犯罪ノ證明ノミヲ以テ其目的ト爲シ刑ノ適用ハ目的トセサルコトアリ即チ數罪俱發ノ場合はナリ一罪前ニ發シテ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發スルトキ其重キモノハ論ナシト雖其輕キモノ若クハ等シキモノニ付テモ之ヲ證明スル爲メ公訴ヲ起サ、ルヘカラス然ルチ若シ公訴ハ刑ノ適用ノミヲ目的トスルトキハ檢事ハ此場合ニ於テ如何トモスル能ハスシテ其結果タル犯罪

ヲ消滅スルニ至ラント

此說大ニ誤レリ抑々公訴ハ刑ノ適用ヲ目的トスルモノニシテ刑ノ適用ヲ必スルモノニ非ラス裁判官ハ公訴ヲ受ケタル事件ニ付不羈獨立ノ職權ヲ以テ相當ノ處分ヲ爲スモノナレハ或ハ無罪トシテ放免シ或ハ有罪トシテ刑ヲ言渡シ毫モ檢事ノ制肘ヲ受ケス又公訴ノ勢力ニ拘束セラル、モノニ非ス故ニ檢事ハ自ラ犯罪ナリト思料スル事件ニコリ裁判官ニ處分ヲ求ムルモノニシテ決シテ裁判官カ刑ヲ適用スヘキヤ否ヤノ未必ノ條件ヲ以テ公訴ヲ左右スヘキニ非ラズ又論者カ謂フ數罪俱發ノ場合ニ於テモ果シテ有罪者カ無罪者カ前發罪ニ比シテ後發罪ノ重キカ輕キカ若クハ等シキカ等シカラサルカハ裁判官カ取調ノ上刑法ニ照シタル後ニアラサレハ之ヲ斷定スルヲ得ス然ラハ論者カ犯罪ノ證明ヲ以テ公訴ノ目的トセサレハ刑ノ適用ヲ必セサル犯罪ハ公訴ヲ起スヲ得ストノ解釋ハ杜撰謬

說ト云ハサルヘカラス因之予ハ第二說即チ公訴ハ刑ノ適用ヲ目的トシ犯罪ノ證明ハ公訴ノ目的ヲ達スル方法手段ナリトノ說最モ法意ニ適フモノト信ス

法律ニ定メタル區別ニ適ヒ檢事之ヲ行フトハ裁判所構成法ニ定ムル區別ニ從ヒ檢事其所属裁判所ノ管轄スル犯罪事件ニ關シ公訴ヲ行フヲ云フ舊治罪法ニハ檢察官トアリ爰ニハ檢事ト改正セラレシモ名ヲ異ニスルノミニテ其實同シ唯ニ舊法ノ如ク違警罪裁判所ノ警部ヲ包含セサルノミ

第二條 私訴ハ犯罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償贖物ノ返還ヲ目的トスルモノニシテ民法ニ從ヒ被害者ニ屬ス

(解釋)本條ハ私訴ノ解ヲ爲シ而シテ其目的及ヒ此訴權ヲ有スル人ヲ定メタルモノナリ

私訴ハ固ト民事ノ訴訟ナルモ公訴ノ原因タル事實ニヨリ損害セラ

レタル私権利ノ回復ヲ要求スルモノナレハ他ノ普通民事ト區別スル爲メ之ヲ私訴ト云フ本條ニハ私訴ハ犯罪ニ因リ生シタル云々トアレハ私訴權ハ私権利ヲ毀損セシ事實ト其發生ヲ共ニスヘキモノニシテ必シモ犯罪ト其發生ヲ共ニスルモノニ非ス例ヘハ檢事ハ竊盜罪アルモノトシテ公訴ヲ起シ又ハ犯罪人タルノ能力アルモノニシテ公訴ヲ起シタルニ裁判官ハ其者カ誤認又ハ瘋癲者等ノ事實ニヨリ無罪ト判決スル場合ト雖私訴ニヨリ損害賠償贖物返還ヲ爲スヘキヲ命スルコトヲ得又民事原告人ハ被告人無罪ノ言渡ヲ受ケタル後ニ於テモ單ニ私訴ノ点ノミニ對シ上訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ故ニ予ハ私訴ハ公訴ノ原因タル事實ニヨリ損害セラレタル私權利ノ回復ヲ要求スル訴ト云ヒ犯罪ニ原因スル云々ト云ハサル所以ナリ

損害ノ賠償ハ其損害ノ額ヲ金錢ニ見積リテ賠償ヲ爲サシムルモノ

ニシテ人權ニ係リ贖物返還ハ其掠奪セラレタル物品ヲ返還セシムルモノニシテ物權ニ關スルモノナリ故ニ損害ノ賠償ト贖物ノ返還トハ固ヨリ兩個獨立ノ性質ヲ有スルモノニシテ贖物ノ返還ハ決シテ損害ノ賠償中ニ包含スヘキモノニアラス物權ノコトハ民法財産物權ノ部ニ人權ノコトハ全編人權ノ部ニ詳カナリト雖今爰ニ二權ノ異ル要点ヲ擧ケレハ物權ハ直チニ物ノ上ニ行ハレ且ツ總テノ人ニ對抗スルコトヲ得ヘキモノナレハ何人ノ手ニ在ルモ其物ニ對シテ追索スルコトヲ得ルモ人權ハ然ラス必ズ定マリタル人ニ對シ法律ノ認ムル原因(合意、不當ノ利得、犯罪、準犯罪、法律ノ規定等)ニシテ財產編第二部第一章參看)ニ由リ或ル義務ヲ盡サシムルモノナリ本條ノ場合ニ於テ之カ比喻ヲ擧ケレハ予ハ或者ニ所有ノ時計ヲ竊盜セラレ而シテ其時計ハ已ニ典物トナリ又ハ他人ニ賣却シタリトセン歟予ハ物權ニヨリ其何人ノ手ニ在ルヲ論セス之ヲ取戻スコトヲ得

然レ其時計ハ轉頓シテ所在不明ナルカ又ハ公商公買ニ依リテ他人ノ手ニ在ルトキハ之ヲ取戻スヲ得サルヲ以テ予ハ人權ニヨリ被告ニ對シ損害賠償トシテ相當ノ價額ヲ請求スルカ如シ爰ニ注意ヲ要スヘキモノアリ贓物トハ凡テ不正ニシテ奪レタルモノヲ云フ故ニ其指ス處甚タ廣シト雖物權ニ基クモノナレハ其物ノ如何ンヲ問ハス悉ク返還ヲ要ムルコトヲ得ト云フニ非ス同ク不正ニシテ奪ハレタル者ナリト雖其返還ヲ要ムヘカラサルモノアリ即チ例ヘハ金錢等ノ不確定物ニ係ルトキハ贓物トシテ直チニ返還ヲ要ムルコトヲ得ス就中數人ノ被害者アルトキニ之ヲ直ニ贓物ト看做シテ一人ノ被害者ニ還付スルカ如キコトアラハ他ノ被害者ヲ損ジテ一人ヲ利スルモノト云ハサルヘカラス故ニ如此場合ニ於テハ必ス之ヲ損害賠償トナシテ數人ノ被害者等ニ一ノ賠償ヲ得セシメサルヘカラス是等ハ物ノ別ヨリ生スル結果ナレハ宜シク財産編ニ就テ看ルヘ

民法ニ從ヒ被害ニ屬ストハ民法ハ元來私權利私義務ヲ規定シタルモノニシテ假令ヒ損害ヲ受ケ訴權ヲ有スルモ之ヲ實行シ又ハ之ヲ拋棄スル等ハ被害者自身ニ屬スル私有ノ權利ナレハ被害者ノ隨意ナリ故ニ法律ハ私訴被害者ニ屬スト明言ス彼ノ公訴權ノ如ク國家力法律ヲ以テ檢事ニ委任セシ公權利トハ大ニ其故ヲ異ニスルモノナリ

第三條 公訴ハ被害者ノ告訴ヲ待テ起ルモノニ非ス告訴私訴ノ拋棄ニ因テ消滅スルモノニ非ス但法律ニ於テ特ニ定メタル場合ハ此限ニ在ラス

(解釋)本條ハ公訴權ノ獨立ヲ示シ但以下ハ例外ヲ掲ケタルモノナリ公訴ノ權ハ國家ニ屬シ檢事ハ國家ノ委任ヲ受ケテ之ヲ實行スルモノナレハ私人ノ意思ニ從ヒテ自由ニ存廢スルコトヲ得サルハ勿論

委任ヲ受ケタル檢事ト雖亦隨意ニ之カ實行ヲ拒ムコトヲ得ス此性質ヲ稱シテ公訴權ノ獨立ト云フ

夫レ此ノ如ク公訴ハ獨立シテ毫モ他ト相關係セサルカ故ニ假令ヒ告訴私訴等アリト雖公訴ハ之カ爲メニ起ルモノニ非ス又告訴私訴ノ拋棄アリト雖公訴ハ之カ爲メ消滅スヘキモノニ非ス又檢事ニ於テモ公訴ノ維持スヘカラサルコトヲ了知シタルトキハ辨論ノ權ヲ拋棄スルコトヲ得レ且公訴權ハ決シテ之ヲ拋棄スルコトヲ得サルナリ但脅迫罪猥褻姦淫罪有夫姦罪誹毀罪牛馬外ノ家畜ヲ殺ス罪等ハ例外トシテ告訴ヲ待ツニアラサレハ公訴ヲ起スヘカラサルモノトセリ此例外ニ付或ル學者ハ被害者ノ告訴アルニアラサレハ公訴ヲ起スコトヲ許ササルハ其罪ノ成否ハ被害者ニアラサレハ之ヲ知ルコトヲ得ス他ヨリ唯ニ其形跡ノミニ付キ臆測スヘキモノニアラスト云ヒ其檢舉ノ難キヲ理由トスレ且予ハ被害者ノ名譽羞辱ニ關

スルト又其事柄タル微細ニシテ公益ヲ害スルト云ハンヨリハ寧ロ私益ヲ害スルコト多キヲ以テ法律ハ公訴ノ成立ニ親告ナル未必條件ヲ付シタルモノト解スルヲ穩當ナリト信ス

第四條 私訴ハ其金額ノ多寡ニ拘ハラズ公訴ニ付キ第二審ノ判決アルマデ何時ニテモ其公訴ニ附帶シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三者ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ公訴附帶ノ私訴ニ參加スユルヲ得

(解釋)本條ハ私訴ヲ爲ス裁判所ヲ定メ且ツ私訴ニ付キ利害ノ關係アルモノハ民事原告人及ヒ被告人以外ノ人ト雖其裁判ニ參加スルヲ得ルコトヲ規定シタルモノナリ

第二條ノ解ニモ述ヘシ如ク私訴ハ本來民事ノ訴ナリ民事ノ訴ナレハ之ヲ民事々件トシテ訴ヲ起スヲ以テ本則トス然ルニ本條ニハ公訴

ニ附帯シテ公訴ノ裁判所ニ訴フルコトヲ得ト定メタルモノハ抑々故アルナリ即チ私訴ノ公訴ハ事實ヲ原因トスルモノナレハ此原因ニ付キ裁判ヲ爲ス裁判所ナレハ其證據具備シテ明白ニ事實ヲ審定スルコトヲ得ヘシ又理ニ於テモ其本原ノ事件ヲ裁判スル裁判所ナレハ之ヨリ生スル私訴ノ裁判ヲ爲スハ當然ナルヘシ金額ノ多寡ニ拘ハラストハ裁判所構成法第十四條ニ區裁判所カ民事訴訟ニ付キ有スル裁判權ヲ規定セリ即其第一號ニ百圓ヲ超過セサル金額又ハ價額百圓ヲ超過セサル物ニ關スル請求トアリ然レモ公訴ニ付帯スルトキハ假令ヒ此制限ヲ超過スルモ之ヲ區ノ裁判所ニ訴フルコトヲ得ルナリ又第二審ノ判決ハ終審ノ裁判ヲ指シタルモノニシテ例ヘハ裁判所構成法第十六條ニ定メタル如ク刑事ニ於テ區裁判所ノ裁判權ハ違警罪本刑五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ若クハ附加セサル二月以下ノ禁錮又ハ單ニ百圓以下ノ罰金ニ該ル輕罪

等ナリ是等ノ刑事事事件ニ對スル區裁判所ノ判決ハ第一審ニシテ若シ控訴ヲ爲シタルトキハ全法第二十六條第二號ニ定ムル如ク此控訴ニ對スル地方裁判所ノ判決ハ第二審ナルカ如シ

第二項第三者トハ當事者(原告被告)以外ノモノヲ云フ此第三者カ私訴ニ參加スルトハ訴ニ關係セサリシ他人ナルモ其私訴カ自己ノ權利ニ妨害ヲ來スヘキコトヲ主張シ之ヲ攻撃シ自己ニ關スル部分若シハ私訴全部ヲ排却センカ爲メ訴訟ニ與カルヲ云フ而シテ此參加ニ主タルモノアリ從タルモノアリ又告知參加ト稱スルモノアリ詳クハ民事訴訟法第五十一條以下ニ在ルヲ以テ全法ニ讓リ爰ニハ第三者カ私訴ニ參加スル適例ヲ舉グルニ止ムヘシ即チ甲者カ乙者ノ所有物ヲ竊取シ而シテ其物品ハ轉シテ兩者ノ手ニ在リ乙者ハ甲者カ竊盜罪ニ付公訴ノ起ルト同時ニ附帯ノ私訴トシテ右物品ノ返還ヲ請求スルトキハ兩者カ所持スル物品ハ贓物ニ係ルヲ以テ裁判所

ニ於テ差押ヘタリトセンカ此場合ニ於テ其私訴ノ裁判如何ハ大ニ兩者ノ利害ニ關係スルニヨリ其訴訟ニ參加シテ其物品ハ公商公買ニ因リ得タル等ノ事實ヲ舉ケテ自己ノ利益ヲ主張スルカ如キ其一例ナリ

第五條 被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ民法ニ從ヒ被害者ヨリ賠償返還ヲ要ムル妨礙ト爲ルコト

ナカルヘシ

(解釋)本條ハ私訴權ノ獨立ヲ示シタルモノニシテ第三條ト表裏ヲ爲スモノナリ

第二條ノ解ニ於テ述ヘシ如ク私訴ハ犯罪ト發生ヲ共ニスルモノニアラス私權利ヲ毀損セシ事實ニ因リ發生スルモノナリ故ニ被告ニ免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖私訴權ハ消滅スルコト決シテナクシテ物品ノ返還ハ民法財産編所有權ノ規則ニ依リ之ヲ求メ又

損害ノ賠償ハ全法人權ノ規則ニ依リ不正ノ利得不正ノ損害等ナ原由トシテ之ヲ請求スルコトヲ得ヘキナリ但公訴ニ附帶シテ私訴ヲ爲シタルトキハ第二百二十五條ニ從假令ヒ被告人ハ免訴無罪ノ言渡ヲ受ルモ同時ニ私訴ノ判決アルヘキナリ

免訴ノ言渡ニ二個ノ區別アリ一ハ豫審ニ於テ第六十五條ノ規則ニ依リ之ヲ爲シ一ハ公判ニ於テ第六十五條第三號以下ニ該ルモノニ對シ之ヲ爲スモノナリ又無罪ノ言渡ハ公判ニ限ルモノトス

第六條 公訴ヲ爲ス權ハ左ノ事項ニ因テ消滅ス

第一 被告人ノ死去

第二 告訴ヲ待テ受理スヘキ事件ニ付テハ告訴ノ拋棄

第三 確定判決

第四 犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ノ廢止

第五 大赦

第六 時効

(解釋)本條ハ公訴權消滅ノ原因ヲ示シタルモノナリ

公訴ハ犯罪ト共ニ發生シ適用スヘキ刑罰ノ消滅ト共ニ消滅ス是公
訴ハ刑ノ適用ヲ要求スル訴ナレハ犯罪ナケレハ適用スヘキ刑罰モ
ナカルヘク又適用スヘキ刑罰ニシテ已ニ消滅スレハ從テ公訴モ消
滅スルコト當然ノ理ナリ故ニ假令ヒ公訴ノ提起實行アリシトキト
未タ其提起實行ナキトキトニ論ナク本條ニ掲クル六個ノ原因アル
トキハ公訴ハ消滅スヘキモノトス

第一被告人ノ死去 刑罰ハ一身ニ止マルモノナレハ其刑罰ヲ施ス
ヘキ犯罪者ニシテ已ニ死去スルトキハ刑罰ヲ施スヘキ物體ナカルヘ
シ然ラハ公訴權ノ消滅スルコト論テ俟タス

第二告訴ヲ待テ受理ス可キ事件ニ付テハ告訴ノ拋棄 此告訴ヲ待
テ受理スヘキ犯罪ノ何タルト又法律ハ此親告罪ニ關シテハ告訴ト

云フ未必條件ヲ付シ告訴ノ一條件具備スルニアラサレハ公訴ノ成
立セサルコトハ已ニ第三條ノ解ニ於テ詳述セリ然ラハ公訴ニ要ス
ル一原素即チ告訴ニシテ消滅スルトアラハ從テ公訴モ消滅ニ歸セ
サルヘカラサルハ理ノ然ラシムル處ナリ

第三確定判決 確定判決トハ上訴期限ヲ過キタルカ又ハ上訴シテ
其判決ヲ經タルヲ以テ復タ動スヘカラサル有効ナル裁判言渡ヲ云
フ是レ一事ヲ再理スヘカラスト云フ原則ニ基キタルモノナリ此原
則ノ主意ハ凡ソ裁判ニシテ確定ノ制限ナク又幾度トナク上訴シテ
其裁判執行ヲ延期スルコトヲ得ルモノトスレハ其裁判ハ有名無實
ノモノトナリ終局ヲ告テ實行ヲ見ルノ期ナカルヘシ然ルトキハ無
用ノ手數ニシテ寧ロ最初ヨリ裁判ナキニ若カサルヘシ故ニ法律ハ
確定判決ナルモノヲ設ケ以テ裁判執行ノ期ヲ定メタルナリ此確定
判決ヲシテ公訴消滅ノ一原因トスルニハ左ノ三條件ヲ具備セサル

ヘカラス

一被告人ノ同一ナル事 被告人ノ同一ナラサルトキハ假令ヒ其犯者ニ對スルモ公訴消滅ノ原因トナラス何トナレハ判決ハ各人各自ニ付キ各事件ニ應シテ之ヲ爲スモノナレハ事件ハ同シキモ甲ニ對シテハ無罪ノ判決ヲ爲シ其共犯者タル乙ニ對シテハ有罪ノ判決ヲ爲スハ當然ノ理ナレハナリ故ニ現ニ確定判決ヲ受ケタル者ニアラサル以上ハ假令ヒ其犯者ト雖其判決ニ付テハ別個人ナレハ一事不再理ヲ理由トシテ確定判決ノ効力ヲ主張スルコトヲ得

二事件ノ同一ナル事 事件ノ同一トハ其判決ニ對スル犯罪ヲ構成スル所爲タル事實ノ同一ヲ云モノニシテ之ト等シキモノ若クハ類似スル他ノ事實ヲ云フニアラス例ヘハ甲者乙者ヲ殺害シタリトノ事件ニ付公訴起リシモ乙者ヲ殺害セシハ甲者ノ所爲ニアラストノ判決ヲ受ケ其判決確定トナリシトキハ甲者ニ對スル乙者殺害ノ事

件ハ確定判決ノ効力アリト雖兩者ヲ殺害シタル事件ニ付テハ毫モ其効力ヲ及ホス事ヲ得サルナリ故ニ事件ノ同一ナルニハ必ス事實ノ同一ナラシコトヲ要ス苟モ事實ニシテ同一ナル以上ハ如何ニ罪名ヲ變更スルモ再ヒ公訴ヲ提起スル原因ト爲スコトナカルヘシ

三公判ノ裁判言渡ナル事 豫審ノ決定スルモ第百七十五條ニ依リ新ナル證據ヲ發見スルトキハ再ヒ同一ノ事件ニ付起訴ヲ爲スヲ得ヘキモノナリ故ニ公判ノ判決確定シタル場合ニアラサレハ公訴權消滅ノ原因トナラサルナリ

第四犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ノ廢止 刑罰ナキ所爲ハ法律上犯罪ト認メサルナリ又公訴ハ刑ノ適用ヲ目的トスレハ其目的物カ消滅スレハ從テ公訴權ノ消滅スルハ當然ナリ

第五大赦 大赦ノ事ニ付予ノ信スル本義ハ大赦トハ一國主權ノ實行ニ依リ或種類ノ犯罪ニ對シテ其公訴及ヒ執行ノ權ヲ拋棄スルヲ

云フトノ説是ナリ此定義ニ依レハ大赦ハ一個ノ犯人ニ對シテ施スモノニ非スシテ通常ハ或種類ノ犯罪事件ニ關スル政略上ノ處分ナレハ國事犯ニ施スモノ多シトス又大赦ハ恰モ社會カ犯罪ヲ遺忘シタルカ如ク嘗テ犯罪ノ存シタルトキト同一ノ効果ヲ生スルモノナルヲ以テ特赦ノ如ク判決ノ確定ヲ俟タス何時ト雖之ヲ施スニ妨ナキモノトス又處刑者ノ生前タルヲ要セス判決ノ確定スル前ニ在リテハ公訴權ヲ消滅セシメ確定後ニ在リテハ其判決ノ効力ヲ失ハシムルモノナリ

第六時効 時効ノ性質適用又ハ其別等ハ民法證據編第八十九條以上ニ詳カナリ要スルニ時効トハ法律ニ於テ定メタル或ル一定ノ時限ヲ經過シタルノ効力ニ因リテ物上又ハ對人ノ權利ヲ得又ハ義務ヲ免ル、コトヲ云フ蓋シ時ノ經過ハ人ノ記憶ヲ亡失セシムルモノナルヲ以テ事ノ大小輕重ニヨリ時間ニ長短ノ別アリト雖到底遺忘

ハ免ル能ハス故ニ長時間ヲ經過スルトキハ其權利義務ノ起リタル原因モ不明トナリ又證據モ煙滅シテ公正確實ノ裁判ヲ下スコトヲ得サルヘシ

時効ヲ以テ公訴消滅ノ一原因ト爲シタルハ以上ノ外尙ホ一個ノ理由アリ即チ國家ハ社會ノ遺忘ニ服シタル犯罪ハ之ヲ罰スルノ必要ナシト認メタルニ因ルコト是ナリ舊治罪法ニハ期滿免除トアリシヲ本法ニハ時効ト改メラレタリ時効ノ方能ク事實ニ適當スルモノト云フヘシ何トナレハ期滿免除トハ單ニ義務ヲ免ル、モノニ係リテ利權ヲ得ルモノニ適用スルコトヲ得ス然ルニ公訴ノ消滅シタルトキ其處罰ヲ免ル、方ヨリ云フトキハ期滿免除ノ語ニ適フト雖一定ノ期限ヲ經過シタルヲ以テ責罰セラレサル對世權ヲ得ル方ヨリ見ルトキハ期滿得權ナリ又私訴ニ於ルモ同様ニテ損害賠償贖物返還ヲ免ル、ハ期滿免除ナレハ其物品ニ付キ權利ヲ得ルハ之ヲ免除

ト云フヲ得サレハ時効ノ語最モ完全ナリト云ハサルヘカラサルヲ以テナリ

第七條 私訴ヲ爲ス權ハ左ノ事項ニ因テ消滅ス

第一 拋棄又ハ和解

第二 確定判決

第三 時効

(解釋)本條ハ私訴權消滅ノ原因ヲ示シタルモノナリ

私訴權ノ發生ヲ以テ單ニ犯罪ニ原因スルモノトスレハ私訴權ノ消滅ハ公訴權ノ消滅ト其原因ヲ同フスヘキモノナレトモ私訴權ハ必スシモ犯罪ニ因ヨリテ發生スヘキモノニアラサルコト第二條及ヒ第五條ノ解ニ於テ述ヘシ如クナルヲ以テ私訴權ノ消滅ノ原因ハ即ハ十損害賠償及ヒ贖物返還ノ訴權ノ消滅ノ原因タルモノナリ然ルニ本條ハ三個ノ原因ヲ掲ケ私訴權ノ消滅スルコトヲ示セリ此等ノ

事項ハ全ク民法ノ範圍ニ屬スルモノナレハ深ク之ヲ論スルヲ得ス唯々單純ノ解ニ止ムヘシ

第一拋棄又ハ和解 私訴ハ固ト被害者ノ財産中ノ一訴權ナルカ故ニ之ヲ行フト否トハ一ニ被害者ノ自由ナリ故ニ此權利ヲ拋棄シテ之ヲ消滅シ得ルハ勿論和解スルキモ此權ヲ消滅シ得ヘキナリ
第二確定判決 確定判決ノ事ハ前條解ニ述ヘシ處ナルカ其効力ニ於テ刑事ト民事ト大ニ異ル所アルヲ以テ左ニ聊カ辨解スヘシ
刑事ノ訴即チ公訴ニ於テ檢事ハ公益ノ爲メ國家ノ委任ニヨリ之ヲ爲スモノナレハ其請求スル處甚ハ廣シ故ニ裁判ノ及フ處モ亦甚タ廣シ是レ才判所構成法第六條ニ檢事ハ刑事ニ付公訴ヲ起シ其取扱上必要ナル手續ヲ爲シ法律ノ正當ナル適用ヲ請求シ云々トアリ又才判官モ刑事ニ付テハ其職權ノ及フ處廣キハ本法各條ニ照シテ明カナリ故ニ檢事ハ當初某ノ罪名ヲ擧ケテ公訴ヲ起スト雖才判官

ノ取調へ中審理ノ事實ニヨリ罪名ヲ變シ若シクハ加等減等ノ情狀ヲ發見スルトキハ夫レニ相當スル刑ノ適用ヲ請求シ又才判官ハ不竊獨立ノ權職ニヨリ檢事ノ意見如何ニ拘ハラス法律ニ從ヒ自己ノ確信ヲ以テ判決スルモノナレハ其事件ニ對シテハ檢事ハアレユル途ヲ盡シテ訴ヲ起シ才判官モ亦裁判ノ主眼タル理由ニ付キ一切ノ途ヲ盡シテ判決ヲ爲シタルモノト云フヘシ故ニ公訴ハ如何ニ罪名ヲ變更スルモ確定判決ノ後ハ同一ノ事件ニ付テハ更ニ訴ヲ起スコトヲ得ス然ルニ民事ハ之ト異ニシテ其原告人ノ請求ハ單一ノ理由ニ止マレハ其請求スル處狹ク才判官モ訴ヲケレハ理セストノ原則ヲ嚴守シ唯原告人ノ請求スル所ニ付キ判決ヲ下シ其請求ヲキ處迄モ才判スルカ如キ廣キ權利ヲ有スルモノニアラス故ニ一回才判ヲ經タル事件ト雖其名稱ヲ變更スレハ更ニ訴ヲ起スコトヲ得ヘシ例ヘハ始メ附托物ノ名義ヲ以テ物件ノ取戻ヲ訴ヘタルニ附托物ニア

ラサルニヨリ取戻ス權利ナシトノ判決アリ確定スルモ後チニ貸貸ノ名稱ヲ以テ取戻ノ訴ヘテ爲スコトヲ得ヘシ其故ハ原告人ハ始メハ附托物取戻ヲ請求シタルノミニシテ才判官モ亦只附托セシヤ否ヲ見テ才判セシノミナレハ確定判決ノ効力ヲ後チノ訴ニ及フスコトヲケレハナリ

第三時効 時効ハ時ノ効力ト法律ニ定メタル其他ノ條件トヲ以テスル取得又ハ免責ノ法律上ノ推定ナリ(証據編第八十九條)故ニ時効ハ贖物返還ニ付法律ニ定ムル時間ノ經過ニ因リ得ルモノハ取得時効ニシテ物權ヲ得其損害賠償ニ係ルモノハ免責時効ニシテ賠償ノ責任ヲ免ル、モノナリ(証據編第八十九條以下ニ詳カナリ)終リニ臨ンテ一言セサルヘカラサルモノアリ即チ公訴消滅ノ原因タル被告人ノ死去刑ノ廢止及ヒ大赦ハ私訴ノ消滅スル原因タラサルコト是ナリ公訴ノ物体ハ犯人ノ身ニ在リ故ニ犯人死去スレハ公

訴ハ消滅スト雖私訴ノ物体ハ財産ニ在ルカ故ニ假令犯人死去スルモ其財産ノ存スル限りハ私訴ハ消滅スルモノニアラス又刑ノ廢止ハ科スヘキノ刑ナキカ故ニ公訴モ從テ消滅スト雖不當ノ利得不正ノ損害民事ノ犯罪準犯罪等ニ因リ賠償返還ノ訴權ハ消滅スルコトナシ又大赦ハ罪ト刑トヲ消滅スルモノナレハ公訴權ヲ消滅セシムルハ無論ナシ被害者固有ノ權利即チ私訴ヲ消滅セシムルヲ得サルナリ

第八條 公訴ノ時効ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因テ成就ス

第一 違警罪ハ六月

第二 輕罪ハ三年

第三 重罪ハ十年

(解釋)本條ハ公訴時効ノ期限ヲ定メタルモノナリ
公訴ノ時効ハ證據ノ湮滅ト社會ノ遺忘ニ基クモノナレハ其期間ノ

長短ハ事ノ大小輕重ニ比較シテ之ヲ定メタルニ過キス

第九條 私訴ノ時効ハ被害者無能力ナルトキ又ハ公訴ニ附帶セスシテ其訴ヲ爲シタルトキト雖モ公訴ノ時効ト其期間ヲ同クス
公訴ニ付既ニ刑ノ言渡アリタルキハ民法ニ定メタル時効ノ例ニ從フ

(解釋)私訴時効ノ期限ヲ定メタルモノナリ

私訴ハ公訴ノ原因タル事實ニ因ル訴訟ナルカ故ニ其原由トスル所ノ事實ハ公訴ト同一ナリ然レハ公訴ノ原因タル事實ニシテ證據ノ湮滅スルキハ私訴ノ原因タル事實モ消滅スヘキハ理ノ然ラシムル處ナリ故ニ私訴ノ名義ヲ用ヒテ公訴ト共ニ裁判ヲ乞ハント欲セハ其手續ニ至リテハ其命運ハ公訴ノ命運ト起度ヲ共ニスルモノト云フヘシ假令被害者無能力ニシテ自ラ私權利ヲ行使スルヲ得サル

場合ニ於ルモ又公訴ニ附帶セシテ單獨ノ私訴トシテ訴訟ヲ起シタル場合ト雖公訴ノ時効ト其期間ヲ同フスルモノナリ然リト雖公訴ニ付已ニ刑ノ言渡アルニ於テハ判決ノ効力ニヨリ證據ノ湮滅スルコトナクシテ其言渡書ヲ以テ犯罪ノ事實ト犯人トヲ證明スルコトヲ得レハ容易ニ被害者ノ訴權ヲ消滅セシムヘキニアラス故ニ民法ノ時効ニ至ラサル限りハ被害者ハ犯罪ヲ原由トシテ損害ノ賠償贖物ノ返還ヲ請求スル事ヲ得ヘシ是第二項ノ設ケアル所以ナリ第一項無能力トハ未成年者民事上ノ禁治産準禁治産及ヒ刑事上禁治産(民法人事編第二百二十二條第二百二十三條第二百三十六條參看)者等ヲ云フ是等ノ者ニ對シテハ民事ノ時効ハ其進行ヲ停止スルコトアレハ(民法證據編第三百三十一條參看)私訴ニ於テモ無能力者ニハ矢張此規定ヲ適用スルモノナラント疑ヒ又公訴ニ附帶セサル私訴ハ通常民事ノ時効ニ依ルモノナリト誤解スルモノナキヲ保セサレ

ハ本條ハ特ニ被害者ノ無能力ナルトキモ公訴ニ附帶セサルトキモ公訴ノ時効ト共ニ成就スルコトヲ掲ケタルモノナリ

第十條 公訴ノ時効ハ犯罪ノ日ヨリ其期間ヲ起算ス 但繼續犯罪ニ付テハ其最終ノ日ヨリ起算ス

(解釋)本條ハ公訴私訴ノ時効ヲ起算スル初日ヲ定メタルモノナリ本來時効ハ時ノ經過ニヨリ人ノ記憶ヲモ失セシメ證據ヲ湮滅スルニ基クモノナレハ其事ノ成リシ日ヨリ其期限ヲ起算スルハ固ヨリ當然ノコトナリ故ニ即時犯ナレハ其日ヨリ起算シ繼續犯ナレハ最終ノ日ヨリ起算スルモノナリ
即時犯ト繼續犯ノ區別ヲ說カンニ即時犯トハ能動ノ所爲ヲ以テ直チニ犯罪ヲ結了スルモノニシテ例ヘハ竊盜殺傷放火等ノ犯罪ノ如シ又繼續犯トハ能動ノ所爲カ繼續シテ終始犯罪ノ効果ヲ爲スモノニシテ例ヘハ内乱ノ罪兇徒聚集ノ罪私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ所有ス

ル罪不正ノ度量衡ヲ所有スル罪等ノ如シ爰ニ注意スヘキハ能動ノ所爲ト云フコトナリ之ハ犯罪トナル第一着ノ所爲即チ他人ノ物品ヲ竊取スルカ如キチ云ヒ其竊取シタル物品ヲ所有スルカ如キ所動ノ所爲チ云フニアラス此繼續犯ニ性質ニヨルモノト方法即チ意思ニヨル繼續犯ノ別アレバ今之ヲ略ス

第十一條 時効ハ起訴豫審又ハ公判ノ手續アリタルニ因リ其期間ノ經過ヲ中斷ス其未タ發覺セサル正犯從犯及ヒ民事担当者ニ付テモ亦同シ
時効ノ經過ヲ中斷シタルトキハ起訴又ハ公判ノ手續ヲ止メタルヨリ更ニ其期間ヲ起算ス

(解釋)本條ハ公訴私訴ヲ中斷スル條件ヲ定メタルモノナリ凡ソ時効ハ其進行中ハ安穩ニ經過セサルヘカラストハ法律ノ原則ナリ故ニ安穩ナラスシテ其進行ノ中途ニ於テ故障ヲ生スルトキハ

其利益タル經過セシ時間ハ中間ニ於テ斷絶セラレ、ナリ
本條ニ時効ハ起訴豫審又ハ公訴ノ手續アリタルニ因リ其期間ノ經過ヲ中斷ストアリ是レ社會ノ記憶ヲ温メ證據ヲ尋ルノ所爲ニシテ安穩ヲ妨グルモノナレハ時効ノ進行ヲ中斷スルコト固ヨリ其理ニ當レリ未タ發見セサル正犯從犯民事担当者ニ迄モ中斷ノ效力ヲ及ボスハ本來時効ノ中斷ハ其事件ニ關リテ其人ニ係ラサルヲ以テナリ正犯從犯ノ事ハ載セテ刑法ニ在リ民事担当者ハ私訴ニ對シ其賠償返還ヲ負担スルモノニシテ未成年者ノ父白痴瘋癲者ノ保管人雇人ノ所爲ニ付其雇主命令シタル事件ニ關シテノミ責ヲ負フ等ヲ云フ

第二項ハ別段ノ解説ヲ要セスト雖爰ニ中斷ト停止トノ區別ニ付聊カ説明スヘシ即チ中斷トハ經過シタル時間ノ利益ヲ打テ消スモノニシテ中斷後新ニ期間ノ計算ヲ起スモノナリ停止ハ之ト異ナリ其

停止シタル期間ヲ差引ノミニテ前ノ經過シタル時間ハ後ノ經過シタル時間ニ通算スルモノトス(証據編第二百二十九條)然ルニ本條ノ規定ハ中斷法ナレハ中斷中ハ勿論其以前經過ノ時間ハ打消トナリ起訴豫審又ハ公訴ノ手續止ミタル日ヨリ更ニ其期間ヲ起算スルモノナリ

(治罪法ニハ時効ヲ中斷スルトキハ其期間ノ二倍ヲ超過スヘカラストノ規定ナリシカ本法ニハ之ヲ廢セラレタリ是重モナル改正ノ第一ナリ)

第十二條 起訴豫審又ハ公判ノ手續其規定ニ背キタルニ因リ無効ニ屬スルトキハ時効ノ經過ヲ中斷スル効ナカル可シ但裁判所ノ管轄違ナルニ因リ其手續無効ニ屬スルトキハ此限ニ在ラス

(解釋)本條ハ手續ノ無効ニ屬スルトキハ中斷モ亦無効ニ屬スルコト

チ示スモノナリ

時効ノ進行ヲ中斷スルニハ其中斷スル手續ハ能力アル有効ナルモノナラサルヘカラス起訴豫審又ハ公判ノ手續ニ時効ヲ中斷スル本ナリ中斷セラレ、時効ハ未ナリ其本ニシテ無効ニ販スルトキハ末ハ從テ無効トナルハ當然ノ理ナリ然レモ此手續ノ無効ニ直接ノモノアリ一概ニ論スヘカラス即チ訴訟手續其規則ニ違フチ以テ無効ナルハ是レ直接ニ其訴訟手續ノ成立セサルモノニシテ最初ヨリ手續ナキト一般ナリト雖裁判所ノ管轄違ナルニ因テ其手續ノ無効ニ屬スル場合ハ是間接ノモノニシテ訴訟手續ハ毫モ規則ニ違フコトナキモ單ニ管轄ヲ異ニスルヨリ無効トナス迄ナレハ法律ハ時効ヲ中斷スルノ効力アリト定ム又訴訟手續ハ最初ヨリ有効無効ハ法律ノ明示スル處ナレハ之ニ從フコト難カラスト雖裁判管轄ハ實地ニ於テ其規則ニ從フニ難ク又其何レノ裁判所カ管轄ナルヤ不明ナル

トキハ申請シテ指定ヲ請フコトアリテ最初ニハ之ヲ知ル能ハサル
場合アリ是等ノ事情モ亦管轄違ノ故ヲ以テ時効中斷ノ無効トセサ
ルノ一原由ナルヘシ

第十三條 被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ

於テ其訴訟ノ原由告訴人告發人又ハ民事原告人ノ惡意
若クハ重過失ニ出テタルトキハ是等ノ者ニ對シ損害ノ
償ヲ要ムルコトヲ得

被告人刑ノ言渡ヲ受ケタリト雖告訴人告發人又ハ民事
原告人ヨリ惡意若クハ重過失ニ因リ其犯罪ニ付キ過實
ノ申立ヲ爲シタルトキ亦同シ

民事原告人上訴ヲ爲シ敗訴シタルトキハ被告人其上訴
ニ因リ生シタル損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得

要償ノ訴ハ本案ノ判決アルマテ何時ニテモ其裁判所ニ
之ヲ爲スユトヲ得

(解釋)何人ト雖故意若クハ過失ニ因テ人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ之
カ賠償ノ責ニ任セサルヘカラサルハ民法ノ原則ナリ本條ハ其原則
ヲ適用スル場合ヲ定タルモノナリ

刑事被告人トシテ權利ヲ拘束セラレタルトキ其訴訟ノ原由カ自ラ
嫌疑ヲ招キタルカ又ハ嫌疑ノ焼点ニ當リシ等ノ事情ニ出テタルト
キハ假令ヒ免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受クルト雖自ラ招クノ災止ムヲ
得サルノ災難ニシテ敢テ人ヲ咎ムヘキニアラス然レモ其訴訟ノ原
由ニシテ告訴人告發人又ハ民事原告人ノ惡意ニ出ルカ又ハ重過失
ニ基クトキハ是等ノモノニ對シ損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得又是等
ノ者モ必ス其責メニ任セサルヘカラサルハ條理ノ然ラシムル處ナ
リ

本條ハ被告人ニ要償ノ訴權アル三個ノ場合ヲ示シタリ即チ一ハ第一項ニ記載スル犯罪タル原由ノ存在セサルヲ惡意若クハ重過失ニ原由シテ訴ヲ受ケタルトキニハ第二項ニ記載スル犯罪タル原由ハ存スルモ其犯罪ニ付キ實ニ過キタル申立アリタルトキニハ第三項ニ記載スル民事原告人上訴ヲ爲シ敗訴シタル場合ニ於テ被告人之カ爲メ損害ヲ受ケタルトキ是ナリ此損害ニ付要償ノ訴權アルコトハ民法ノ認ムル所ナレハ特ニ爰ニ明示スルヲ要セズ然レモ之ヲ明示シタルハ告訴人告發人民事原告人ノ惡意重過失等ノ顯著ナル加害ニ出ルカ又ハ民事原告人上訴ヲ爲シ敗訴シ爲メニ損害ヲ生シタル等其原由明カナル場合ニ限り公訴ノ裁判所ニ訴フルコトヲ許シ輕過失ノ如キハ通常民事ノ裁判ニアラサレハ訴フルコトヲ許サ、ルカ如キ制限ヲ付シタルモノナリ蓋シ此制限アル輕過失ハ之ヲ審理スルニハ探証ノ点ニ於ルモ至難ニシテ勢ヒ迅速ノ處分ニ出ル能

ハサレハ公訴ノ裁判ヲ妨クルノ虞アルヲ以テナラン
 訴訟ノ原由カ訴人ノ惡意ニ出ツルトハ謬言ノ場合ヲ云ヒ重過失トハ過失ノ著明ナル粗忽者モ尙ホ之ヲ爲サ、ルカ如キ大粗忽ニシテ今一步ヲ進ムルトキハ惡意ヲ想像セラル、カ如キヲ云フ第四項ノ本案ノ裁判トハ本案前ノ裁判即チ豫審ニ對スルモノナレハ第一審ノ裁判ヲ云フナルヘシト雖第二審ニ於ルモ覆審ノ裁判ナレハ矢張第四條ト同シク第二審ノ判決アルマテト見テ可ナラン

第十四條 被告人無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖判事檢事裁判所書記執達吏司法警察官又ハ巡查憲兵卒ニ對シ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス但是等ノ官吏被告人ニ對シ故意ヲ以テ損害ヲ加ヘ又ハ刑法ニ定メタル罪ヲ犯シタル場合ハ此限ニ在ラス

(解釋)本條ハ損害要償ニ付對手人ニ關スル取除法ヲ設ケタルモノナ
 リ
 凡ソ何人ヲ論セス己レノ所爲ヲ以テ他人ニ損害ヲ被ラシメタルト
 キハ之カ賠償ノ責ニ任セサル可カラサルコトハ前條ニ解説スル處
 ナリ然リト雖世間萬事一利アレハ又必ス一害之ニ伴フハ數ノ免レ
 サル處一人ノ私益ヲ保護セントスレハ終ニ公ケノ利益ヲ害スルニ
 至リ公益ヲ害スルノ甚シキ國家一日モ安穩ナルコト能ハス故ニ如
 此場合ニ於テハ其小ナルモノヲ捨テ、其大ナルモノヲ取ラサルヲ
 得サレハ一人ノ私益ハ勢ヒ公益ノ爲メ犧牲タラサルヘカラサルハ
 亦止ヲ得サルニ出ルナリ
 本條ニ掲ケタル官吏ハ其職權ニ大小輕重ノ別アリト雖悉ク法律ノ
 命令スル處ニ從ヒ司法事務ニ預ルモノナレハ職務上巡查憲兵卒ハ
 現行ノ犯人ハ逮捕セサルヘカラス司法警察官ハ犯罪ノ搜查ヲ爲サ

、ルヘカラス檢事ハ起訴ノ手續ヲ爲サ、ルヘカラス判事ハ判決ヲ
 爲サ、ルヘカラス書記執達吏ハ書類ヲ作り之カ送達ヲ爲シ若クハ
 裁判ノ執行ヲ爲サ、ルヘカラサル責務アルモノニシテ若シ之ヲ行
 ハサルトキハ重キハ刑法ノ制裁アリ輕キハ服務紀律アリテ其責罰
 ナ免レス然ルニ是等ノ官吏ト雖人事ノ弱點其職務ヲ盡スニ急ナル
 爲メ時ニ或ハ過失ナキヲ保セス然ルヲ其過失アル毎ニ一々損害ノ
 責メニ任スルモノトスレハ身ヲ殺シテ仁ヲ爲スト云フ仁人義士ニ
 非ラサル以上ハ勢ヒ要償ノ責メヲ免レシコトヲ圖リ判事ハ濫ニ被
 告人ニ便ナル處分ヲ與ヘ又ハ務メテ羅織隱蔽スル所アリテ其實
 ナ失ハシメ檢事ハ公訴ヲ遲延シ司法警察官ハ顧慮躊躇シテ犯罪ノ
 搜查ヲ爲サ、ルニ至リ其弊ノ寄ル處豈ニ一人ノ私益ヲ害スルノ比
 ニアラシヤ是本條例外法ノ設ケアル所以ナリ
 然リト雖以上ノ官吏カ故意ヲ以テ損害ヲ加フルカ又ハ刑法ニ定メ

タル罪ヲ犯シタルトキハ固ヨリ是等ノ官吏ニ對シ要償ノ權アルコト無論ナリ巡查憲兵卒ノ明文ハ舊治罪法ニ見サル處ニシテ往々學者ノ議論ヲ招キシカ本法ニハ斯ク規定セラレタレハ從ツテ議論モ消滅スヘシ又執達吏ハ裁判所構成法發布爾來特設ニ係ルモノナリ執達吏ナルモノハ元來公吏ト稱スヘキモノニシテ官吏ニアラサルコトハ第二十條ノ解ニ於テ詳カニスヘシ

第十五條

此法律ニ於テ期間ヲ計算スルニ時ヲ以テスルモノハ即時ヨリ起算シ日ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セス若シ最終ノ日体假ニ當ルトキハ期間ニ算入ス可カラズ但時効ノ期間ハ此限ニ在ラス一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從テ

(解釋)本條ハ此刑事訴訟法ニ於テ期間ヲ計算スル一切ノ方法即チ起訴豫審公判上訴時効等ニ關スル期間ノ計算方法ヲ定メタルモノナリ

刑事訴訟法ニ定ムル期間ノ概シテ短キハ起訴裁判ヲ遅延セシムル弊ヲ防カンカ爲ナリ然レモ其事ノ切迫ナルハ亦實際ニ不便ナルヲ以テ此ニ其便否利害ヲ考ヘ而シテ期間計算ノ方法猶豫期間等ノ規則ヲ定メラレシナリ凡ソ期間ヲ計算スルニ時ヲ以テスルモノハ即時ヨリ起算スルニヨリ論ナシト雖日ヲ以テスルモノハ其初日ヲ算入セサル所以ハ大約子初日ハ已ニ其幾分ヲ經過シタルモノナレハナリ時効ニ付初日ヲ算入スルハ時ノ經過ハ其犯時ニ進行チ初ムルモノナルト又一ハ被告人ノ利益ヲ欲シテナリ又最終ノ日体假ニ當ルトキ其体假ノ日ハ期間ニ算入セサルハ此日ハ官民共ニ其業ヲ行ハサル日ナレハナリ而シテ所謂体假ノ日トハ

常例ト臨時トテ分タス一切ノ休暇ヲ指シタルモノナラン是レ其業ヲ執ラサルニ至ツテ同一ナルヲ以テナリ

第十六條 此法律ニ定メタル期間ニハ海陸路八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ加フ八里ニ滿サルモノト雖三里以上ナルトキ亦同シ

島嶼又ハ外國ニ付テハ裁判所ニ於テ特ニ附加期限ヲ定ムルコトヲ得

(解釋)本條ハ海陸路程ニ付猶豫期間ヲ定メタルモノナリ
訴訟關係人 第十八條ニ從ヒ裁判所々在地ニ假住所ヲ定ムルカ故ニ本條ノ要用ヲ見ルコトナキニ似タリト雖亦必スナキヲ保スヘカラス殊ニ証人鑑定人等呼出ノ場合ニ必要ナルコトアリ
島嶼又ハ外國ニ付テハ八里毎ニ一日ノ猶豫ニテハ實際ニ不都合ナ

ル場合アルヘシ即チ一日ニ數回ノ定時航海ノ便アル處ハ第一項ヲ適用シテ敢テ差支ナシト雖場所ニヨリテハ一週間ニ一回若クハ二週間ニ一回等ノ往復ニスキサル航路アルヘク又全ク不定時ニテ其時日ノ定マラサル處ナシトモ限ラサレハ夫等ハ宜シク其地方々々ノ裁判所ニ於テ適度ノ猶豫ヲ規定スルヲ以テ最モ宜キ得タルモノトス是第二項ノ主旨ナルヘシ
(治罪法ニハ陸路トノミアリテ島嶼外國ノ路程ノ猶豫ハ特別法ヲ以テ之ヲ定ムトアリシカ本法ニハ前掲ノ如ク定メラレタリ改正ノ重モナル第二ナリ)

第十七條 此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付定メタル期間ヲ經過シタルトキハ特別ノ場合ヲ除ク外其訴訟ヲ爲ス權ヲ失フ可シ

(解釋)本條ハ訴訟ニ付定メタル期間ヲ經過シタルトキハ其訴訟ヲ爲

ス權利ヲ失フヘキコトヲ定メタリ
 本條ニ所謂訴訟トハ上訴及ヒ時効ニ對スル期間ニシテ是等期間ニ係ル規則ハ濫訴ヲ防キ事ノ錯雜セサランコトヲ欲スルト又一ハ裁判終局ノ期ヲ限定シタルモノナレハ敢テ犯シ違フコトヲ許サス故ニ若シ其期間ヲ經過スルニ於テハ其行フヘキノ權利ヲ失シハム是事理ニ於テ然ラサルヲ得サルナリ期間ヲ經過スルモ尙ホ其權利ヲ行フコトヲ許サハ法律ニ定メタル期間ハ終ニ徒法ニ屬スヘシ期間ハ固ト公益ニ基キ定メタル者ナレハ決シテ違フコトヲ許サ、ルナリ然レモ第七十三條ノ被告人ニ送達スヘキ決定ニハ其決定ニ對シ抗告ヲ爲ステ得ヘキコト及ヒ其期間ヲ記載スヘキニ其記載ナキトキ又ハ第二百四十七條ノ天災其他避クヘカラサル事變ノ爲メ上訴期間ヲ經過シタルトキ等特別ノ場合ニ於テハ一ハ書類ノ無効ナルカ爲メ權利ヲ失ハス一ハ其事由ヲ疏明シテ期間ノ經過ニ由リ失

ヒタル權利ヲ回復スルコトヲ得ヘキナリ

第十八條

訴訟關係人ハ裁判所々在ノ地ニ住セサルトキ

ハ其地ニ假住所ヲ定メ裁判所ニ届出ヘシ否ラサルトキハ書類ノ送達ナシト雖モ異議ヲ申立ルコトヲ得ス

(解釋)本條ハ書類送達ノ場所ヲ定メタルモノナリ

訴訟關係人ハ裁判所々在ノ地ニ住セルトキハ其地ニ假住所ヲ定メ裁判所ニ届ケ置カサルヘカラヌ裁判所々在地ノ本住所及ヒ假住所ハ即チ書類ヲ送達スル場所ナリ本條ノ主旨ハ裁判事務ヲ敏活ナラシメ又訴訟入費ヲ減セシメ而シテ書類ノ送達ヲ正確ナラシメンカ爲メナリ但シ假住所ハ書類ノ送達ヲ受クルカ爲メニ定メ置ク迄ノモノナレハ本人ノ現住スルト否トニ關係ナカルヘシ若シ本條ノ規定ニ違フトキハ書類ノ送達ナシト雖異議ヲ申立ルコトヲ得サルハ是一ノ制裁ヲ設ケタルモノナリ

訴訟關係人トハ訴訟ノ利害得失ニ關係スルモノニシテ訴訟ニ付法律上關係ト云フ無形ノ繫鎖ヲ受クル人ノ謂ナリ即チ檢事被告人民事原告人民事担当者等ナリ

裁判所々在在所トハ種々異議アレトモ裁判所現在ノ土地ヲ云ヒ其管轄内ヲ云フニアラサルヘシ

第十九條 書類ノ送達ハ此法律ニ於テ別ニ規定アラサル

トキハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

(解釋)本條ハ書類送達ハ民事訴訟法ヲ準用スヘキコトヲ定メタルモノナリ

此刑事訴訟法ニ於テ規定アルモノハ第七十六條第三項ニ召喚狀ハ執達吏ヲシテ被告人ニ送達セシメ勾引狀勾留狀ハ巡查憲兵卒ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ定メ其他執行ノ手續及ヒ時ト處ト事柄ニ付テノ執行ノ方法等ハ第七十七條乃至第八十四條ニ規定スル處

ナリ然レモ其他ノ書類ニ至ツテハ唯送達スヘキコトヲ示シテ何人カ如何ナル手續ニヨリ送達スヘキヤハ規定セズ故ニ此等ノ場合ニ於テハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用スルモノトセリ詳クハ民事訴訟法第一編第三章第二節送達ノ部ニ就テ看ルヘシ

(治罪法ニハ別ニ規則アラサルトキハ書記其送達書ヲ作り書記局ノ使丁ヲシテ之ヲ送達セシムトアリ本法ニハ民事訴訟法ノ規則ヲ準用スルコト、セラレタリ是重ナル改正ノ第三ナリ)

第二十條 官吏公吏ノ作ル可キ書類ハ其所属官署ノ印ヲ用ヒ年月日及ヒ場所ヲ記載シテ署名捺印シ每葉ニ契印ス可シ若シ官署公署ノ印ヲ用ユルコト能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ記載ス可シ此規定ニ背キタルトキハ其書類ノ効ナカル可シ

官吏公吏ニ非サル者ノ作ル可キ書類ニハ本人自ラ署名捺印ス可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ官吏公吏ノ面前ニ於テ作りタル場合ヲ除ク外立會人代署シ其事由ヲ記載ス可シ

(解釋)本條ハ訴訟書類ヲ作ル法式ヲ定メタルモノナリ

此法式ヲ定メタルハ書類ヲ正確ナラシメ信用ヲ保維セシカ爲メニシテ官吏公吏ノ作ル可キ書類ニ其所属官署公署ノ印ヲ用ユルハ其職務ヲ以テ作りタルモノナルコトヲ明ニシ年月日ヲ記スルハ官吏公吏ノ在職タルト否トヲ明カニシ又時効ノ中斷數罪俱發再犯等ノ場合ニモ其限界ニ付關係アルモノナリ場所ハ職務ノ管轄ニ關シ署名捺印ハ其誰レタルヲ明ニシ書類ニ付職務ノ責任ヲ確保スルモノタリ毎葉ニ契印スルハ紙數ヲ増減シ又ハ用紙ヲ變換スルコトナカラシメシカ爲メナリ但官署公署ノ印ハ署外ニ於テハ用ユルコト能

ハサル場合アルヲ以テ此時ハ其事由ヲ記載スレハ足レリト此規則ニ背クトキハ書類ハ當ニ無効トナルヘキナリ
官吏公吏ニ非ラサル者即チ官吏公吏ニシテ其職務外ニ於テ刑事訴訟ニ關スル者及ヒ尋常人民ノ訴訟ニ關シテ作ル可キ書類ハ本人自ラ署名捺印セサルヘアラス若シ能ハサルトキハ官吏公吏ノ面前ニ於テ作りタル場合ヲ除ク外立會人代署シ其事由ヲ記載ス可キモノトス

官吏公吏ノ面前ニ於テ書類ヲ作ルトハ其官吏ニ於テ之ヲ代書シ而シテ共ニ署名捺印スルヲ云フ又立會人代署シ云云ハ其書面ヲ代書スルモノカ姓名モ代書シ以テ其事由ヲ認メ自分モ共ニ署名捺印シ裁判所ニ向ツテハ立會人トナリ其書面ノ正實ヲ保証スヘキモノナリ若シ是等ノ手續ナキトキハ無名書ニシテ書面ヲ構成セサルモノニ付當然無効ノモノトナルヘシ

官吏公吏ノ別ニ聊カ辨明スヘキモノアリ官吏トハ政府ノ代權者トナリ其權利一部ノ執行ヲ司ルモノニシテ専ラ官ノ俸給ニヨリテ衣食スルモノヲ云ヒ即チ判事檢事書記警視警部憲兵士官等ノ如シ又公吏トハ法律ニ從ヒ人民ノ撰舉ニヨリ又ハ政府ノ認可ヲ受ケ政府ノ委任事務若クハ民治事務又ハ官民間ニ關スル公ケノ事務ヲ取扱ヒ必スシモ俸給ニ依ラサルモノヲ云ヒ即チ市町村長登記所ノ吏員公証人執達吏等ノ如シ

第二十一條 官吏其他何人ニ限ラス訴訟ニ關スル書類ノ原本正本又ハ謄本ヲ作りタルニ付キ文字ヲ改竄ス可カラス若シ挿入削除及ヒ欄外ノ記入アルトキハ之ヲ認印ス可シ文字ヲ削除スルトキハ之ヲ讀得ヘキ爲メ字体ヲ存シ其數ヲ記載ス可シ此規定ニ背キタルトキハ其變更

増減ノ効ナカル可シ

(解釋)本條モ書類ヲ作ル方式ノ一ニシテ偽書ヲ防キ又無益ニ淨書スル等ノ煩ヲ省ク爲メ定メタルモノナリ
謄ニ文字ヲ増減變更スルヲ許サハ容易ニ詐僞ヲ行フヘシ又誤寫アル毎ニ新ニ其書面ヲ改作セシメハ其煩勞ニ堪ユサルヘシ故ニ法律ハ此等ノ弊ヲ避クルカ爲メ錯誤アルトキハ其文字ヲ増減變更スルコトヲ許セリ然レモ此場合ニ於テハ必ス其事實ヲ證明セサルヘカラサルモノトセリ由之官吏ノ作ルト人民ノ作ルトヲ問ハス又書類ノ原本タリ正本タリ謄本タルニ別ナク總テ訴訟書類ハ其文字ヲ改シ又ハ塗抹スルコトヲ許サス若シ削除行側ノ挿入欄外ノ記入等アルトキハ之ニ認印シ削除ニ係ルモノハ讀ミ得ヘキ様字體ヲ保存シ其削除ノ字數ヲ書面中ニ記載シ置キ以テ其正確ナルコトヲ證明スヘシ此規定ニ背キタルトキハ其變更増減ニ關スル部分丈ノ効力

ヲ失フモノトセリ

此原本ハ唯一ノモノナリ例ハ判決ヲ言渡シタル原書ニシテ裁判所ニ保存スルモノナ云ヒ又正本ハ其言渡書ト同一ノモノニシテ檢事及ヒ被告人民事原告人等へ下付スルモノナ云フ又謄本ハ正本ヨリ謄寫シタルモノナリ

第二十二條 此法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニモ之ヲ適用ス頒布以前ニ爲シタル手續當時ノ法律ニ背カサルトキハ其効アリトス

(解釋)本條ハ此刑事訴訟法已往ノ犯罪ニモ適用スヘキコトヲ示セリ
法例第二條ニ曰法律ハ既往ニ遡ル効力ヲ有セスト是法律ハ既往ニ遡ラサル原則ヲ定メタルモノナリ然ラハ本條ニ此法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニモ亦之ヲ適用スト規定セシハ此原則ニ背クモノニアラサルカ請フ左ニ之ヲ論セン

本條規定タル處ハ頒布以前ノ犯罪ニシテ未タ終局ニ至ラサルモノニハ此刑事訴訟法ノ手續ヲ適用シ其以前ニ爲シタル訴訟手續カ當時ノ法律ニ背カサルモノナルトキハ有効ナリトス略言スレハ此法律執行力ヲ生シタル爾後ノ訴訟手續ニ向ツテハ悉ク適用スト云フニスキス然レバ彼ノ未必條件ヲ付シタル契約ノ既往ニ遡リテ効力ヲ有スルカ如ク之ヲ解除スレハ曾テ最初ヨリ契約ナキト一般ニシテ又停止ヲ解クトキハ契約ノ當時已ニ權利ヲ移シタルモノトシ曾テ停止セサリシト同様ニテ其効力既往ニ遡ルモノトハ大ニ異ルヘシ故ニ既往ノ事件ニシテ結末ヲ告ケサルモノニ對シ將來ニ向ツテ之ヲ適用スルト既往ニ遡及シテ効力ヲ有セシムルモノトハ宜シク區別スヘキナリ然リト雖刑法ノ如ク罪ト刑トヲ定メ其他權利義務ノ得喪ニ關スル法律ニシテ之ヲ既往ノ專柄ニ適用スルトキハ其既得權ヲ害スルカ如キモノニ至リテハ之ヲ適用スルヲ得ス然ルニ刑

事訴訟法ハ裁判管轄訴訟手續ヲ規定シタルモノニシテ被告人ハ其
手續法ニ對シ唯々希望スヘキ事ハアルヘケレト未タ其權利ヲ生セ
スレハ其頒布以前ニ係ル犯罪ニ適用スルモ決シテ既得ノ權ヲ妨タ
ルコトナシ又立法官ハ規則ヲ改正シテ社會ノ需用ヲ満足セシムル
ノ權利アリ又義務アルヲ以テ舊法ハ或ハ誤謬アリ弊害アリ時勢ニ
適セサル等ノコトアレハ之ヲ改正シテ善良適當ノモノト爲サハル
ヘカラス善良適當ニシテ既得權ニ害ナキモノハ速ニ實施シテ誤謬
ヲ正シ弊害ヲ救ヒ時勢ニ適應セシムヘシ是刑事訴訟法ハ既往ノ犯
罪ニモ亦適用スト定メタル所以ナリ

第二十三條 此法律ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ處分ス
可キ者ニ適用スルコトヲ得ス

(解釋)本條ハ刑事訴訟法ト陸海軍治罪法トハ全ク關係セサルモノナ
ルコトヲ示ス迄ノモノニシテ別ニ解説スルノ要ナシ

第二十四條 此法律ニ於テ親屬ト稱スルハ刑法第百十四
條第百十五條ノ規定ニ從フ

(解釋)本條モ亦刑法ノ親屬例ニ依ルヘキコトヲ示スノミノモノナレ
ハ更ニ解説ヲ要セス

第二編 裁判所

(解釋)裁判所トハ訴訟ノ管轄審理ヲ爲シ之ニ決定ヲ與フル官衙ヲ云
フ此官衙ハ訴訟ヲ裁判スル唯一ノ機關ナリ故ニ訴訟ノ法規ヲ定メ
ントスルニハ先ツ此官衙ノ講成及ヒ權限ノコトヲ定メサルヘガラ
ス然レトモ此官衙ハ民刑兩種ノ事件ヲ併セテ審理裁斷スル所ナルカ
故ニ之ヲ刑事訴訟法ニ定ムルハ勿論民事訴訟法中ニモ定ムヘキモ
ノニアラス之ヲ以テ我立法者ハ別ニ裁判所構成法ナルモノヲ發布
シ其中ニ之ヲ規定セリ故ニ此刑事訴訟法中ニハ是等ノ規定ヲ除キ

タリ(是レ重モナル改正ノ第四ナリ)

第一章 裁判所ノ管轄

(解釋)裁判管轄トハ其事件ヲ取扱及ヒ終結スルノ資格即チ能力ヲ云フ苟モ裁判所ニシテ管轄權ヲ有スル以上ハ一方ニ於テハ其訴訟事件ヲ取扱ヒ及ヒ終結ノ權利ヲ有シ又一方ニ於テハ應ニ之ヲ爲サルヘカラサル義務ヲ負フモノナリ

刑事裁判所ノ管轄ハ之ヲ區別スルトキハ四個ノ基本ニ因ルモノトス即チ第一事件ニ關スル管轄第二土地ニ關スル管轄第三身分ニ關スル管轄第四裁判ニヨリテ定マル管轄是ナリ而シテ第一ノ管轄ハ專ラ裁判所構義法ニ定メ第二ノ管轄ハ專ラ此法律ニ定メ第三第四ハ双方ニ之カ規定アリ相準用シテ完備スルモノト云ヘシ

第二十五條 犯罪ノ種類ニ關スル裁判所ノ管轄ハ裁判所構成法ノ規定ニ從フ

管轄ヲ異ニスル數個ノ犯罪ニ付キ同時ニ同一ノ被告人ニ對シ訴アリタルトキハ上級ノ裁判所併セテ之ヲ管轄ス

(解釋)本條ハ先キニ述ヘタル事件ニ關スル管轄ト數個ノ犯罪ニ付キ同一ノ被告人ニ對シ公訴ノアリタルトキノ管轄ヲ定メタルモノナリ
犯罪ノ種類ニ關スル裁判所ノ管轄トハ裁判所構成法第十六條ノ區裁判所ノ裁判權ハ第一違警罪第二本刑五十圓以下ノ罰金ヲ加付シ若クハ附加セサル二月以下ノ禁錮又ハ單ニ百圓以下ノ罰金ニ該ル輕罪(全條第三ニ地方裁判所若クハ其支部ノ檢事局ヨリ區裁判所へ移付シタル輕罪事件ヲ裁判スル場合アレハ略之)全法第二十七條地方裁判所ノ裁判權ハ第一第一審トシテ區裁判所ノ權限并ニ大審院ノ特別權限ニ屬セサル刑事訴訟第二ニ第二審トシテ控訴抗告ニ對

スル裁判權アレモ略之第五十條大審院ノ特別裁判權ハ第一審ニシテ終審トシテ刑法第二編第一章及ヒ第二章ニ掲ケタル重罪并ニ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮又ハ更ニ重キ刑ニ處スヘキモノ、豫審及裁判ト規定シタルモノヲ云フ

管轄ヲ異ニスル數個ノ犯罪ニ付同時ニ同一ノ被告人ニ對シ訴アリタルトキハ例ヘハ一人カ甲地ニ於テ重罪ヲ犯シ乙丙丁ノ三ヶ所ニ於テ各輕罪ヲ犯シ同時ニ上ノ犯罪事件ニ付公訴起リタルトキハ甲地ヲ管轄スル地方裁判所併セテ之ヲ裁判スルカ如キ場合ナリ

(犯罪ノ種類ニ關スル管轄ハ裁判所構義法ノ規定ニ從フコトトセラレタリ是重モナル改正ノ第五ナリ)

第二十六條 同等ノ裁判所ニ於テハ犯罪ノ地又ハ被告人所在ノ地ノ裁判所ヲ以テ豫審及ヒ公判ノ管轄ナリトス

(解釋)本條ハ犯罪ノ地又ハ被告人所在ノ地ヲ以テ豫審公判ノ裁判管

轄ト爲スコトヲ定メタリ

犯罪ノ地ハ證據物件証人等證據ノ最モ多ク存在シ又多分被告人モ其地ニ在ルヲ以テ犯罪ノ地ヲ裁判管轄ト定ムルハ當然ナリ又被告人其地ヲ去リタル場合ニ於テハ所在ノ地ヲ以テ裁判管轄トスルハ是レ便宜ヲ考ヘ費用ヲ省クノ点ト亦被告人ノ所在地ニハ多少證據物件ノ存在スルコトアルニヨリ斯ク定メラレタルナリ但此被告人所在地トハ被告人逮捕ノ地ト被告人ノ住所トヲ包含スルコトヲ記臆スヘシ

犯罪ノ地トハ如何ナル場所ヲ指スヤニ付テハ種々議論アリト雖予ノ信スル處ハ犯罪ノ地トハ犯罪タル所爲ノ範圍内ニ屬スル總テノ動作ヲ行ヒタル地ヲ以テ悉ク犯罪ノ地ト爲スヘシ故ニ例ヘハ甲裁判所ノ管轄地内ヨリ乙裁判所ノ管轄地内ニ在ル人ヲ銃殺シタルトキハ甲乙丙裁判所共ニ管轄權ヲ有ス又人ヲ殺スノ目的ヲ以テ數個

ノ裁判所ノ管轄地内ニ連續シテ數回ノ毆打ヲ爲シ而シテ死ニ致シタル場合ノ如キモ各毆打ノ地ハ悉ク殺人罪ヲ行ヒタル地ナレハ其地ノ裁判所ハ皆管轄裁判所ナリトス是他ナシ一犯罪ノ所爲ハ數個ノ所爲ヨリ成立ツベキモノナルヲ以テ此數個ノ所爲ノ顯ハレタル地ハ皆犯罪ノ地タルヲ免レサレハナリ

本條ノ適用ハ數個ノ裁判所ハ悉ク同等ナル場合ニ在リ若シ其内上級ノ裁判所ノ管轄權ニ屬スル犯罪アルトキハ前條第二項ニヨリ上級ノ裁判所併セテ之ヲ管轄スルモノトス

(治罪法ニハ犯罪ノ地ノ裁判所ヲ以テ管轄トセシカ本法ニハ被告人所在ノ地ノ裁判所モ亦管轄トセラレタリ是重モナル改正ノ第六ナリ

第二十七條 數個ノ裁判所ノ管轄ナル場合ニ於テハ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管

轄ナリトス

(解釋)本條ハ管轄裁判所數個アルモハ最初ニ豫審公判ノ手續ニ着手シタル裁判所カ併セテ管轄スヘキコトヲ定メタリ

本條ハ數罪俱發繼續犯罪等ニシテ前條ニヨリ數個ノ同等ナル裁判所カ各裁判權ヲ有スル場合ニ當リ適用スヘキ規定ニシテ即チ此時ハ其最初ニ豫審若クハ公判ノ手續ヲ爲シタル裁判所ヲ以テ管轄セシムルナリ蓋シ最初ニ着手シタル裁判所ハ後レテ着手シタルモノヨリ通例其取調モ届キ又其事務モ速カニ舉ルヘキカ故ナルヘシ然リト雖其何レカ先キニ着手セシヤチ知ルコトヲ得サル場合ニ在リテハ第三十一條ニヨリテ管轄裁判所ノ指定ヲ申請スヘキモノトス

第二十八條 從犯ハ正犯ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

數箇ノ裁判所ノ管轄ニ属スル正犯數名アルトキハ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

裁判所構成法第五十條第二號ニ記載シタル皇族ノ犯罪ニ付テハ其正從犯ハ身分ノ如何ヲ問ハス大審院ニ於テ之ヲ管轄ス

(解釋)本條第一項ハ從ハ主ニ從フノ原則ヲ示シ第二項ハ數人共犯ノ場合ニ於ル管轄ヲ定メ第三項ハ身分ニヨリ特別ノ管轄ヲ定メタルモノナリ

第一項ハ主ハ從ヲ併ワスル原則ニヨリ正犯ヲ管轄スル裁判所ハ其從犯ニ付キ裁判權ヲ有スルハ當然ニシテ亦實際ニ至リテモ其本ヲ調フル裁判所ニハ其末ニ關スル證據モ備フルヘク又未ヲ調フルト

キハ其本ニ係ル事件ノ情况ヲ得ル等ノ便アルヘシ
第二項ハ兇徒聚衆等ノ場合ニ於テ其事件カ數箇ノ裁判所管内ニ跨リテ數箇ノ裁判所ノ管轄ニ属スル正犯數名アルトキハ前條ト同シク最初ニ豫審又ハ公判ノ手續ニ取掛リタル裁判所ヲ以テ其管轄トスルモノナリ是レ其事件ハ固ヨリ同一ニシテ各裁判所ニ分テ處分スルトキハ或ハ彼レニ重ク是ニ輕クシテ處分ノ權衡ヲ失フコトアリ又ハ證據ヲ採リ實狀ヲ盡スニ至リテモ不便ナルコト多カルヘシ故ニ法律ハ之ヲ一個ノ裁判所ニ併セテ裁判權ヲ有セシムルナリ
本項ハ前條ト主旨ヲ同フシテ事柄ヲ異ニス即チ前條ハ一人ニテ犯シタル罪カ數箇ノ裁判所ノ管轄ニ属スル場合ニシテ本項ハ數人ノ犯シタル罪カ數箇ノ裁判所ノ管轄スル場合ナリトス
第三項ハ專ラ被告人ノ身分ニヨリ管轄ヲ定メタルモノニシテ第一項ノ變例ナリ即チ皇族ノ犯罪ニ付テハ假令ヒ他ノ共犯カ通常人ニ

シテ從犯タルトキニ於ルモ大審院ノ特別裁判權ニ因リ豫審及ヒ公判共ニ其管轄ニ屬スルモノナリ

第二十九條 外國ニ在テ犯シタル罪本邦ノ法律ニ依リ處斷ス可キモノニシテ内地ニ於テ被告人ヲ逮捕シタルトキハ逮捕ノ地ノ裁判ヲ以テ其管轄ナリトス又外國ヨリ送致シタルトキハ送致ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

關席判決ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ被告人最終ノ住所ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

(解釋)本條ハ外國ニ於テ犯シタル罪ヲ日本ノ法律ニ依リ處斷スヘキトキノ管轄ヲ定メタルモノナリ
故ニ本條ヲ解釋セシニハ外國ニ於テ犯シタル罪ハ罰スルコトヲ得

ルヤ否ヲ定メサルヘカラス
法律ハ土地ト人民トヲ支配スルモノナリ凡ソ一國ニシテ苟モ不羈獨立ノ主權アラシニハ其範圍内ニ於テ行ハレタル犯罪ハ何人ヲ問ハズ之ヲ處罰スルノ權ヲ有スヘキモノナルヲ明カニシテ犯罪ノ地ハ犯罪ヲ管轄スヘシ故ニ内國人ハ勿論外國人ト雖之ヲ本邦ノ法律ニ問ハサルヲ得ス未タ吾邦ハ治外法權ノ撤去ナキヲ以テ悉ク然ル能ハス又假令ヒ外國ニ於テ行フタル犯罪ト雖モ日本ノ人民ハ日本ノ法律ニ服従スルノ義務アルハ舊ニ日本國ニ住スルトキニ止マラス外國ニ在ル中ト雖モ亦此義務アリ故ニ我法律ヲ以テ其罪ヲ問フコトヲ得ヘシ又外國人國外ニ於テ行フタル犯罪ニシテ我國若クハ我國人ヲ害スルモ外國法律ノ之ヲ保護スルモノナキトキハ我法律ヲ以テ之ヲ罰スルコトヲ得然レモ何レモ犯罪ノ地ハ外國ナルニヨリ進ンテ逮捕スル能ハス又外國ニ我法律ヲ及ホスヲ得サレハ犯人

本國へ飯り來ルカ若クハ日本管内ニ渡航スルカ又ハ外國政府ニ照會シテ引渡ヲ請求スルニ非サレハ如何トモスル能ハス即チ本條ハ其犯人ノ我管内ニ入りタルトキハ逮捕ノ地ト送致ノ地トチ其裁判管轄ナリト規定シタルモノナリ

外國ヨリ送致スルトハ外國政府若クハ日本國ノ公使領事等ヨリ送附スルヲ云フ

第二項ハ欠席裁判ノ場合ニ係リ而シテ欠席裁判ノトキハ最後ノ住所ヲ以テ管轄トス此住所トハ實地本人ノ住居シタル所ヲ云ヒ特リ本籍ノ地ノミニアラサルヘシ

第三十條 海船内ノ犯罪ニ付テハ定繫港又ハ犯罪後最初

ニ著船シタル地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

(解釋)本條ハ海船内ノ犯罪ニ關スル管轄ヲ定メタルモノナリ

海船内ノ犯罪ニ付テハ恰モ外國ニ於テ行フタル犯罪ト同シク其何

レノ裁判所ヲ以テ管轄トスルカハ法律ノ規定ニヨラサレハ之ヲ知ル能ハス故ニ本條ハ定繫港即チ船藉アル港ト又犯罪アリタル後初メ寄港セシ地ノ裁判所ヲ以テ管轄ト定メラレタリ海船トハ河船ニ對スル稱ニシテ河船内ニ關スル犯罪ノ如キハ固ヨリ第二十六條アルヲ以テ更ニ規定ヲ要セスト雖遠洋ハ何レノ國ニモ属セス亦沼海ニ於ルモ其管轄ノ境界ヲ定ムルハ實ニ困難ナリ因テ本條ノ特定ヲ要スル所以ナリ

(治罪法ニハ商船内ノ犯罪ニ付テノ管轄ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ムトアリシカ本法ニハ其管轄ヲ規定セリ是重モナル改正ノ第七ナリ)

第三十一條 管轄裁判所ノ指定ニ付キ申請ヲ爲ス場合及

ヒ其決定ヲ爲ス裁判所ハ裁判所構成法第十條ノ規定ニ

從フ

(解釋)本條ハ管轄ノ指定ヲ申請スル場合ト決定スル裁判所トヲ示ス
手續ヲ定メタルモスナリ

前條迄ニ裁判所ノ管轄ニ關スル事ヲ規定シタリト雖時ニ或ハ其權
限アル裁判所ニ於テ法律上ノ理由急避除斥等ヲ云フ若クハ特別ノ
事件(戰爭水難等ノ事情ヲ云フ)ニ因リ裁判權ヲ行フコトヲ得サルコ
トアリ又裁判所管轄ノ區域ノ境界明確ナラサルカ爲メ其權限ニ付
疑ヲ生スルコトアリ又二個以上ノ裁判所ニ於テ裁判權ヲ互有スル
コトアリ其他管轄ニ付不明ノコトアリテ何レヲ管轄トモ定メ難キ場
合ナキニアラス此場合ニ於テハ即チ裁判所構成法第十條ニ從ヒ檢
事其他訴訟關係人ハ其關係アル各裁判所ヲ併セテ之ヲ管轄スル直
近ノ上級裁判所ニ申請シテ其管轄裁判所ノ指定ヲ請フヲ得ヘシ又
其上級ノ裁判所ハ必ス本件ヲ裁判スル權アルハ何レノ裁判所ナル
カヲ決定スヘキモノナリ之ヲ管轄裁判所ノ指定ト云フ

第三十二條 管轄裁判所ノ指定ニ付テノ申請ハ檢事其他

訴訟關係人ヨリ之ヲ爲スコトヲ得

大審院ニ於テ管轄裁判所ヲ指定ス可キ場合ニ於テハ檢
事總長ハ司法大臣ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其申請ヲ
爲スコトヲ得

(解釋)本條管轄裁判所ノ指定ニ付キ申請ヲ爲スコトヲ得ヘキ人ヲ定
メタリ

本條第一項ハ控訴院以下ノ裁判所ニ管轄裁判所ノ指定ヲ申請スル
場合ノ規定ニシテ第二項ハ大審院ニ其指定ヲ申請スル場合ヲ規定
シタルモノナリ本條ニハ其申請ハ何レモ之ヲ爲スコトヲ得ト定メ
タリ然リト雖余ノ訴訟關係人ハ之ヲ爲サ、ルモ敢テ其責ナシト雖
檢事若クハ檢事總長ニ至リテハ必ス之ヲ爲サ、ルヘカラス何トナ

レハ本來裁判權ノ抵觸スル場合ニハ二様アリ一ハ消極的ニシテ一事件ニ就キ數個ノ裁判所悉ク其管轄ニアラスト決定シタル時又一ハ積極的ニシテ數個ノ裁判所悉ク其管轄ナリト決定シタル時ナリトス若シ如此場合ニ於テ何人モ管轄裁判所ノ指定ヲ請フモノナキ時ハ終ニ管轄裁判所ナキ爲メ事件ヲ曠廢スルカ又ハ數個ノ裁判所各自己ノ管轄ナリトシテ權限ノ諍議ヲ爲シ其局事務ノ延滞ヲ來スニアラサレハ一事件ニ付數個ノ裁判ヲ爲スノ奇果ヲ見ルニ至レハナリ

大審院ニ於テ管轄裁判所ノ指定ヲ爲ス場合ハ以上述フルカ如ク何レノ裁判所モ管轄ニアラスト決定スルカ何レモ管轄ナリト主張シ纏マリノ付カサルトキニ之ヲ爲スモノニシテ此時ハ檢事總長ハ司法大臣ノ命ニ因リ又ハ自己ノ職權ヲ以テ其指定ヲ請フモノトス

第三十三條 管轄裁判所ノ指定ニ付キ申請ヲ爲サントス

ル者ハ申請ニ付キ管轄權ヲ有スル裁判所ニ其趣意書ヲ差出ス可シ

裁判所ハ書類ニ依リ其申請ヲ決定ス可シ

(解釋)本條ハ管轄裁判所指定ヲ請フ手續及ヒ決定ノ式ヲ定メタルモノニシテ別ニ解説ヲ要セス

第三十四條 犯罪ノ性質被告人ノ身分員數地方ノ民心其他重大ナル事情ニ由リ裁判ニ對シ紛擾又ハ危險ヲ生スル恐アルトキハ公安ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スユトヲ得

(解釋)本條ハ公ケノ安寧ヲ維持スル爲メ裁判所管轄ヲ移ス場合ヲ規定セシモノナリ

犯罪ノ性質トハ國事犯ノ如キヲ云ヒ被告人ノ身トハ其土地ニテ名

望アルモノ、類チ云フ尙ホ被告人ノ員數地方ノ民心其他重大ナル事情ニ由リ裁判ニ對シ紛擾ヲ生シ或ハ危險ノ恐アルトキハ他ノ同等ナル裁判所ニ其事件ヲ移スコトヲ得蓋シ地方ノ民心動搖スルトキハ裁判官ニ影響ヲ及ボシ民心ヲシテ靜穩ナラシメント欲シ其裁判ヲ枉ケ勢ヒ公平ナル裁判ヲ爲ス能サルノ恐レアルト又力メテ公平ノ裁判ヲ爲サントスレハ民心動搖シテ一地方ノ安寧ニ關係アルヲ以テ其紛擾危險ノ指點タル裁判事件ヲ他ノ安穩ナル裁判所ニ移シ以テ公平ヲ保チ安寧ヲ持スルノ主旨ニヨリ本條ノ設ケアル所以ナルヘシ

第三十五條 公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ハ司法大臣ノ命ニ因リ大審院檢事總長ヨリ其院ニ之ヲ爲ス可シ
大審院ニ於テハ訴訟關係人ノ申立ヲ聽クユトナク申請

ヲ決定ス可シ

(解釋)本條ハ公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ヲ爲ス人ト之ヲ決定スル手續ヲ定メタルモノナリ

本條ノ申請タル最モ重大ナル事件ニ付キ司法大臣ノ命令ニ因リ檢事總長ヨリ大審院ニ之ヲ爲スコト、定メラレタリ故ニ他ノ檢事長又ハ檢事ハ此申請ヲ爲ス權利ナシト雖檢事長檢事ハ共ニ公益ノ保護官ナレハ是等ノ事情アルトキハ迅カニ司法大臣ニ具申セサルヘカラサルモノトス

大審院ニ於テハ訴訟關係人ノ申立ヲ聽クコトナク檢事總長ノ申請ノミニ依リ其決定ヲ爲スハ是等ノ事件タル通常ノ訴訟ト異リ最モ公益ニ關シ迅速ヲ要スルハ勿論他ノ意見如何ニ拘ラサルモノニ付斯ク特別ノ規則ヲ定メラレタルモノナリ

第三十六條 被告人ノ身分地方ノ民心又ハ訴訟ノ模様ニ

因り裁判ノ公平ヲ維持スルコト能ハサル恐アルトキハ
嫌疑ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スコトヲ
得

(解釋)本條ハ裁判ノ公平ヲ失スルノ嫌疑アル爲メ裁判管轄ヲ移ス場
合ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ第二十四條ノ如ク地方一般ノ民心動搖スル場合ト異リ只脅
迫其他ノ手段等ニヨリ裁判ニ惡ムヘキ影響ヲ及ホシ裁判官ノ獨立
ヲ妨ケ裁判ノ公平ヲ維持スル能ハサルカ如キ傾キアル場合ニ其嫌
疑ヲ避クル爲メ裁判管轄ヲ移スモノナリ
威權アル官吏宗教上高等ノ地位ヲ占ムル者巨富豪農等ガ被告事件
ノ訟訴ニ關スルトキハ時ニ或ハ裁判ニ影響ヲ及ホスノ嫌ヒアルヘ
シ又刑法第二百六十七條以下ニ定メタル人生一日モ欠クヘカラサ
ル飲食料ノ價直ヲ昂低スルノ詐欺ヲ行ヒシニ因リ訴訟起リ而シテ

其地方ノ住民多クハ物價ノ變更ニ因リ生計ニ迫リ爲メニ被告人ヲ
疾惡スルコト甚シキ場合ニ於ルモ亦裁判ニ影響シテ不公平ニ陥ラ
シムルノ疑ヒ起ルコトアルヘシ故ニ是等ノ嫌疑アルニ於テハ實際
サルコトナキモ裁判ノ信用ヲ失ハサランカ爲メ其事件ヲ他ノ同等
ナル裁判所ニ移スコトヲ得ヘシ

第三十七條 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ハ管轄裁判
所ノ檢事其他訴訟關係人ヨリ上級裁判所ニ之ヲ爲スコ
トヲ得

民事原告人嫌疑アル裁判所ニ私訴ヲ爲シ又被告人其裁
判所ニ於テ異議ノ申立ナクシテ本案ニ付キ辨論ヲ爲シ
タルトキハ前項ノ專請ヲ爲スコトヲ得ス

(解釋)本條ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ申請ヲ爲ス人ヲ示シ又其

申請ニ付制限ヲ定メタリ

此申請ハ通常ノ場合ト同シク訴訟關係人ヨリ爲スモノニシテ公安保持ノ場合ノ如ク檢事總長ニ限ラレサルナリ他ナシ公安ノ場合ハ民心激昂シテ紛擾ヲ來タシ其事件タル専ラ公益ニ關スルモノナレトモ嫌疑ハ訴訟關係人ノ身上若クハ事件ノ多少民心ニ感動ヲ與フル等ヨリ生シテ多ク私益ニ關係スルヲ以テナリ

民事原告人嫌疑アル裁判所ニ私訴ヲ爲シ又ハ被告人異議ノ中立ナク辨論ヲ爲シタルトキハ其申請ヲ爲スコトヲ許サス是レ嫌疑アレハ始メヨリ申請ヲ爲スヘキニ然ラスシテ既ニ甘ンシテ私訴ヲ爲シ辨論迄モ爲シタルニ於テハ其事件ノ裁判ハ毫モ嫌疑ナシト法律上ノ推定ニ出ツルモノニテ尙ホ此場合ニモ申請ヲ許ストスレハ爲メニ種々ナル弊害ノ醸スコトアルヲ以テナリ

第三十八條 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ヲ爲スニハ

其趣意書二通ヲ原裁判所ニ差出ス可シ裁判所書記ハ速ニ一通ヲ相手方ニ送達シ相手方其送達アリタルヨリ三日内ニ答辨書ヲ差出スコトヲ得
裁判所ニ於テ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ其訴訟手續ヲ停止ス可シ

(解釋)本條ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ヲ爲ス手續ト又申請ヲ受ケタルトキハ裁判所ハ訴訟手續ヲ停止スヘキコトヲ定メタリ
此申請ヲ決定スルハ上級裁判所ノ權限ニ屬スレハ之ヲ受ケタル原裁判所ハ其申請ニ關スル書類ヲ權限アル上級裁判所ニ送致セサルヘカラス

第三十九條 前條ノ申請ニ付キ管轄權ヲ有スル裁判所ニ於テハ書類ニ依リ其申請ヲ決定ス可シ

〔解釋〕本條ハ申請ニ付キ管轄權アル裁判所カ判決スヘキ規則ニシテ別ニ解説スヘキモノナシ

〔以上第三十一條乃至第三十九條ノ規則ハ治罪法第五編第三章第四章ニ規定スル處ナリシヲ本法ニハ第二編ニ移シ編纂ノ順序ヲ改メラレタリ是レ重モナル改正ノ第八ナリ〕

第一章 裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避回避

〔解釋〕凡ソ人ハ親疎ニヨリ愛憎アルハ情ノ免レサル處ナリ假令ヒ中ニハ正廉潔白私情ノ爲メ敢テ志操ヲ狂シルカ如キコトヲ爲サ、ルモノナキニアラサルヘシト雖是等ハ實ニ非凡ノ人ニテ通常人ニ望ムヘキニアラス故ニ法律ニ於テハ人ハ皆有情ナリト見テ其弊害ノ豫防ヲ爲スコトヲ怠ルヘカラサルナリ之ヲ以テ我刑事訴訟法ハ此ニ裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避回避ニ關スル規則ヲ設ケ以テ其弊害ヲ防遏セリ

除斥トハ裁判所職員法律ノ規定ニヨリ訴訟事件ニ關係スルコトヲ禁セラレタルモノヲ云ヒ忌避トハ裁判所職員カ法律ニヨリ除斥セラル、場合若クハ其他偏頗ノ裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足ル可キ情況アルトキ訴訟關係人ヨリ其職員ノ職務ノ執行ヨリ脱センコトヲ求ムルヲ云ヒ回避トハ以上ノ場合ニ於テ裁判所職員自テ職務ノ執行ヲ避クルヲ云フ要スルニ人情ニ逆ラハスシテ偏頗ノ處置ヲ防キ裁判ノ公平ヲ保持スルニ外ナラス

第四十條 判事ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ依リ其職務ノ執

行ヨリ除斥セラル可シ

- 第一 判事被害者ナルトキ
- 第二 判事又ハ其配偶者ト被告人被害者又ハ是等ノ者ノ配偶者ト親屬ナルトキ但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シ

タルトキト雖モ亦同シ

第三 判事其事件ニ付キ証人鑑定人ト爲リタルトキ又ハ被告人若クハ被害者ノ法律上代理人ナルトキ

第四 判事其事件ノ豫審終結ニ干與シ又ハ不服ヲ申立テラレ裁判ノ前審ニ干與シタルトキ

(解釋)本條ハ判事法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラルル場合ヲ規定セリ

第一判事被害者ナルトキハ人ハ自ラ已レノ事件ヲ裁判スルコトヲ得ストノ原則ニ基キ法律上除斥セラル、ハ當然ノ理ナリ

第二判事ト被告人被害者又ハ是等ノ者ノ配偶者ト親屬ナルトキ又ハ其判事ノ配偶者即チ妻ト以上ノ者ト親屬ナルトキハ勿論姻族ニシテ已ニ婚姻ノ解除セラレ姻族ノ關係止ミタルトキト雖除斥ノ理

由トナルハ專テ人情ニ基クモノナリ此刑事訴訟法ニ於テ親屬ト稱スルハ刑法ノ親屬例ニ從フコト第二十四條ニ規定スル處ナリ然ルニ刑法ノ親屬例ニハ親屬ト姻族トノ區別判明セス故ニ民法人事編第二十四條ニ依リテ之カ解ヲ爲スヘシ即チ全條ニ以テ姻族トハ婚姻ニ因リ夫婦ノ一方ト其配偶者ノ親屬トノ間ニ生スル關係ヲ云フト又其第二頂ニ然レトモ婦ノ夫家ニ於ル又夫ノ婦家ニ於ル尊屬親トノ關係ハ親屬ニ準ス又第十九條ニ親屬トハ血統ノ相聯結スル者ノ關係ヲ云フト以テ姻族親屬ノ何タルヲ知ルヘシ
第三判事其事件ニ付キ証人鑑定人トナリタルトキ又ハ被告人若クハ被害者ノ後見人等ニシテ法律ノ代理人ナルトキハ是亦人ハ自ラ已ノ事件ヲ裁判スルコトヲ得ストノ理由ニ因リ除斥セラルヘキナリ

第四判事其事件ノ豫審終結ニ干與シタルトキ又ハ先キニ審理シタ

ル事件ニ付不服アリ上訴アリタルトキモ除斥セラルヘシ是レ異種ノ裁判ハ又其人ヲ異ニセサルヘカラストノ原則ニ基ケルナリ抑々豫審ト公判ト前審ノ裁判ト上訴ノ裁判トハ二者互ニ其性質ヲ異ニスヘキモノナレハ若シ豫審ヲ爲シタル判事ヲシテ公判ヲ爲サシメ前審ノ裁判ヲ爲シタル判事ヲシテ上訴ノ裁判ヲ爲サシムルコトアラハ初メヨリ公判若クハ上訴ノ制度ヲ設ケサルニ若カサルヘシ何トナレハ先キニ豫審又ハ前審ニ於テ判決シタル裁判ノ理由ハ後ニ公判又ハ上訴ノ才判ニ於テ之ヲ變スルコトナカルヘキハ其常態ナルノミナラス僅々ノ時日ヲ輕過シテ前後矛盾ノ裁判ヲ下スハ自ラ己レノ不注意ヲ證明スルニ等シケレハナリ

第四十一條 判事法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セララル、場合及ヒ偏頗ナル裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足ル可キ情况アル場合ニ於テハ檢事其他訴訟關係人ヨリ之ヲ忌

避スルコトヲ得

(解釋)本條ハ訴訟關係人ヨリ判事ヲ忌避スル場合ヲ示シタリ法律ニ於テ職務ノ執行ヨリ除斥セラルトキトハ前條ノ場合ヲ云ヒ偏頗ナル裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足ル可キ情况トハ判事又ハ其配偶者等ニ於テ被害者被告人又ハ是等ノ者ノ親屬ヨリ賄賂ハ勿論其他ノ贈物ヲ收受シ又ハ聽許シタル場合等ヲ云フ

第四十二條 忌避ノ申請及ヒ其裁判ニ付テハ民事訴訟法第三十四條乃至三十八條ノ規定ニ從フ

(解釋)忌避ノ申請及ヒ裁判手續ハ民事訴訟法第三十四條ヨリ第三十八條迄ヲ適用スルコト、定メラレタリ詳クハ同法ニ就テ看ルヘシ

第四十三條 忌避ノ申請アリタルトキハ公判ニ付テハ其辨論ヲ中止スヘシ豫審ニ付テハ仍ホ其處分ヲ繼續ス可

シ但急速ヲ要セサル事件ニ付テハ豫審手續ヲ中止スル
コトヲ得

(解釋)本條ハ忌避ノ申請アリタルトキ公判ノ辨論豫審手續ヲ中止ス
ヘキコトヲ定メタリ
忌避ノ申請アリシトキハ公判ノ辨論ハ之ヲ中止セサルヘカラサル
ハ其辨論ヲ繼續スルトキハ訴訟關係人ノ疑惑ヲシテ益々深カラシ
メ又忌避ノ申請理由アリト決定シタル場合ニ於テハ公判ノ手續ハ
悉ク無効トナルヲ以テ到底無益ニ屬スレハナリ之ニ反シテ豫審ノ
手續ハ專ラ證據ヲ蒐集スル下ヲ調ヘニ過キサレハ若シ之ヲ中止ス
ルトキハ或ハ證據ヲ散逸シ又ハ被告人更ラニ時日ヲ遷延シテ證據
ノ湮滅ヲ謀ルカ如キコトナキヲ保セサレハ假令ヒ忌避ノ申請アル
モ其手續ハ中止セサルナリ然レモ其事件ニシテ是等ノ虞ナク亦急
速ヲ要セスト見込タル者ハ其手續ヲ中止スルモ敢テ妨ケナキナリ

第四十四條 判事自ラ第四十條ニ定メタル原由アルコト
ヲ認メ又ハ回避ス可キモノト思料シタルトキハ忌避申
請ノ管轄裁判所ニ回避ノ申立ヲ爲ス可シ
其裁判所ニ於テハ回避ノ申立ヲ裁判ス

(解釋)本條ハ判事自ラ法律上除斥セラルヘキ原由ヲ認メ回避スヘキ
コト及ヒ其申請ノ管轄裁判所并ニ其決定ノコトヲ定メタリ
判事自ラ法律上除斥セラルヘキ原由ヲ認メタルトキハ回避ノ申請
ヲ爲スハ當然ノコトニシテ更ニ解說ヲ俟タス

第四十五條 本章ノ規程ハ裁判所書記ニモ之ヲ準用ス但
其裁判ハ書記所屬ノ裁判所之ヲ爲ス可シ

(解釋)本條ハ本章即チ裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避回避ノ規程ハ裁判
所書記ニモ準用スルコトヲ定メタリ

裁判權ノ執行ニ任スル職員ハ判事書記及ヒ執達吏ナリ然レモ執達吏ハ單ニ書類送達及ヒ裁判執行ニ關シテ職務ヲ行ヒ裁判ニハ敢テ干與セサルモノナリ裁判ニ干與スルハ特リ判事書記ナリトス故ニ判事書記ニ付テ固ヨリ本章ノ規程ヲ適用スト雖執達吏ニハ關係セサルナリ

又檢事ハ刑事ノ原告官ニシテ裁判權ヲ行フモノニアラス又檢事ハ被告人ノ敵手ナルヲ以テ若シ忌避スルコトヲ許トキハ自己ニ利益ヲ益ノ論告アル毎ニ忌避ノ申請ヲ爲シ其極弊ヲ見ルノミニテ利益ヲ見ルコトナカルヘシ併シ法律ニハ明文ナキモ檢事自ラ第四十條ノ原由ヲ認メタルトキハ回避スルハ敢テ妨ケナカルヘシ

(本章ハ治罪法第二百三十七條乃至第二百四十五條ニ規定アリシテ本法ニハ爰ニ裁判所職員ノ除斥忌避回避トシテ特ニ一章ヲ設ケラレタリ是重モナル改正ノ第九十ナリ)

第三編 犯罪ノ搜查起訴及ヒ豫審

(解釋)本編ニハ搜查起訴及ヒ豫審ノ規則ヲ掲ケタリ第一編ニハ刑事訴訟法全体ニ關スル總テノ規則ヲ定メ第二編ニハ裁判所ノ管轄裁判官ノ訴訟ニ付テノ能力不能力ヲ定メタルモノニシテ第二編迄ハ言ハ、訴訟手續ヲ爲ス道具建ナリ本編ハ即チ其實際ノ活用ヲ規定シタルモノナリ殊ニ此搜查起訴豫審ノ手續ハ刑事訴訟法中骨髓トモ稱スヘキ最モ緊必ノ規則ナリ何トナレハ此手續アリテ初メテ他ノ訴訟手續ハ存在スルモノニシテ若シ此手續ナキトキハ裁判アルヘキ筈ナケレハ從ツテ裁判執行モナク亦刑法ノ適用モナキニ至レハナリ

第一章 搜查

(解釋)搜查トハ公訴ヲ起スニ必要ナル證據ヲ蒐集スル準備ノ手續ヲ云フ故ニ證據ノ蒐集ニ關セサル準備ハ決シテ之ヲ搜查ト云コトナ

得ス捜査ノ權ハ犯罪ト其發生ノ時チ同ラズ然レモ捜査チ行フ義務
ハ犯罪ノアリタルコトヲ認知シタル時ヨリ發生スルモノトス

第四十六條 檢事ハ後ニ記載シタル告訴告發現行犯其他

ノ原由ニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思
料シタルトキハ其證據及ヒ犯人ヲ搜查ス可シ

(解釋)本條及ヒ次條ハ搜查ニ關スル大体ノ規則ヲ定メタルモノナリ
告訴告發現行犯ノ解ハ之ヲ後チニ譲リ其他ノ原由トハ自首風評等
ヲ云ヒ認知トハ確實ニ知り得タルコトニシテ思料トハ僅カニ其事
アルヲ推察スルノミニテ未タ確實ナラサルモノヲ云フ證據トハ證
據徵憑ノ略語ニテ其意味廣ク犯罪事件ニ付有形無形ヲ問ハス多少
據リ所アル物件ハ皆證據ノ内ニ包含スルモノナリ尙此事ハ豫審證
據ノ部ニ於テ解説スヘシ

第四十七條 警視總監及ヒ地方長官ハ各其管轄地内ニ於

テ司法警察官トシテ犯罪ヲ搜查スルニ付キ地方裁判所
檢事ト同一ノ權ヲ有ス但東京府知事ハ此限ニ在ラス
左ニ記載シタル官吏公吏ハ檢事ノ補佐トシテ其指揮ヲ
受ケテ司法警察官トシテ犯罪ヲ搜查ス可シ

第一警視警部長警部警部補

第二憲兵將校下士

第三島司

第四郡長

第五林務官

第六市町村長

(解釋)本條ハ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査スヘキ官吏公吏ヲ定メタルモノナリ本條ニ付テハ別ニ解説スルモノナシ

第四十八條 海船内ノ犯罪ニ付テハ船長ニ於テ司法警察ノ職務ヲ行フ可シ

(解釋)本條ハ海船内ノ犯罪ハ船長ニ於テ司法警察ノ職務即チ犯罪ノ捜査ヲ行フヘキコトヲ定メタリ

海船内ニ付テハ船長ニ犯罪捜査ノ任ヲ負ハシムルハ證據ノ蒐集犯人ノ逮捕等ノ便宜ヨリ出テシモノナリ

(治罪法ニハ檢事ノ補佐トシテ其指揮ヲ受ケ司法警察ノ職務ヲ行フモノハ警視警部區長郡長治安裁判所判事警部ノアラサル地ノ局長トアリシカ本法ニハ前條及ヒ本條ノ如ク規定セラレタリ是重モナル改正ノ第十ナリ

第一節 告訴及ヒ告發

(解釋)告訴告發トハ共ニ官ノ捜査權ヲ行ハシメ若クハ犯者ヲ處分セシムルノ故意ヲ以テ進ンテ犯者ノ所爲ヲ檢事又ハ司法警察官ニ報告スルモノヲ云フ而シテ被害者ノ名義ヲ以テスルヲ告訴ト云ヒ第三者ヨリ之ヲ爲スヲ告發ト云フ故ニ告訴告發ハ右ノ故意アラシトシ要ス否ラサレハ單ニ檢事又ハ司法警察官ノ思料ニ依リテ犯罪ヲ認知スルモノタルニ過キサルヘシ又進ンテ報告ハ犯罪ノ所爲タル事實ノミニ止メ決シテ自己ノ意見ニ屬セサランコトヲ必要トスルナリ

告發ニハ犯罪アルコトヲ官吏公吏職務上ニテ認知シテ爲スモノト又官吏公吏ノ其職務外又ハ常人ノ認知シテ之レヲ爲スモノトノ別アリ此事ハ後チニ詳カナリ

第四十九條 何人ニ限ラス犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ犯罪ノ地若クハ被告人所在ノ地ノ檢事又ハ司法警察

官ニ告訴スルユトテ得

司法警察官告訴ヲ受ケタルトキハ違警罪ニ付キ即決ヲ

爲ス場合ヲ除ク外速カニ其書類ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ

送致ス可シ

(解釋)本條ハ告訴スル人ト告訴ヲ爲スルキ官吏ト及ヒ之ヲ受ケタル司法警察官ノ處分方ヲ定メタルモノナリ告訴ハ犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者即チ被害者ノ固有ノ權利ニシテ義務ニアラサレハ法律上之ヲ強制スルヲ得ス故ニ訴フルト訴ヘサルハ被害者ノ隨意ナリ犯罪ノ地若シハ被告人所在ノ地ハ檢事司法警察官職務上管轄權アル土地ヲ指シタルモノナリ
檢事告訴ヲ受ケタルトキハ犯罪ノ搜查ヲ爲シ本編第二章ニ定ムル規則ニ依リ起訴ノ手續ヲ爲シ司法警察官告訴ヲ受ケタルトキハ其

事件違警罪ニシテ即決例ニ依リ即決スヘキモノヲ除キ他ノ事件ハ總テ其書類ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致セサルヘカラス但以上ハ通常非現行犯ノ場合ニ適用スル規則ニシテ現行犯ノ特別ノ場合ニ於テハ第四百四十七條ニ從ヒ司法警察官ト雖假リニ豫審處分ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

(治罪法ニハ豫審判事ニモ告訴告發ヲ爲シ又訴ヲ爲スコトヲ許シタリ然ルニ本法ニハ之ヲ省キタリ是レ重モナル改正ノ第十一ナリ)

第五十條 告訴人ニ成ル可ク其證據及ヒ事實參考ト爲ル

可キユトテ申立ツ可シ

(解釋)本條ハ告訴人ニ負ハシムルニ證據及ヒ事實參考トナルヘキ事柄ヲ申立ツヘキ義務ヲ以テセリ

告訴ハ犯罪ノ報告ニ過キスト雖其犯罪タル所爲ヲ報告スルニハ其所爲ヲ証明スル丈ノ陳述ヲ爲サ、ルヘカラサルハ報告者當然ノ義

務ナリ然レモ之ヲ申立ツルヲ證人トシテ陳述スルニアラサレハ別ニ宣誓等ノ式ヲ用ユルモノニアラス

第五十一條 告訴ハ告訴人ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

又告訴ハ口述ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得其告訴ヲ受ケタル官吏ハ調書ヲ作り告訴人ニ之ヲ讀聞カセ共ニ署名捺印ス可シ若シ告訴人署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

(解釋)本條ハ告訴ノ式ヲ定メタルモノナリ
告訴ハ本來本人ノ署名捺印シタル書面ヲ以テスル正則ナリ是レ他ナシ署名捺印ナキモノハ書面ヲ構成セサレハ一ノ反故ニ過キス又告訴人ハ其事柄疑問ニ出ツルカ過實ノ申立ナルトキハ刑法ノ責任

及ヒ損害賠償ノ責任等アルカ故ナリ又口述ヲ以テス告訴ヲ爲シタル場合ニ於テモ之ヲ受ケタル官吏ハ必ス正式ニ依リ調書ヲ作り其申立ニ關スル責任ヲ定メサルヘカラス如斯シテ其告訴ノ確實ナルヲ得ルモノ爲リ然ルニ告訴ハ第五十四條ニ從ヒ代人ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ許シタリ此場合ニ於テハ其代理タルノ委任狀ナカルヘカヲサルナリ

第五十二條 官吏公吏其職務ヲ行フニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ速カニ其職務ヲ行フ地ノ檢事ニ告發ス可シ

告發ハ官吏公吏ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲シ成ル可ク證據及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物ヲ添フ可シ

(解釋)本條ハ官吏公吏カ職務上發見シタル犯罪ヲ告發スル場合ヲ定

メダリ

官吏公吏ハ其職務上ニ於テ犯罪アルコトヲ認知シタルトキハ固ヨ
 リ犯罪アリト思料シタルトキト雖必ス告發セサルヘカラサル義務
 アリ是常人ト異ル處ナリ然レトモ身分ハ官吏公吏タルモ其職務外
 ニ於テ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ常人ト同一ナリ職務上ニテ
 犯罪ヲ知ルトハ例ヘハ判事カ民事々件ヲ裁判スルニ當リ證書偽造
 等ノ所爲ヲ發見シ又ハ會計検査官カ検査ヲ爲スニ當リ會計上ノ犯
 罪アルコトヲ知リタルトキノ如キ是レナリ官吏公吏カ職務上ノ告
 發ヲ爲スニハ必ス其職務ヲ行フ地ノ檢事ニ之ヲ爲サ、ルヘカラス
 何故ニ司法警察官ニモ告發スルコトヲ許サ、ルカト云フニ檢事ハ
 固ト公訴事件ノ專任者ナルヲ以テ其正當ノ官吏ヲ指シ示シタルモ
 ノナルヘシ

第二項ハ前二條ト其主旨ヲ同フスルヲ以テ別段解説ヲ要セス

第五十三條 何人ニ限ラス犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯

罪アリト思料シタルトキハ第五十條第五十一條ノ規定
 ニ從ヒ其所在ノ地若クハ犯罪ノ地ノ檢事又ハ司法警察
 官ニ告發スルコトヲ得
 告發ヲ受ケタル司法警察官ハ第四十九條ノ規定ニ從ヒ
 其處分ヲ爲ス可シ

(解釋)本條ハ常人カ告發ヲ爲ス場合ヲ定メタリ

本條ハ第四十九條第五十條及ヒ五十一條ト主旨ヲ同フシ只異ル處
 ハ本條ハ告發ニ關スル規定ナレハ之ヲ訴フルモノハ被害者ニアラ
 スシテ他人ナルノ一点ナリ尤モ本條ノ告發者ハ純粹ノ常人ト身分
 ハ官吏ナルモ其職務上ニアラスシテ告發スル者トテ包含スルモノ
 ト知ルヘシ

第五十四條 告訴告發ハ代人ニ委任シテ之ヲ爲スコトヲ

得但第五十二條ノ場合ハ此限ニ在ラス

無能力者ノ告訴ハ法律上代理人之ヲ爲スモ其効アリト

ス

(解釋)本條ハ告訴告發ハ代人ヲ以テ之ヲ爲スヲ得ルコトヲ定メタリ
第一項ハ契約上ノ代人ナルヲ以テ爰ニ聊カ代理ノコトヲ辦スヘシ
代理トハ自己ノ權利内ニシテ爲シ得可キ所ノ事柄ヲシテ他人ニ自
己ニ代リテ爲サシムルヲ云フ故ニ自己ノ權内ニアラサルコトハ代
理セシムル能ハサルノミナラス假令其權内ナルモ其事柄カ自己ニ
於テハ爲シ難キ事情アルモノナルトキハ之ヲ他人ニ代理セシムル
ヲ得サルモノタリ故ニ此告訴告發ニ於ルモ自己ニ其權利アルモノ
ニアラサレハ之ヲ他人ニ委任スルコト能ハス例ヘハ被害者ニアラ

サル者カ告訴ヲ委任シ犯罪アルコトモ知ラサル者カ他人ニ告發ヲ
代理セシムルカ如シ又官吏公吏カ職務上ノ告發ヲ代人ニ委ヌルコ
トヲ得サルモ同一ノ理ニシテ本來職務ハ私有物ニアラサレハ隨意
ニ他人ニ委任シテ行ハシムルコト能ハサレハ但書ヲ以テ官吏公吏
ノ告發ハ代人ヲ許サ、ルコト、定メタリ
第二項ハ未成年者禁治產者白痴瘋癲者浪費者刑法上ノ禁治產者ヲ
包含ス人事編第二百二十二條以下ニ詳カナリ)等ノ不能力者ノ告訴
告發ハ法律上ノ代人即チ未成年者ノ父母後見人禁治產者ノ後見人
等ニ於テ之ヲ爲スモ法律ハ有効トセリ

(明治十四年十二月十八日第七十三號布告ヲ以テ無能力者ハ第一未
丁年者第二白痴瘋癲者第三禁治產者第四有夫ノ婦トシ又法律上ノ
代人ハ第一未丁年者ノ父母親屬後見人第二婦タル者ノ夫第三白痴
瘋癲者ノ保管者第四禁治產者ノ管財人ト定メラレ而シテ民法ハ未

ヲ實行力ヲ生セスト雖余ハ殊更ニ民法ニ依リ説キ爲ス讀者諒焉

第五十五條 告訴告發ハ其取下ヲ爲シ又ハ其申立ヲ變更

スルコトヲ得此場合ト雖第十一條ノ規定ニ從ヒ被告人

ヨリ要償ノ訴ヲ受クルコトアル可シ

(解釋)本條ハ告訴告發ノ願下ヲ爲シ申立ヲ變更スルヲ得ルコトヲ定メタリ

告訴告發ヲ爲スト雖或ハ棄權和解ヲ爲スタメニ之ヲ取下シルコトヲ得ヘク又ハ其前ニ申立テシ處ヲ變更スルコトモ得ヘキナリ此事タル法律上ノ代人モ亦之ヲ爲スヲ得ヘシ然レモ一旦告訴告發ヲ爲シ被告人ニ損害ヲ被ラシメタル以上ハ第十三條ニ依リ要償ノ責ヲ免ル、コトヲ得サルノ理ハ已ニ第十三條ノ解ニ於テ述ヘタレハ爰ニ贊セス

第二節 現行犯罪

(解釋)現行犯非現行犯ノ區別ハ全ク訴訟上急速ノ手續ヲ要スルト否トノ爲メニ設ケタルモノニシテ犯罪ノ所爲ノ性質ニ屬スルモノニアラズ第五十六條ニハ之カ定義ヲ下タシテ(現行犯罪トハ現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル罪ヲ謂フ)トアリ之ヲ換言スレハ犯罪ノ所爲分明ニシテ訴訟ノ手續ヲ行ハントスル者ニ對シ其何人カ犯罪者タルヲ知ルノ證據顯然タルモノヲ云フナリ然レモ第五十七條ニ準現行犯ナルモノヲ設ケテ現行犯ト同シク訴訟上ノ變例ナル急速ノ手續ヲ要スルモノトセリ

第五十六條 現行犯トハ現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル罪ヲ謂フ

(解釋)本條ハ現行犯ノ定義ヲ示シタルモノナリ

現行犯ハ犯罪ノ所爲ノ分明ナランコトヲ要スルナリ是本條ニ「現ニ行ヒ又ハ行ヒ終リタル際」ト云ヒテ犯罪中又ハ犯罪ヲ終ルモ未ダ長

時間ヲ經過セサル場合ヲ明示セル所爲ナルコトヲ示セリ又官吏タルト一般人民タルトヲ問ハス總テ逮捕其他現行犯處分ヲ行ハントスル者ニ對シテ證據顯然タラシコトヲ要ス本條ノ所謂發覺トハ即チ此手續ヲ行ハントスル者ニ發覺スルコトヲ指示セルモノナリ又顯然タルヘキ証跡ハ犯者ノ誰レタルヲ知ルヲ要ス例ヘハ茲ニ人ヲ殺スモノアリテ鮮血淋漓死屍横陳スルモ犯者ハ己ニ逃レ去リタル場合ニ於テハ假令ヒ犯罪ノ證據ハ顯然タルモ犯者ノ誰レタルヲ知ルニ由ナキトキハ現行ノ處分ヲ施スコトヲ得サルヘシ然レトモ我法律ハ又次條ニ記載スル處ヲ以テ現行犯ニ準スルモノトセリ

第五十七條 重罪輕罪ニ付キ左ノ場合ハ現行犯ニ準ス

- 第一 犯人トシテ一人又ハ數人ニ追呼セラレトキ
- 第二 兇器贓物其他ノ物件ヲ携帯シ又ハ身體被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料ス可キトキ

第三 家宅内ニ於テ犯シタル罪ヲ檢證スル爲メ又ハ其犯人ト思料ス可キ者ヲ逮捕スル爲メ戸主ヨリ官吏ニ其處分ヲ求メタルトキ

(解釋)本條ハ準現行犯ノ場合ヲ規定セリ

本條規定スル處ハ犯人タルノ證據前條ニ亞シモノニシテ多クハ過リナカルヘシ又文意モ明瞭ニシテ別段解説ヲ要スルモノナシ第三項ノ戸主トハ民法人事編第二百四十三條ニ戸主トハ一家ノ長ヲ謂ヒ家族トハ戸主ノ配偶者及ヒ其家ニ在ル親族姻族ヲ謂フトアリ然レモ本項ノ戸主ハ必ス家長ニ限ルモノニアラス其家宅ヲ管理スルノ權アルモノハ家族ト雖差支ナカルヘシ又本條ノ規定ハ違警罪ニ付テハ適用セサルコト、知ルヘシ

(治罪法第一百一條第二項ニハ兇器贓物其他犯人ト思料ス可キ物件ヲ携帯シタルトキトアリシカ本條第二項尙ホ身體被服ニ顯著ナル犯

罪ノ痕跡アリ云々ノ事項ヲ増加セラレタリ是重モナル改正ノ第十
二十リ

第五十八條 司法警察官及ヒ巡查憲兵卒其職務ヲ行フニ
當リ重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ現行犯アルコ
トヲ知リタルトキハ令狀ヲ待タスシテ被告人ヲ逮捕ス
可シ

罰金ノ刑ニ該ル可キ輕罪又ハ違警罪ノ現行犯アルコト
ヲ知リタルトキハ被告人ノ氏名住所ヲ問ヒ輕罪ニ付テ
ハ檢事違警罪ニ付テハ即決ヲ爲ス可キ官署ニ告發ス可
シ其氏名住所分明ナラス又ハ逃亡ノ恐アル者ハ檢事若
クハ官署ニ引致スルコトヲ得

(解釋)本條ハ司法警察官巡查憲兵卒等カ現行犯ニ對スル逮捕告發ノ
手續ヲ定メタルモノナリ

體刑(體刑ニ付テハ學者ノ說アリ余モ亦意見アレハ我法律ハ身体自
由ヲ拘束スル刑ヲ體刑ト認メタリ因テ斯ク云フ)ニ該ルヘキ輕罪以
上ノモノニアラサレハ逮捕ヲ許サス財産刑ニ該ルヘキ輕罪又ハ違
警罪等ハ逮捕ヲ許サ、ル法律ノ精神ナリ然レハ住所不明ナルカ又
ハ逃走ノ恐レアル者ハ止ムヲ得ス引致スルコトヲ許セリ令狀トハ
勾引狀勾留狀ヲ云フモノニシテ後チニ詳カナリ

第五十九條 巡查憲兵卒被告人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ
之ヲ司法警察官ニ引致ス可シ
其被告人ヲ受取リタル司法警察官ハ逮捕及ヒ告發ニ付
テノ調書ヲ作ル可シ

[解釋]本條ハ巡查憲兵卒カ現行犯人ヲ逮捕シタルトキノ處分方ヲ定
メタルモノナリ

第一頂ハ巡查憲兵卒ニ其犯人ヲ引渡スヘキ官吏ヲ指示シタルモノ

ニテ別ニ解説スルコトナシ

第二頂ハ其犯人ヲ受取リタル司法警察官ノ處分方ヲ示シタルモノニシテ其調書ヲ作ルハ巡查憲兵卒カ法律ニ從ヒ犯人ヲ逮捕シ及ヒ告發シタルコトノ確實ヲ証明スルカ爲メナリ此場合ニ於テハ司法警察官ハ豫審判事檢事ヨリ先キニ現行犯アルコトヲ知リタルモノナレハ第四百四十七條ノ規則ニ從ヒ假豫審ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス

第六十條 何人ニ限ラス重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ現行犯アル場合ニ於テハ直チニ被告人ヲ逮捕スルコトヲ得

(解釋)本條ハ通常人ニ現行犯逮捕ノ權利ヲ與ヘタルモノナリ常人カ現行犯ヲ逮捕スルハ一ノ權利ニシテ義務ニアラス故ニ第五十八條ノ官吏ノ如ク之ヲ強イヌ只々逮捕ヲ許シタル迄ナリ但シ本

條ノ常人ニハ職務外ノ官吏公吏ヲ包含スルコト論ヲ俟タス

第六十一條 前條ノ場合ニ於テ被告人ヲ逮捕シタル者ハ之ヲ司法警察官ニ引致ス可シ若シ引致スルコトヲ得サルトキハ自己ノ氏名職業住所及ヒ其逮捕ノ事由ヲ陳述シ假ニ之ヲ巡查憲兵卒ニ引渡スコトヲ得
被告人ヲ巡查憲兵卒ニ引渡シタルトキハ速ニ告訴告發ヲ爲ス可シ
被告人又ハ巡查憲兵卒ハ逮捕ヲ爲シタル者ニ對シ共ニ官署ニ至ルコトヲ求ムルヲ得但逮捕ヲ爲シタル者ハ正當ノ事由アルニ非サレハ其求ヲ拒ムコトヲ得ス

(解釋)本條ハ常人現行ノ被告人ヲ逮捕シタル後ノ處分ヲ定メタルモノナリ

常人被告人ヲ逮捕シタルトキハ之ヲ司法警察官ニ引致セサルヘカ

ヲス之ヲ受取リタル司法警察官ハ第四百十七條ニ依リ處分ス可キナリ若シ常人ノ司法警察官ニ引致スルコトヲ得サルトキハ巡査憲兵卒ニ引渡スコトヲ得ヘキモノトス

右ノ場合ニ於テハ逮捕者ハ假令常人タリト雖速カニ告訴告發ヲ爲サ、ルヘカラサルハ法律上ノ義務ナレハ決シテ違背スヘカラス其故ハ一旦被告人ヲ逮捕シタル以上ハ其事柄ヲ訴フルハ當然ノ理ニシテ若シ其訴フヘキ事由ナキモノハ即チ濫ニ人ヲ逮捕シタルモノニシテ法律上ノ責ヲ免レサレハナリ

又被告人巡査憲兵卒ハ逮捕者ニ對シ共ニ官署ニ至ルコトヲ求ムルヲ得ルハ其告訴告發等ノ有無ニ付議論ヲ生シ或ハ被告人ノ利益トナルヘキ證據等ノコトニ關係スルコト大ナレハナリ若シ逮捕者其求メテ肯ンセサルトキハ巡査憲兵卒ハ勿論被告人モ強ヒテ之ヲ引致スルコトヲ得ヘシ何トナレハ正當ノ事由ナケレハ其求メテ拒ム

ヲ得サルハ法律ノ定ル處ナレハナリ

第二章 告訴

(解釋) 檢事ハ犯罪ノ捜査終ルトキハ其事件ノ起訴スヘキヤ否ヲ明カニシ本章ノ定ムル處ニ依リ之カ處分ヲ爲サ、ルヘカラス治罪法ニハ民事原告人ノ起訴ナル一節アリシモ本法ニ於テハ之ヲ廢シタリ故ニ起訴ハ全ク檢事ノ專有スル處トナレリ

第六十二條 地方裁判所檢事犯罪ノ捜査ヲ終リタルトキ

ハ左ノ手續ヲ爲ス可シ

第一 重罪ト思料シタル事件ニ付テハ豫審判事ニ豫審ヲ求ム可シ

第二 輕罪ト思料シタル事件ニ付テハ其輕重難易ニ從ヒ豫審ヲ求メ又ハ直チニ其裁判所ニ訴ヲ爲ス可シ

第三 裁判所構成法第十六條第二號第三號ニ記載シタ

ル輕罪又ハ違警罪ト思料シタル事件ニ付テハ證據書類ニ意見ヲ添ヘ之ヲ區裁判所檢事ニ送致ス可シ

(解釋)本條ハ地方裁判所檢事ノ起訴ノ手續ヲ定メヨリ

檢事ハ犯罪ノ捜査ヲ終リ其事件重罪ナリト思料シタルトキハ豫審判事ニ豫審ヲ求ムヘキナリ又輕罪ト思料シタル事件ハ其輕重難易ヲ考ヘ或ハ豫審ヲ求メ或ハ直ニ公訴ヲ起スヘキナリ是本條第一號

第二號ノ規定ナリ又第三號ニ記載スル裁判所構成法第十六條第一號ハ違警罪ニシテ第二號第三號ノ輕罪トハ左ノ如シ

第二本刑五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ若クハ附加セサル二月以下ノ禁錮又ハ單ニ百圓以下ノ罰金ニ該ル輕罪

第三刑法第二編第一章ヲ除キ其他ノ輕罪ニシテ本刑ニ百圓以下ノ罰金ヲ附加シ若クハ附加セサル二年以下ノ禁錮又ハ單ニ三百圓以下ノ罰金ニ該リ其情第二ニ掲ケタル刑ヨリ更ニ重キ刑ニ處スルコ

トヲ要セスト認メ地方裁判所若クハ其支部ノ檢事局ヨリ區裁判所ニ移付シタルモノ

以上ノ如シト雖モ第三號ノ犯罪ハ其手續ニ因リ訴追ヲ爲シ犯罪ノ證明アリタル場合ニ於テ判決ヲ爲ス前ニ何時ニテモ其情第二號ニ掲ケタル刑ニテハ相當ニ罰スルコトヲ得スト認ムルトキハ區裁判所ハ之ヲ裁判スル權限ヲ有セスト言渡ヲ爲ス此場合ニ於テハ檢事ハ被告人ヲシテ相當ノ裁判所ニ於テ裁判ヲ受ケシムル爲メ適當ノ手續ヲ爲サ、ルヘカヲサルコトハ全條ノ末項ニ規定スル處ナリ本條ハ地方裁判所檢事ノ起訴ノ手續ヲ定メ次條ハ區裁判所檢事ノ起訴ノ手續ヲ定メ何レモ豫審又ハ第一審ニ關スルモノナリ爰ニ控訴院檢事ノ職務ヲ掲ケサルハ控訴院ハ民事事件ニ付或ル僅々ノ例外(裁判所構成法第三十八條ニ東京控訴院ハ皇族ニ對スル民事ノ裁判ハ第一審第二審共ニ權限ヲ有スルコトヲ規定ス)ヲ除ク外第二審

即チ覆審裁判ヲ爲スニ止マルモノナレハ第一審迄ハ控訴院檢事ノ關係スルコトナケレハナリ故ニ第二審ノ裁判ニ關スル檢事ノ職務ハ刑事訴訟法第五編上訴ノ部及ヒ裁判所構成法第六條ニ依ルモノトス又刑法第二編第一章第二章ニ掲ケタル重罪并ニ皇族ノ行フタル禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ犯罪ノ捜査及ヒ起訴豫審ノコトニ付テハ刑事訴訟法第七編大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續ノ部ニ規定セリ

第六十三條 區裁判所檢事犯罪ノ管轄ヲ終リタル上裁判所構成法第十六條第一號第二號ニ記載シタル事件ト思料シタルトキハ其裁判所ニ訴テ爲ス可シ

(解釋)本條ハ區裁判所檢事ノ起訴ノ手續ヲ定メタルモノナリ
裁判所構成法第十六條第一號第二號何レモ前條ニ詳ナリノ犯罪ハ當然區裁判所ノ管轄ニ屬スト雖第三號ノ犯罪ハ地方裁判所及ヒ其

支部ノ檢事局ヨリ移付ヲ得ケテ初メテ裁判權ヲ有スルモノナレハ此犯罪ニ關シテハ區裁判所檢事ハ其移付ヲ受シルニ非サレハ起訴ノ權ナキモノトス

第六十四條 檢事ハ被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノト思料シタルトキハ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致ス可シ

被告事件罪ト爲ラス又ハ公訴受理ス可カラサルモノト思料シタルトキハ起訴ノ手續ヲ爲ス可カラス
(解釋)本條ハ被告事件ノ管轄違又ハ被告事件罪ト爲ラサルトキ及ヒ公訴受理ス可カラサル事件ニ付檢事ノ處分方ヲ定メタルモノナリ
被告事件ノ管轄トハ犯罪ノ種類被告人ノ身分又場所ニ關スル裁判管轄ヲ云フモノニシテ其事件カ檢事所屬ノ裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ其管轄裁判所ヘ送致セサルヘカラス

第二頂罪ト爲ラストハ其事件ノ犯罪ヲ構成セサルトキヲ云ヒ公訴受理スヘカラサルモノトハ公訴消滅ノ原因アルコトヲ云フ此場合ニ於テハ公訴權ノ存在ナキヲ以テ起訴ノ手續ヲ爲ス能ハサルハ當然ナリ

第六十五條 前數條ノ場合ニ於テ被告事件告訴ニ係ルト

キハ檢事ヨリ其處分ヲ被害者ニ通知ス可シ

(解釋)本條ハ起訴ノ結未ヲ被害者ニ通知スヘキコトヲ定メタルモノナリ

此通知ヲ爲スハ告訴シタル被害者ヲシテ私訴ヲ爲シ又ハ他ノ通常民事々件トシテ更ニ訴ヲ起スノ覺悟アラシメシメカ爲メナリ

第六十六條 檢事豫審ヲ求ムルトキハ證據及ヒ事實參考

ト爲ル可キ事物ヲ送致シ且臨檢ス可キ人名及ヒ證人ト爲ル可キ者ヲ指示ス可シ

(解釋)本條ハ檢事豫審ヲ求ムルニ付其手續ヲ定メタルモノナリ

證據及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物ヲ送致シ且臨檢ス可キ場所逮捕ス可キ人名及ヒ證人ト爲ル可キ者等ヲ指示スルハ豫審ニ於テ犯罪ノ證明ヲ爲スニ容易ナラシメ而シテ檢事起訴ノ主意ヲ達センカ爲メナリ

第三章 豫審

(解釋)豫審トハ本案即チ第一審前ノ裁判ニシテ其主トスル處ハ證據ヲ蒐集シ其事件ノ公判ニ付スヘキモノナルヤ否ヲ審理裁判スルニ在リ

本邦ノ裁判制度ハ合議獨任兩制ヲ採用シタル此兩制タル各利弊ノ相伴フモノニシテ其利弊ニ付學者ノ議論多シト雖今爰ニ要ナシ唯々兩制ノ要領ヲ設ルニ止ムヘシ

合議裁判トハ裁判官數名合集議決ヲ爲スノ謂ナリ即チ裁判所構成

法第三條ニ其法則ヲ定メ其員數ハ裁判所ノ等級ニ從ヒ各差アリ(裁判所構成法第三十二條第四十一條第五十三條第五十四條)又評議決定ノ方法ハ會議法ノ常則ニ循ヒ過半數ノ意見ニ依ルモノトセリ(裁判所構成法第二百二十六條)此制ノ利益トスル處ハ審問ノ鄭重ヲ主トシ裁判ノ誤謬ヲ正スニ在リ即チ一人ノ判官之ヲ審問スルヨリモ數人ノ判官ノ審問ヲナスハ公平上ヨリスルモ密理充分ノ点ヨリスルモ單獨ノ判官ヨリ利益アルコト論ヲ俟タズ然リト雖責任ノ專ラナラサルト敏速ノ處分ニ出テサルト及ヒ費用ノ多キニ至リテハ本制ノ弱点ト爲ス處ナリ故ニ此制ノ適用ハ煩雜ノ件ト重大ノ件ニ在リ單獨ノ裁判官ハ壹人ノ專任判官ノ意見ニヨリテ裁判ヲ爲スモノニシテ區裁判所(裁判所構成法第十一條)ノ裁判及ヒ豫審ノ裁判等ニ之ヲ適用セリ區裁判所ノ權限ニ屬スル事件ハ最モ輕易ニシテ且ツ多數ナルヲ以テ單獨ノ判官之ヲ爲スモ事ニ弊害ナキノミナラス却ツ

テ獨任制ノ理ニ叶フモノトス又豫審ニ至ツテハ最モ獨任ノ制ヲ宜トス其故ハ豫審ハ秘密ヲ貴ヒ殊ニ敏達ノ處分ヲ主トスルモノナレハナリ又豫審ハ證據ノ蒐集ト公判ニ付スルモノト否トノ區別ヲ分ル迄ナレハ假令ヒ其處分ニ誤謬アルモ敢テ弊害ノ大ナルコトナシ是レ區裁判所及ヒ豫審ノ裁判ニハ合議制ヲ採ラスシテ獨任制ニ依リシ所以ナリ

第六十七條 現行ノ重罪輕罪ヲ除ク外豫審判專ハ檢專ノ請求アルニ非サレハ豫審ニ取掛ルコトヲ得ス此規定ニ背キタルトキハ其請求ヨリ以前ニ係ル手續ノ効ナカル可シ

(解釋)本條ハ不告不受理ノ原則ヲ示シタルモノナリ

凡ソ犯罪事件ニ關シ訴訟ノ起ル場合ハ多ク非現行犯ニ係ルモノナリ故ニ此訴訟手續モ非現行犯ヲ以テ常則トシ現行犯ハ之ヲ變例ト

ナセリ現行犯ノ處分ニ在リテハ最モ迅速ヲ要シ其急ナル場合ハ問
髪ヲ容レサル程ノモノナレハ不告不受理ノ原則ヲ適用スルヲ得ス
ト雖非現行犯ニ在ツテハ普通ノ規則ニ從ハサルヘカラサルハ論ヲ
俟タス

第六十八條 檢事ハ豫審中何時ニテモ豫審判事ニ請求シ

テ訴訟記録ヲ檢閲スルコトヲ得但二十四時内ニ之ヲ還

付ス可シ

又必要ナリトスル處分ニ付キ臨時其請求ヲ爲スコトヲ

得

(解釋)本條ハ檢事ニ豫審處分ニ付テ訴訟書類ヲ檢關スルノ權ヲ與ヘ

タルモノナリ

訴訟ノ書類ヲ檢關スルハ其取調ニ付キ必要ト見認メタルトキ請求

ヲ爲シ被告事件ヲ證明シ公訴ノ實行ヲ達センカ爲メナリ

第一節 令狀

(解釋)令狀トハ訊問ヲ爲シ又ハ逃亡ヲ防カン爲メ重輕罪ノ被告人ニ
對シテ相當官吏ヨリ出廷若クハ約束ヲ命スル通知書ナリ令狀ノ種
類ハ召喚狀勾引狀勾留狀ノ三個トス召喚狀及ヒ勾引狀ハ被告人ニ
出廷ヲ命スルモノニシテ勾留狀ハ拘束ヲ行フモノナリ尙ホ詳細ハ
各條ニ至リテ解説ス可シ

(治罪法ニハ勾留狀ハ十日ノ期限ヲ有シ収監狀ハ無期限ナリシテ本
法ニハ収監狀ヲ廢シ勾留狀ヲ無期限トセラレタリ是レ重モナル改
正ノ第十三ナリ)

第六十九條 豫審判事ハ檢事ノ起訴ニ因リ重罪輕罪ノ事
件ヲ受理シタルトキハ被告人ニ對シ先ツ召喚狀ヲ發ス
可シ但召喚狀ノ送達ト被告人出頭ノ間少クモ二十四時
ノ猶豫アル可シ

召喚狀ニ因リ出頭シタル被告人ハ即時ニ之ヲ訊問ス可シ又遅クトモ出頭ノ日ヲ過クルコトヲ得ス

(解釋)本條ハ豫審判事起訴ヲ受理シ豫審ノ第一着ノ手續法ヲ定メタルモノナリ

召喚狀ハ豫審ノ頭初ニ發スルモノニシテ濫ニ人ノ自由ヲ束縛スルコトナク成ルヘク隨意ニ出頭セシムルヲ主トス
送達ト出頭トニ二十四時間以上ノ猶豫ヲ與フルハ現行犯ノ場合ノ如ク急速ヲ要シ勾引狀ヲ發スルモノト異リ是等ノ猶豫ヲ與フルモ差支ナキヲ以テナルヘシ又召喚狀ニ因リ出頭シタル被告人ハ即時ニ之ヲ訊問スルカ又ハ遅クトモ其日ニハ之ヲ訊問セサルヘカラス其故他ナシ召喚狀ハ人ヲ拘束スル効力ナキト亦召喚狀ヲ以テ出頭セシムル被告人ハ犯罪ノ嫌疑ノ爲メナレハ之ヲ無罪視シテ取扱ハサルヘカラサレハナリ

第七十條 豫審判事ハ召喚狀ヲ受ク可キ被告人其管轄地内ニ住セサルトキハ訊問ス可キ條件ヲ明示シ被告人所在ノ地ノ豫審判事又ハ區裁判所判事ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

(解釋)本條ハ訊問ノ條件ヲ囑託スル場合ヲ定メタリ

訊問ス可キ被告人豫審判事ノ管轄地外ニ在ルトキハ正則ヨリ云ヘハ之ヲ召喚シテ訊問ス可キナレトモ時宜ニヨリ或ハ其被告人所在地ニ於テ職務ヲ行フ豫審判事又ハ區裁判所判事ニ訊問ノ條件ヲ明示シテ處分方ヲ囑託スルコトヲ得ルナリ是被疑者ヲシテ濫ニ奔走スルノ勞ナカラシムル爲メナリ

第七十一條 豫審判事又ハ受託判事ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出頭セサルトキハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

(解釋)本條ハ被告人召喚ノ日時ニ出頭セサルトキノ處分方ヲ定メタ
リ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出頭セサルトキハ召喚狀ハ已
ニ其効ヲ見スシテ最早之ヲ召喚スルモ出頭スルコトナカルヘキニ
ヨリ訴訟上ノ強制手段ニヨリ引致スルコトヲ得ヘキ効力アル勾引
狀ヲ發スヘキナリ本條ノ受託判事トハ前條ニヨリ囑託ヲ受ケタル
豫審判事區裁判所判事ヲ云フ

第七十二條 豫審判事又ハ受託判事ハ左ノ場合ニ於テ直

チニ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

- 第一 被告人定マリタル住所アラサルトキ
- 第二 被告人罪證ヲ湮滅シ又ハ逃亡スル恐アルトキ
- 第三 被告人未遂罪又ハ脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ遂
ケントスル恐アルトキ

(解釋)本條ハ直チニ勾引狀ヲ發シ得ヘキ場合ヲ規定セリ

第一 定マリタル住所ナキトキハ被告人本籍寄留籍等ヲ有セサルモ
ノチ云フニアラスシテ全ク現ニ宿伯スル所ナキモノヲ云フ故ニ斯
ク住所ナキ時ハ召喚狀ヲ發センモ其送達スヘキ場所ナキヲ以テ已
ムヲ得ス勾引狀ヲ發スルナリ

第二 被告人罪證ヲ湮滅シ又ハ逃亡ノ恐アルトキハ勾引狀ヲ發セザ
レバ豫審處分ノ機會ヲ失フヲ以テナリ

第三 被告人未遂罪ニシテ仍ホ其目的ヲ遂ントシ脅迫罪ニシテ仍ホ
其目的ヲ遂ケントスルノ恐アルトキ此場合ニ於テ勾引狀ヲ發スル
ハ當然ニシテ別ニ解説ヲ要セス然レモ本項ニ示スモノハ彼ノ現行
犯ノ場合ト異ルコトニ注意セサルヘカラス即チ現行犯ナレハ現ニ
犯罪ヲ行ヒツ、アルモノナレハ殊更ニ本項ノ規定ノ必要ナシ只
本項ハ仍ホ引續キ犯罪ヲ行ハントスル恐アル場合ヲ規定シタルノ
ミノモノナリ

第七十三條 勾引狀執行ノ命ヲ受ケタル者ハ其令狀ヲ發

シタル判事ニ被告人ヲ引致ス可シ

勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時内ニ之ヲ訊

問ス可シ若シ其時間ヲ經過スルトキハ勾留狀ヲ發スル

ニ非サレハ當然之ヲ釋放ス可シ

(解釋)本條ハ勾引狀ノ効力ヲ示シタルモノナリ

拘引狀ハ公力ヲ以テ被告人ノ自由ヲ拘束シ之ヲ發シタル相當官署

ノ面前ニ引致スル丈ノ効力アルモノニシテ繼續シテ其被告人ノ自

由ヲ拘束スルモノニアラス然リト雖事務繁劇ノ際等ニ在リテハ直

チニ訊問ヲ爲ス能ハサル場合アルニヨリ法律ハ四十八時間ノ猶豫

ヲ與ヘタリ故ニ判事ハ必ス四十八時内ニ於テ其被告人ヲ訊問シ有

罪者トシテ拘留ヲ要スルモノト認メタルトキハ拘留狀ヲ發シ否ヲ

サレハ濫リニ人ノ自由ヲ妨クヘキニアラサルヲ以テ當然釋放スヘ

キモノナリ

第七十四條 豫審判事又ハ受託判事ハ召喚狀又ハ勾引狀

ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事由アリテ令狀ニ應

ズル能ハサルユトテ疏明シタルトキハ被告人ノ所在ニ

就テ之ヲ訊問スルユトテ得

(解釋)本條ハ召喚狀拘引狀ヲ受ケタル被告人出頭スルコト能ハサル

場合ヲ規定シタルモノナリ

疾病ニテ令狀ニ應ズル能ハサル場合ハ勿論正當ノ事由アリテ出頭

スル能ハサルトキニ於ルモ全様必ス其疾病及ヒ事由ヲ疏明セサル

ヘカラス正當ノ事由トハ其事柄ニ限定ナシト雖當該官ニ於テ令狀

ニ應ズル能ハサルハ正當ナリト認ムル丈ノ事由ヲ云フ又疏明トハ

疾病ナレハ醫師ノ診斷書正當ノ事由ナレハ夫レヲ信スルニ足ル丈

ノ事柄ヲ裁判官ニ向ツテ分疏証明スルヲ云フ此場合ニ於テハ裁判

官ハ被告人所在ニ出張シテ訊問ヲ爲スニトテ得ヘキナリ

第七十五條

勾留狀ハ被告人ヲ訊問シタル後禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト思料スルニ非サレハ之ヲ發スルコトヲ得ス但被告人逃亡シタル場合ニ於テハ其訊問ヲ爲サスシテ之ヲ發スルコトヲ得

(解釋)本條ハ拘留狀ヲ發ス可キ場合ヲ規定シタルモノナリ

拘留狀ハ被告人ヲ拘束スル目的ノモノナレハ其被告事件モ法律上拘束ヲ受ク可キ刑ニ該ルモノナラサル可カラス其禁錮以上ノ刑ニ該ルヤ否ハ偏言以テ訟ヲ斷スヘキモノニアラサレハ訴ノミニテハ之ヲ知ルヲ得サルモノトス故ニ拘留狀ヲ發スルハ必ス一應被告人ヲ訊問シ其刑ハ禁錮以上ノ體刑ニ該ルモノト思料スルトキニ在リ故ニ本條ニハ被告人ヲ訊問シタル後云々ト規定セリ然レトモ是ハ通常ノ場合ニ限ルモノナリ故ニ被告人逃亡シタルトキノ如キハ被

告人自ラ犯罪ヲ認メタルハ之ヲ拘束スルモ濫リニ拘束スルノ恐レナキト亦尙ホ被告人ノ逃亡ヲ防クトノ二個ノ理由ニヨリ訊問ヲ爲サスシテ拘留狀ヲ發スルコトヲ得ヘシ

第七十六條

總テ令狀ニハ被告事件及ヒ被告人ノ氏名職業住所ヲ記載ス可シ但召喚狀ヲ除ク外其氏名分明ナラサルトキハ容貌體格等ヲ明示ス可シ

又令狀ニハ之ヲ發スル年月日時ヲ記載シ判事及ヒ裁判所書記署名捺印ス可シ

召喚狀ハ執達吏ヲシテ被告人ニ送達セシメ勾引狀勾留狀ハ巡查憲兵卒ヲシテ之ヲ執行セセシム

(解釋)本條ハ令狀ノ式ト及ヒ之ヲ執行ス可キ人ヲ定メタルモノナリ令狀ハ訊問ヲ爲シ又ハ逃亡ヲ防カン爲メ重輕罪ノ被告人ニ對シテ出延若クハ拘束ヲ命スル通知書ナレハ其被告事件ト被告人ノ本名

職業住所等ヲ記載スルハ固ヨリ之ヲ發シタル年月日時ヲ記載シ相
當官吏ノ署名捺印ヲ以テ其効力ヲ確保セサルヘカラス但拘引狀拘
留狀ヲ發スヘキトキニ於テ被告事件急速ヲ要シ又ハ被告人逃亡シ
テ其氏名ヲ知ルヲ得サル場合アルヲ以テ此時ハ止ヲ得ス容貌體格
等ヲ明示シテ之ヲ發スルコトヲ得ヘキナリ
召喚狀ハ單ニ出頭ヲ命スルニ止マルモノナレハ通常ノ書類ト同シ
ク執達吏ヲシテ送達セシム然レモ拘引狀拘留狀ニ在テハ公力ヲ要
スルモノニ付必ス巡查憲兵卒ヲラサルヘカラス

第七十七條 勾引狀勾留狀ハ時宜ニ因リ正本數通ヲ作り
巡查憲兵卒數人ニ分付スルユトアル可シ

前項ノ令狀ヲ執行スルニハ被告人ニ正本ヲ示シ其謄本
ヲ下付ス可シ此場合ニ於テハ其正本謄本ニ執行ノ場所
日時ヲ記載シ被告人ヲシテ署名捺印セシム若シ署名捺

印スルユト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

(解釋)本條ハ拘引狀拘留狀ヲ發スル手續ト之ヲ執行スル方法ヲ示シ
タルモノナリ

召喚狀ハ被告人ノ氏名住所ノ確定シタル場合ニ發スル尋常ノ手續
ナリ拘引狀拘留狀ハ被告人ノ氏名ハ勿論住所ノ不明ナルトキト雖
其被告人ヲ捜査シ而シテ公力ヲ用ヒテ本以テ引致拘束スル効力ヲ
有スルモノニ付其捜査ノ便宜ヲ計リ數個ノ拘引狀拘留狀ヲ作り巡
査憲兵卒ニ分付シテ之ヲ發スルコトヲ得ルナリ
第二項ハ令狀ヲ執行シ及ヒ之ヲ執行シタルコトヲ證明スル手續ナ
レハ別ニ解説ヲ要セス

第七十八條 令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡查憲兵卒ハ被告
人其家宅若クハ他人ノ家宅ニ潛匿シタリト思料シタル
トキハ其地ノ市町村長又其差支アルトキハ隣佑二名以

上ノ立會ヲ求メ之ヲ搜索ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ被告人ヲ發見シタルトキト否トニ拘ハラズ搜索調書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印ス可シ家宅搜索ハ日出前日没後之ヲ爲スコトヲ得ス但旅店割烹店其他夜間ト雖衆人ノ出入スル場所ニ付テハ其公開時間内ニ限り何時ニテモ搜索ヲ爲スコトヲ得

(解釋)本條ハ令狀執行ニ關スル制限ヲ定メタルモノナリ

令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡查憲兵卒ハ被告人其家宅若クハ他人ノ家宅内ニ潜匿シタルコトヲ認知シタルトキハ直チニ其被告人ヲ搜索スルコトヲ得レトモ唯々潜匿シタリト思料スルニ止マルトキハ本條ノ規定ニ從ハサルヘカラス夫濫リニ人ノ家宅ヲ侵スヘカラスルコトハ憲法ノ認ムル處ナリ故ニ法律ハ止ムヲ得サル場合ニ於テハ本條ノ如ク鄭重ノ規則ヲ設ケ市町村長又ハ隣佑二名以上ノ立會

ヲ求メ之ヲ搜索スルコトヲ得ルモノトセリ併シ本條ハ市町村長又ハ隣佑二名以上ノ立會ヲ求メ得ラル、場合ヲ規定ニシテ彼ノ孤村僻邑ニ於ルガ如ク到底其立會ヲ求メ得サルトキハ其家人ニ告ケ之ヲ立會スルモ差支ナカルヘシ

上文ノ場合ニ於テ巡查憲兵卒ハ被告人ヲ發見シタルト否ニ拘ラズ調書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印スルハ家宅搜索ナルモノハ非常ノ處分ナレハ執行人ハ法律ニ從ヒ其職務ヲ盡シ敢テ專横ナラサルコトヲ證明スル爲メナリ

第三頂日出前日没後家宅搜索ヲ禁シタルハ靜謐ヲ害セザランガ爲メナリ然レモ旅舎料理屋其他衆人ノ出入スル遊戯場等ニ在リテハ其公開時間何時ニテモ搜索スルコトヲ得ヘキナリ蓋是等ノ家屋ハ其營業中ハ他ノ家屋ハ晝間ト異ルコトナク亦靜謐ヲ害スルノ虞ナキヲ以テナリ

第七十九條 豫審判事ハ被告人他ノ管轄地内ニ潛匿シタルコトヲ知り又ハ潛匿シタリト思料シタル場合ニ於テ被告事件急速ヲ要スルトキハ巡查憲兵卒ニ令狀ヲ帶行セシムルコトヲ得

巡查憲兵卒ハ被告人所在ノ地ノ豫審判事檢事又ハ司法警察官ニ令狀ヲ示シテ即時ニ執行ヲ求ム可シ

(解釋)本條ハ豫審判事ノ管轄地内ニ於テ被告人ヲ捜査スル場合ヲ規定シタルモノナリ

拘引狀拘留狀ハ日本全國ニ於テ執行スヘキモノナルカ故ニ豫審判事ハ被告人他ノ管轄内ニ潛匿シタルコトヲ知り又ハ潛匿シタリト思料シタル場合ニ於テハ被告人所在ノ豫審判事檢事等ニ囑託シテ其令狀ヲ執行セシメ又ハ急速ヲ要スル時ハ巡查憲兵卒ヲ令狀ヲ携帶セシメ被告人所在地ノ豫審判事檢事又ハ司法警察官ニ之

ヲ示シテ即時ニ執行ヲ求ムルコトヲ得ヘキナリ

爰ニ注意ヲ要スヘキハ本條第二頂ハ通常ノ場合ヲ規定シタルモノニシテ此手續ニ依リ難キトキ即チ例ヘハ巡查憲兵卒カ令狀ヲ帶行シテ他ノ管轄地内ニ至ル途中被告人ニ遭遇セシ等非常ノトキニ於テハ直チニ之ヲ執行スルコトヲ得ヘシ但此場合ニ在ツテハ其管轄

地内ノ豫審判事檢事司法警察官等ニ其事由ヲ通知スヘキモノトス

第八十條 豫審判事ハ被告人所在ノ地ヲ覺知スルコト能

ハサルトキハ各檢事長ニ被告人ノ人相書ヲ送致シ捜査及ヒ逮捕ヲ爲ス可キコトヲ請求スルヲ得

請求ヲ受ケタル檢事長ハ其管轄地内ノ檢事ヲシテ搜索及ヒ逮捕ノ處分ヲ爲サシム可シ此場合ニ於テ檢事ノ發シタル逮捕狀ハ勾留狀ト同一ノ効ヲ有ス

(解釋)本條ハ被告人所在地ヲ覺知スル能ハサル場合ニ於テ一般ニ被

告人ヲ捜査スル手續ヲ定メタルモノナリ

豫審判事へ被告人所在ノ地ヲ覺知スル能ハサルトキハ各控訴院檢事長被告人ノ人相書ヲ送致シテ捜査及ヒ逮捕ノコトヲ依頼スルコトヲ得ヘシ又依頼ヲ受ケタル各控訴院檢事長ハ自己ノ管轄地内ノ

檢事ヲシテ捜査及ヒ逮捕ノ處分ヲ爲サシムヘキモノトス

逮捕狀トハ本來刑ノ執行ヲ逃レタル者ニ對シ檢事ノ發スルモノニシテ行政ノ處分ニ屬スト雖本條ノ逮捕狀ハ豫審判事ノ請求ニヨリ刑事被告人ニ對シ發スルモノナレハ純然タル豫審即チ司法處分ナリトス故ニ其効力ニ於ルモ拘留狀ト同一ナルヲ以テ時効ヲ中斷スルノ効チ有ス

第八十一條 豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル下士以上ノ軍人

軍屬ニ對シ令狀ヲ發シタルトキハ其所属ノ長官又ハ隊長ニ令狀ヲ示ス可シ其長官又ハ隊長ハ已ムコトヲ得サ

ル差支アルニ非サレハ本人ヲシテ速カニ令狀ニ應セシム可シ

(解釋)本條ハ軍人軍屬ニ對シ命狀ヲ執行スル手續ヲ定メタルモノナリ

豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人トハ現役軍人ヲ云ヒ軍屬トハ身ハ軍人ニアラサルモ軍務ニ服スル總テノ吏員ヲ云フ是等ノ者ニ對シ拘留狀拘留狀ヲ發シタルトキハ其所属長官又ハ隊長ノ手ヲ經由セサル可カラズ何故ニ此ノ如ク定メタルヤト云フニ軍人ナリ軍屬ナリ皆通常ノ人民ト異ニシテ國家ノ干城タル者ナルカ故ニ若シ其一人ヲ欠クトキハ其軍隊ヲ錯乱スルコトアルヲ以テナリ然リト雖其長官又ハ隊長ハ已ムヲ得サル差支アルニ非サレハ司法ノ權利ヲ妨クヘキニアラサルヲ以テ速カニ令狀ニ應セシメサルヘカラス
本條ニ下士以下ノ軍人トアリ故ニ士官ニ對スル取扱ハ高等官ノ犯

罪取扱ニ付特ニ定ムル規則ニ依リ本條ノ規定以外ノモノト知ルヘシ

第八十二條 勾留狀ヲ受ケタル被告人ハ速カニ其令狀ニ記載シタル監獄署ニ引致ス可シ若シ其監獄署ニ引致スルコト能ハサルトキハ假ニ最近ノ監獄署ニ引致スルコトヲ得

何レノ場合ニ於テモ監獄署長ハ令狀ヲ檢閲シテ其証書ヲ渡ス可シ

(解釋)本條ハ拘留狀ヲ受ケタル被告人ヲ引致スル場所ヲ定メタルモノナリ第一頂拘留狀ニ記載シタル監獄署ニ引致スル能ハサルトキハ路程遠隔シテ一日中ニ引致スル能ハサル場合等ヲ云フ第二頂ハ監獄署長ノ責任ト其被告人ヲ受取リタル証明ノコトヲ規定シタルモノニテ別ニ解説ヲ要セス

第八十三條 令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡查憲兵卒ハ之ヲ執行シタルコト又執行スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ令狀ノ正本ニ記載ス可シ
巡查憲兵卒ハ令狀執行ニ關スル書類ヲ檢事ニ差出ス可シ

(解釋)本條ハ令狀ヲ執行シ難ク又ハ執行スル能ハサルトキノ手續ヲ定メタルモノナリ

豫審判事ヨリ令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡查憲兵卒ハ之ヲ執行シタルコト又ハ執行シ能ハサルコトキハ其事由ヲ令狀ノ正本ニ記載セサルヘカラス其事由ヲ記載スルハ巡查憲兵卒カ自己ノ職務ヲ盡シタルコトヲ證明スル爲メナリ

第二項巡查憲兵卒カ令狀執行ニ關スル書類ヲ檢事ニ差出スハ被告人逮捕ノ事實ヲ明カニシ自己ノ責任ヲ免レンカ爲メナリ

第八十四條 勾留狀ヲ受ク可キ被告人既ニ監獄署ニアル

トキハ執達吏ヲシテ之ヲ本人ニ送達セシム可シ

(解釋)本條ハ拘留狀ヲ受ク可キ被告人既ニ監獄署ニ在ルトキ之ヲ執
行スル手續ヲ定メタルモノナリ

前條迄ノ規則ハ被告人未ダ逮捕セラレサル時ナルヲ以テ巡查憲兵
卒等ノ公力者ヲ用非サル可カラサレトモ本條ノ場合ハ逮捕後ニ係
ルヲ以テ公力者ヲ用ユルニ及ハス故ニ通常ノ訴訟書類ヲ送付スル
ト同シク執達吏ヲシテ之ヲ送達セシム可キモノトセリ

第八十五條 密室監禁ノ場合ヲ除ク外被告人ハ監獄則ニ

從ヒ官吏ノ立會ニ依リ其親屬故舊又ハ辨護士ニ接見ス
ルコトヲ得

書翰書籍其他ノ書類ハ豫審判事又ハ檢事ノ檢閱ヲ經タ
ル後ニ非サレハ被告人ト外人ト之ヲ授受スルコトヲ許

サス但豫審判事又ハ檢事ハ其書類ヲ留置クコトヲ得

(解釋)本條ハ被告人ノ親屬故舊又ハ辨護士ニ接見シ又書面書籍等ヲ
授受スルニ付テノ規則ヲ定メタリ

是等ノ詳細ハ監獄則ニ定ムル處ナリト雖本條ハ豫審處分ニ關シテ
ハ必要ナルヲ規定セシモノナリ

第一項ノ官吏ノ立會トハ監獄官吏ノ立會ニシテ其主意ハ被告人ノ
逃走ヲ防グト豫審處分ヲ誤マラシメサランコトヲ期スルニ在リ又
第二項モ專ラ證據ノ湮滅又ハ其他ノ弊害ヨリシテ裁判ヲ誤マラシ
ムルノ恐レアレハ此ノ如キ手續ヲ定メタルニ外ナラス但書籍ニ付
キ制限アルモ委シキハ監獄則ニ讓ル

第八十六條 豫審判事ハ被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可

キモノニ非スト思料シタルトキハ豫審中何時ニテモ勾
留狀ヲ取消ス可シ

(解釋)本條ハ拘留狀ヲ取消ス場合ヲ規定シタルモノナリ
禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノニ非サレハ拘留狀ヲ發スルコトヲ得
サルコトハ第七十五條ノ解ニ於テ詳述セシ處ナリ故ニ若シ罰金等
ノ刑ニシテ拘留ス可カラサルモノニ對シ拘留狀ヲ發シタルトキハ
之ヲ取消サ、ル可カラサルハ當然ノ理ナリ

第一節 密室監禁

(解釋)密室監禁トハ被告人ヲ一室ニ監禁シテ他人ト交廻ヲ爲サシメ
サルコトヲ云フ其目的ハ證據ヲ湮滅シ或ハ人ヲシテ偽證ヲ爲サシ
ムル等ノコトヲ防クニアリ

第八十七條 豫審判事ハ豫審中事實發見ノ爲メ必要ナリ
ト思料シタルトキハ檢事ノ請求ニヨリ又ハ職權ヲ以テ
拘留狀ヲ受ケタル被告人ヲ密室ニ監禁スル言渡ヲ爲ス
コトヲ得

(解釋)本條ハ拘留狀ヲ受ケタル被告人ヲ密室ニ監禁スル場合ヲ定メ
タルモノナリ
豫審判事ハ豫審中拘留狀ヲ受ケタル被告人カ證據ヲ湮滅シ又ハ他
人ト通謀シ又ハ逃走スルノ恐レアリト思料シタルトキハ檢事ノ請
求ニ因リ若シハ職權ヲ以テ密室監禁ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ルナリ

第八十八條 密室監禁ノ言渡ヲ受ケタル被告人ハ一名毎
ニ之ヲ別室ニ置キ豫審判事ノ允許ヲ得ルニ非サレハ他
人ト接見シ又ハ書類其他ノ物品ヲ授受スルコトヲ許サ
ス

(解釋)本條ハ前條ニ依リ密室監禁ノ言渡ヲ受ケタル被告人ヲ監禁ス
ル方法ヲ定メタルモノニシテ別ニ解說ヲ要スルモノナシ

第八十九條 密室監禁ハ十日ヲ經過ス可カラス但十日毎
ニ其言渡ヲ更改スルコトヲ得

言渡ヲ更改スルトキハ其事由ヲ裁判所長ニ報告ス可シ
豫審判事ハ十日間ニ少クトモ二度被告人ヲ訊問ス可シ

(解釋)本條ハ密室監禁ノ制限ヲ定メタルモノナリ

密室監禁ハ已ムヲ得サルノ處分ナレハ其期間ヲ長キニ及ホス可キ
モノニアラス故ニ本條ニハ十日間ト制限セリ然レトモ其期間内ニ
事件ノ終結セサルトキハ尙ホ十日間監禁スルコトヲ得併シ最初ヨ
リ二十日若クハ三十日間監禁スルコト能ハサルナリ

第二項言渡ヲ更改シテ尙ホ十日間之ヲ延期スルトキハ必ス其事由
ヲ裁判所長ニ報告セサル可カラズ是レ當該官吏ヲ監督シテ其怠惰
等ヲ防カンカ爲メナリ

第三項密室監禁ハ或ル事情ニ因リ已ムヲ得ス施ス處ノモノナレハ
法律ハカメテ其事件ノ終局ヲ告ケ監禁ヲ解クノ速カナラシムコトヲ
希望スルモノナリ故ニ十日間ニ少クトモ二回ハ被告人ヲ訊問セザ

ルヘカラス若シ此規定ニ違フトキハ被告人ハ監禁ヲ解カンコトヲ
請求スルヲ得ヘシ

第三節 證據

(解釋)凡ソ裁判所ニ於テ自己ニ利益ヲ得ント欲シテ或ル事實ヲ主張
スルモノハ其事實ノ存在又ハ不存在ヲ証明シ裁判官ヲシテ其事實
ノ存在又ハ不存在ヲ認諾セシメサルヘカラス其証明ノ方法ヲ證據
ト云ヒ證據ニ依リ立證セラレタル結果ヲ證明ト云フ又證據ニ確乎
トシテ動カスヘカラサルモノアリ薄弱ニシテ容易ニ打破シ得ヘキ
モノアリ

第九十條 被告人ノ自白官吏ノ檢証調書證據物件証人及
ヒ鑑定人ノ供述其他諸般ノ徵憑ハ判事ノ判斷ニ任ス

(解釋)本條ハ證據物件ニ關スル原則ヲ掲ケタルモノナリ

被告人ノ自白トハ被告人カ自己ニ不利益ナル事實ノ眞確ナルコト

ヲ承認スル處ノ陳述ヲ云ヒ檢証ニ付テハ廣狹ノ二義アリ廣義ニ於テハ相當官吏ノ實際目撃シタル處ノ証據ヲ云フモノニシテ狹義ニ於テハ或ル事實ニ對シ一定ノ指揮ニ從ヒ其証據力ヲ正確ナラシムル方法ヲ云フ檢証調書トハ之ヲ方式ニ依リ筆録シタル書類ノ稱ナリ
 リ證據物件トハ審理ニ附シタル事實ノ眞偽ヲ證明スヘキ物件ナリ
 又証人ノ陳述ニシテ証據タルノ効力ヲ有スルニハ第一証人カ或ル事實ヲ見聞シタル當時ニ於テ之ヲ見聞スルニ精神上及身體上充分ノ能力ヲ具備シタルコト第二証人ハ見聞シタル事實ニ就キ充分ノ注意ヲ爲シタルコト第三証人ハ見聞シタル事實ハ記憶ニ存スルコト第四証人ハ見聞シタル事實ヲ誠實ニ且ツ誤謬ナク陳述スルノ能力ヲ有スルコト第五証人ハ誠實ニ其見聞シタル事實ヲ陳述スルノ決心アルコト第六証人ノ陳述ハ其誠實ヲ害シ疑惑ヲ生セシムヘキ情況ナキ場合ニ於テセラレタルヲ要ス是ナリ又鑑定人ノ陳述ハ學

術又ハ技藝ニ熟達シタル人ノ意見ヲ云フモノナレハ其陳述タルヤ技藝學術ノ範圍ニ止マリ決シテ他事ニ及ブヘカラサルモノトス右ハ皆證據ト稱スヘキモノニシテ其他以下ハ直接ニ證據タルノ効力ナシト雖多少犯罪事件ニ關係アリテ信憑ヲ促カスニ足ル丈ノ事柄ヲ網羅シタルモノナリ以上ノ證憑ハ判事ノ判定ニ任スルヲ以テ裁判官ノ心證ト云フ蓋シ心證ナルモノハ則チ裁判官カ此等ノ證憑ヨリ推測セル論局ヲ謂フモノニ外ナラサレハナリ

第九十一條 豫審判事ハ檢事若クハ被告人ノ請求ニヨリ又ハ職權ヲ以テ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル証據徵憑ヲ集取ス可シ

(解釋)本條ハ推測ノ元素タル証據徵憑ヲ集取スル規則ヲ定メタルモノナリ

豫審判事ハ檢事若クハ被告人ノ請求アルニ因リ又ハ假令ヒ其求メ

ナシト雖自己ノ職權ヲ以テ證憑ヲ集取ス可キナリ本條ニ云フ集取
ス可シトハ義務ヲ負ハセタルカ如ク必ス集取セサルヘカラサルニ
似タリト雖然ルニアラス即チ事實發見ノ爲メ必要ナルトキハ集取
ス可キノ義務アレトモ必要ナラサルトキニハ之ヲ集取セサルモ差
支ナカルベシ

第九十二條 豫審判事臨檢搜索物件差押又ハ被告人證人

ノ訊問ヲ爲スニハ裁判所書記ノ立會ヲ必要トス書記ハ
調書ヲ作り豫審判事ト共ニ署名捺印ス可シ
裁判所外ニ於テ急遽ノ際書記ノ立會ヲ得ルコト能ハサ
ルトキハ立會人二名アルヲ要ス但監獄署ニ就テ被告人
ヲ訊問スルトキハ其監獄署ノ官吏一名ヲシテ立會ハシ
ム可シ

前項ノ場合ニ於テハ豫審判事自ラ調書ヲ作り之ヲ讀聞

カセ立會人ト共ニ署名捺印ス可シ

書記又ハ立會人ナクシテ爲シタル處分ハ其効ナカル可
シ

(解釋)本條ハ檢證處分ニ付テノ規則ヲ定メタルモノナリ

豫審判事臨檢家宅搜索物件差押被告人證人ノ訊問ヲ爲スニハ必ス
書記ノ立會ヲ要スルハ書記ハ豫審判事ノ取調フルニ從ヒテ檢証ニ
關スル調書ヲ作り法律ニ依リ手續ヲ經タル確實ナル處分ナルコト
ヲ證明センカ爲メナリ故ニ若シ現行犯等ノ場合ニシテ急遽ノ際書
記ノ同伴ナキトキハ二名ノ立會人ヲシテ處分ノ適法ナルコトヲ證
明セシメサルヘカラス此規則ニ違フトキハ無効ノ處分トナルヘシ

第四節 被告人ノ訊問及ヒ對質

(解釋)本節以下ハ證據ヲ集取スル方法ヲ定メタルモノナリ
證據ヲ集取スルニハ被告人ヲ訊問スルヲ以テ其當ヲ得タリト爲ス

何トナレハ被告人ハ被告事件ノ本人ナルヲ以テ先ツ人違ナラサル
コトヲ確メ證據ノ湮滅ヲ防キ而シテ其事件ニ關スル證據ヲ集取ス
ル等總テ本ヲ推シ末ニ及ボスノ順序ナレハナリ

第九十三條 豫審判事ハ先ツ被告人ヲ訊問ス可シ但檢証
ヲ爲シ又ハ証人ヲ訊問スルニ付キ急速ヲ要スルトキハ
此限ニ在ラス

(解釋)本條ハ被告人ヲ第一着ニ訊問スルヲ以テ普通ノ順序トシ且ツ
取除ノ場合ヲ規定セシモノナリ

豫審判事ハ被告事件アレハ先ツ第一ニ被告人ヲ訊問スヘキナリ然
レモ犯所ノ臨檢又ハ証人ヲ訊問セサルハ證據ノ湮滅セントスル急
速ノ場合ニ在ツテハ其急速ヲ要スルモノヲ先ニセサルヘカラサル
ハ是亦事實發見ニ付キ必要ノ處分ナリトス

第九十四條 豫審判事ハ被告人ヲシテ其罪ヲ自白セシム

ル爲メ恐嚇又ハ詐言ヲ用フ可カラス

(解釋)本條ハ訊問ニ付テノ制限ヲ設ケタルモノナリ
夫自白ハ任意ナラサルヘカス若シ身體及ヒ心理上ノ強制若シハ詐
導ニ出テタル自白ナラシカ其効力ナキハ普通ノ原則ナリ故ニ本條
ニハ恐嚇等ノ威權ヲ用キ又ハ詐言ヲ以テ被告人ノ自白ヲ誘導ス可
カラサルコトヲ規定セリ

第九十五條 裁判所書記ハ訊問及ヒ供述ヲ錄取シ被告人
ニ之ヲ讀聞カス可シ

豫審判事ハ被告人ニ其供述ノ相違ナキヤ否ヤヲ問ヒ署
名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキ
ハ其旨ヲ附記ス可シ

[解釋]本條ハ訊問調書ヲ作ル方式ヲ定メタルモノナリ
本條ノ規定ハ被告人ノ供述ノ相違ナキコトヲ證明シ及ヒ其調書ヲ

確實ナラシムルノ主意ナレハ更ニ解説スルモノナシ

第九十六條 被告人其供述ニ付キ變更増減ス可キコトヲ立タルトキハ更ニ訊問ヲ爲シ其訊問及ヒ供述ヲ錄取シ之ヲ讀聞カセ署名捺印ス可シ

(解釋)本條ハ被告人其供述ヲ増減變更スルコトヲ申立タルトキノ手續ヲ定メタルモノナリ

供述ハ総テ任意ナラサル可カラズ故ニ被告人曾テ爲シタル供述ニ付キ増減シ又ハ變更ス可キコトヲ申立タルトキハ豫審判事ハ更ニ訊問ヲ爲シ式ニ從ヒ調書ヲ作ラサルヘカラス是本條ノ規定スル處ナリ

第九十七條 被告人ハ供述ノ謄本ヲ求ムルコトヲ得

(解釋)本條ハ被告人供述調書ノ謄本ヲ求ムルヲ得ヘキコトヲ定メタリ

此供述書ノ謄本ナルモノハ被告人ニ取リテハ實ニ必要ノモノニシテ之ヲ以テ辯護ノ材料ニ備ヘ又供述ノ相違アルヤ否ヤヲ知リ又判事カ訊問スルニ當テ恐嚇詐言ヲ用ユルモ謄本ナキ以上ハ被告人ハ其中立タル所ヲ確實ニ知ルコト能ハサルカ故ニ之ヲ改メノコトヲ申立ルニ由ナシト雖此謄本アルトキハ之ニ因テ其申立ヲ更改スルコトヲ得ヘキナリ此ノ如ク供述書ノ謄本ハ被告人ノ一身ニ取リテハ必要欠クヘカテサルモノナルカ故ニ之ヲ下付スルコトヲ許シタルモノナリ

第九十八條 豫審判事ハ被告人ノ共犯ナルコト人違ナキコト其他事實ヲ發見ス可キ一切ノ模様ヲ證スル爲メ必要ナリトスルトキハ被告人ト他ノ被告人証人又ハ其他ノ者ト對質セシムルコトヲ得

(解釋)本條ハ事實發見ノ爲メ被告人ト他ノ被告人証人等ト對質セシ

ムル場合ヲ規定セリ

豫審ハ秘密ヲ以テ主義ト爲スカ爲メ被告人ト他ノ被告人証人等ト對質セシメサルヲ以テ本則トス然レモ秘密主義ノミニテハ能ク事情ヲ盡スコトヲ得サルニ在リテハ本條ニ規定スル如ク對質ノ方法ヲ用非テ證據ヲ集取ス可キナリ

第九十九條 書記ハ對質人ノ供述及ヒ對質ニ因リ生スル一切ノ事件ヲ錄取シ對質人ニ其對質ニ關スル部分ヲ讀聞カス可シ

第九十五條第九十六條ノ規定ハ對質ニ付テモ亦之ヲ適用ス

(解釋)本條ハ對質ニ關スル結果ノ規定ナリ
第一頁書記ハ對質人ノ供述及ヒ對質ニ因リ生シタル一切ノ事件ヲ錄取シタル調書ヲ作ルト雖唯々對質人ニハ其對質ニ關スル部分ノ

ミヲ讀聞カスルモノトス是レ豫審ハ秘密ヲ主義トシ又利害ニ關係ナキ部分ヲ讀聞カスルノ必要ナキニヨレリ

第一百條 被告人又ハ對質人聾ナルトキハ書面ヲ以テ問ヒ啞ナルトキハ書面ヲ以テ答ヘシム可シ若シ聾者啞者文字ヲ知ラサルトキハ通事ヲ命ス可シ
被告人又ハ對質人國語ニ通セサルトキ亦同シ

(解釋)本條ハ聾啞者及ヒ國語ニ通セサル者ニ適用スル規則ニシテ訊問ト對質トニ通用スルモノナリ

聾者ハ耳聽ク能ハサルヲ以テ書面ニテ訊問シ啞者ハ口言フ能ハサルヲ以テ書面ニテ答ヘシムヘキナリ然レトモ聾者啞者ニシテ文字ヲ知ラサルトキハ其既親ニシテ形容等ニヨリ其言ハントスルコトヲ知リ又ハ形容等ヲ以テ言ヘキコトヲ會得セシムルコトヲ得ル者ヲ以テ通事ト爲シ應答セシムヘキナリ

裁判所ニ於テハ日本語ヲ用ユルコトハ裁判所構成法第百十五條ノ定ムル處ナリ故ニ被告人又ハ對質人日本語ニ通セサルトキハ通事ヲ用テ應答ヲ爲サシメサルヘカラス

第百一條 通事ハ正實ニ通譯ス可キ宣誓ヲ爲ス可シ

書記ハ通事ニ調書ヲ讀聞カセ之ニ署名捺印セシム可シ

第百三十六條第百三十七條第百四十一條ノ規定ハ本條

ニモ之ヲ適用ス

(解釋)本條ハ通事ニ適用スル規則ナリ

通事ハ第百二十二條ノ証人ノ宣誓式ニ依リ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事モ黙秘セス又何事モ附言セス正實ニ通譯ス可キコトヲ誓言シ而シテ通譯ニ掛ルモノトス書記ハ通事ノ通譯ニ付調書ヲ作り之ヲ讀聞カセ署名捺印セシムヘキナリ又通事ノ得難キ場合ニ於テ書記其言語ニ通スルトキハ裁判長ノ承諾ヲ經テ通事ニ用サラル、コト

アリ(裁判所構成法第百十七條)

第百三十六條ニ鑑定人ニハ証人ノ呼出又呼出ニ應セサルトキ賠償及ヒ罰金等ノ制裁ヲ設ケタル第百十八條乃至第百廿一條及ヒ証人ノ能力又ハ權利ニ付キ設ケタル第百二十三條乃至第二十五條ハ通事ニモ適用シ又第百三十七條ノ宣誓及ヒ第百四十一條ノ旅費日當立替金ノ辨濟等ニ付鑑定人ニ規定ノ條項モ本條ノ場合ニ適用スルコト、セラレタリ

第五節 檢證搜索及ヒ物件差押

(解釋)檢證ノ何タルト又搜索物件差押等ニ關スル方式ノコトハ第三篇證據ノ部ニ於テ解説セシ處ナリ本節ハ證據集取ノ方法手段トシテ檢證搜索物件差押ヲ爲ス手續ヲ定メタルモノナリ

第百二條 豫審判事ハ事實發見ノ爲メ必要ナリトスルトキハ犯所又ハ其他ノ場所ニ臨ミ檢證ヲ爲ス可シ

(解釋)本條ハ豫審判事檢証ノ場合ヲ定メタルモノナリ

豫審判事ハ重罪輕罪アルニ當リ事實發見ノ爲メ必要ヲ感スルトキハ其犯所又ハ證憑物件ノ存在スル其他ノ場所ニ臨ンテ檢証ヲ爲サ
ルヘカラス此場合ニ於テハ第九十二條ニ依リ書記ヲ立會ハシメ
若シ書記ヲ同伴セサルトキハ二名ノ立會人ヲ必要トス

第三百三條 豫審判事ハ犯罪ノ性質方法日時場所及ヒ被告

人ノ人違ナキユトヲ證明ス可キ模様ニ付キ調書ヲ作ル
可シ

又被告人ノ利益ト爲ル可キ模様ヲモ記載ス可シ

(解釋)本條ハ豫審判事ニ精密ナル調書ヲ作ル可キコトヲ命シタルモ
ノナリ

犯罪ノ性質トハ謀殺故殺又ハ強竊盜詐欺取財ノ如キ其罪ノ性質ノ
異リタルモノヲ云ヒ犯罪ノ方法トハ人ヲ殺スニハ利力ヲ用ヰタル

カ將タ毒物ヲ以テセシカ竊盜ヲ爲スニハ兇器ヲ携帯セシカ又ハ門
戸牆壁ヲ踰越損壞シテ忍入りシヤ否ヤ等ノ如キヲ云フ右ハ何レモ
必要ノ條件ニシテ大ニ刑ノ輕重ニ關係ヲ及ホスモノナレハ詳細ニ
取調ヘテ爲サ、ルヘカラス

又日時ハ時効ニ關係アルハ勿論刑事適用上ニモ必要ノ事アリ例ヘ
ハ家宅侵入罪ニハ晝ト夜トニヨリテ刑ニ輕重アリ又侵入者ヲ殺傷
シタル者モ晝夜ノ別ニヨリテ有罪無罪ヲ別ツ如キ其一例ナリ

又場所ハ裁判管轄ニ關係シ及ヒ或ル場合ニ於テハ場所ヲ以テ犯罪
ノ原素トスルコトアリ例ヘハ猥褻ノ所行ハ公然ノ場所ナラサルヘ
カラサルカ如キ其一例ナリ

此ノ如ク犯罪ノ性質方法日時場所ハ大ニ罪ノ有無刑ノ輕重ニ關係
アルモノナルカ故ニ豫審判事ハ檢証ノ際充分ノ取調ヲ爲シ而シテ
調書ニ記入セサルヘカラス又豫審判事ハ特リ犯罪ノ證憑ヲ蒐集ス

ルノミナラズ被告人ノ利益トナルヘキ模様ヲモ取調ヘ調書ニ記載スヘキノ義務アリトス

第四百四條 豫審判事ハ被告人ノ住居又ハ事實ヲ證明ス可キ物件ヲ藏匿スル疑アル者ノ住居ニ臨檢シ搜索ヲ爲スコトヲ得

被告人又ハ物件ヲ藏匿スル者其住居ニ在ラサルトキハ同居ノ親屬若シ其在ラサルトキハ市町村長ノ立會アルヲ要ス

第七十八條第三項ノ規定ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス

(解説)本條ハ豫審判事家宅搜索ノコトヲ規定セリ

第一項豫審判事ハ被告人ノ住居又ハ被告事件ヲ證明ス可キ物件ヲ藏匿スル嫌疑アル者ノ住居ニ臨檢シ搜索スルコトヲ得ルナリ此場合ニ於テハ本人家宅ニ在ルトキナルヲ以テ別ニ立會人ヲ要セス是

レ本人ノ立會フ程確實ナルコトアラサルカ故ナリ但第九十二條ニ依リ書記ノ立會フコトハ勿論ナリトス

第二項若シ右ノ場合ニ於テ被告人又ハ物件ヲ藏匿スル者其住居ニ在ラサルトキハ同居ノ親屬カ又ハ市町村長ノ立會ナカルヘタラズ第七十八條ノ令狀執行ノ命ヲ受ケタル者ノ家宅搜索ノ場合ニハ市町村長ノ差支アルトキハ隣佑二名以上ノ立會ヲ求ムルコト、シ本條ニハ同居ノ親屬トアリテ何名ヲ要スルトモ規定ナシ故ニ一名ニテモ差支ナカルヘシ

第三項本條ノ臨檢搜索ニモ第七十八條ノ第三項ニ規定スル如ク通常ノ家屋ニ在ツテハ日出前日没後ハ之ヲ行フヲ得サル制限ヲ守リ又旅店割烹店等ハ公開時間内ハ搜索スルコトヲ得ヘシ

第四百五條 豫審判事ハ被告人又ハ事實ヲ證明ス可キ物件ヲ藏匿スル疑アル者ノ身體及ヒ之ニ屬スル物件ニ就キ

搜索ヲ爲スコトヲ得

(解釋)本條ハ身体及ヒ附屬物件ノ搜索ヲ規定シタルモノナリ
本條ノ搜索ハ治罪法ニハ曾テ規定ナカリシモノニシテ實際ハ之ヲ
行ヒ來レリ然ルニ身体自由ノ權利ハ何人モ之ヲ有シ法律ヲ以テス
ルニアラサレハ之ヲ妨クルヲ得サルコト彼ノ家宅安全ノ權利ト同
シク憲法ノ認ムル處ナリ故ニ刑事訴訟法ニハ特ニ此明文ヲ掲ケテ
豫審判事ニ許スニ事實發見ニ必要ナルトキハ人ノ身体ニ屬スル物
件トハ衣服ハ固ヨリ身体ト共ニ運動中ニ在ル物件ヲ悉ク指シタル
モノナリ

第百六條 豫審判事ハ臨檢搜索ニ因リ發見シタル物件其

事實ヲ證明スルニ足ル可シト思料シタルトキハ之ヲ差
押ヘテ認印ヲ爲シ目錄ヲ作ル可シ但其物件ヲ監護シ又
ハ遞送スルハ裁判所書記之ヲ擔任ス可シ

(解釋)本條ハ物件差押ノ規則ヲ定メタルモノナリ

豫審判事ハ臨檢搜索ニ因リ發見シタル物件カ被告事件ノ事實ヲ証
明スルニ足ル可シト思料シタルトキハ之ヲ差押ヘテ認印ヲ爲シ且
ツ目錄ヲ作ラサルヘカラス此認印ヲ爲スハ物件ヲ變換セシメサラ
シカ爲メニシテ目錄ヲ作ルハ其數ニ確乎ナラシメンカ爲メナリ而
シテ此差押物件ノ監護及ヒ遞送方ハ裁判所書記之ヲ担任スルモノ
トセリ

本條モ法律ノ規定ニヨリテ人ノ所有權ヲ侵スノ一例ニシテ裁判終
局ノ上ハ沒収ニ係ラサルモノハ私訴ニ因リ其真所有者ニ返附セシ
メ又ハ單ニ證據物トシテ差押ヘ物件ハ之ヲ所有主ニ還附スヘキナ
リ

第百七條 豫審判事ハ臨檢搜索物件差押ニ付其日ニ處分
ヲ終ラサルトキハ場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置

クユトヲ得

(解釋)本條ハ夜ニ入ルトキハ臨檢搜索等ヲ爲スヲ得サルニ付其時ノ

處分方ヲ定メタルモノナリ

豫審判事ハ臨檢搜索物件差押ノ處分カ若シ其日ニ終ラサルトキハ之ヲ中止シテ場所ノ周圍ヲ閉鎖シテ物件ノ散逸ヲ防キ原態ヲ保持シ又ハ看守人ヲ置キテ是等ノ取締ヲ爲サシムヘシ本條ニ云フ看守者トハ如何ナル者ヲ指スカ巡查憲兵卒等ヲ以テ之ニ充ツルハ勿論ナルカ如クナレ且又或ル場合ニ於テハ通常人民ヲシテ看守者タラシムルモ可ナルヘシ

第百八條 被告人ハ臨檢搜索物件差押ノ處分ニ立會ヒ又

ハ代人ヲシテ立會ハシムルユトヲ得

若シ被告人拘留ヲ受ケタルトキハ自ラ立會フユトヲ得ス但豫審判事本人ノ立會ヲ必要ナリトスルトキハ此限

ニ在ラス

(解釋)本條ハ被告人臨檢搜索物件差押ノ處分ニ立會ハシムル旨ヲ定

メタルモノナリ

被告人ヲシテ是等ノ處分ニ立會シムル所以ハ已ニ被告人ニ辯護ノ權利ヲ與ヘタル以上ハ臨檢搜索等ノ處分ニ立會フノ權利モ與ヘサルヘカラス何トナレハ被告人自ラ其場合ニ立會ハサレハ一々其辨明ヲ爲スコト能ハサレハナリ又被告人ハ代人ヲシテ立會ハシムルコトヲ得ヘキナリ

第二項若シ被告人拘留ヲ受ケタルトキハ自ラ立會フコトヲ許サス是レ或ハ逃亡スルノ恐アルヲ以テナリ然レトモ豫審判事ニ於テ本人ノ立會ヲ必要ナリト認ムルトキハ格別ナリトス

第百九條 豫審判事ハ被告人物件差押ノ處分ニ立會ヒタ

ルト否トヲ問ハス其物件ヲ被告人ニ示シ辨解ヲ爲サシ

ム可シ

其訊問及ヒ供述ハ之ヲ調書ニ記載ス可シ

(解釋)本條ハ被告人ニ差押タル物件ニ付辨解ヲ爲サシムルコトヲ定

メタルモノナリ

豫審判事ハ被告人カ物件差押ヘニ立會フタルト否トテ問ハス其物

件ハ被告人ニ示シテ辨解ヲ爲サシムヘシ是特リ事實ヲ發見スルニ

付テ必要ナルノミナラス被告人ニ辨護ノ權利アルコトヲ認ムルモ

ノナリ而シテ被告人ニ對スル訊問及ヒ其辨解ハ被告人訊問ノ規則

ニ從ヒ調書ニ記載シ之ヲ讀聞カセテ署名捺印セシムヘキナリ

第一百十條 豫審判事ハ臨檢搜索ノ場所ニ於テ証人ノ供述

ヲ聽クコトヲ必要ナリトスルトキハ第一百十五條以下ノ

規定ニ從ヒ之ヲ訊問ス可シ

(解釋)本條ハ臨檢搜索ノ場所ニ於テ証人ヲ訊問スル場合ヲ定メタル

モノナリ

豫審判事臨檢搜索ノ場所ニ於テ証人ノ供述ヲ聽クノ必要ヲ感シタ

ルトキハ第一百十五條以下即チ証人訊問ノ規則ニ從ヒ之ヲ訊問ス可

キナリ

第一百一十條 豫審判事ハ前數條ニ記載シタル處分中何人

ニ限ラス允許ヲ得スシテ其場所ニ出入スルコトヲ禁ス

ルヲ得

若シ其禁ヲ犯ス者アルトキハ之ヲ逐付シ又ハ處分ヲ終

ルマテ之ヲ留置スルコトヲ得

(解釋)本條ハ臨檢搜索ノ處分ニ付他ノ障礙ヲ防クコトヲ定メタルモ

ノナリ

豫審判事ハ何人ニ限ラス其允許ヲ得スシテ臨檢搜索ノ場所ニ出入

スルコトヲ禁止スルヲ得ヘキナリ是レ一ハ證據ノ湮滅ヲ防クト亦

一ハ豫審處分ハ專ラ秘密ヲ主トスルニヨレリ而シテ若シ此禁止ノ處分ヲ犯スモノアルトキハ之ヲ逐付シ又ハ場合ニヨリテハ處分ノ終ル迄之ヲ留置スルコトヲ得ヘシ然レトモ是等ハ一個ノ取締處分ニシテ刑罰ニアラサルコトハ言ヲ俟タス

第百十二條 豫審判事ハ其管轄地内ト雖時宣ニ因リ臨檢

搜索物件差押ノ事ヲ區裁判所判事ニ囑託スルコトヲ得

(解釋)本條ハ臨檢搜索差押ノ事ヲ區裁判所判事ニ囑託スルコトヲ得ル旨ヲ定メタルモノナリ

臨檢搜索差押等ノ處分ハ重大ナル事件ニシテ豫審判事ニ於テ爲スヲ以テ本則トス然レトモ豫審判事差支アルトキ又ハ土地遠隔スルカ若クハ其他ノ便宜ヲ計リ之ヲ其他ノ區裁判所判事ニ囑託スルコトヲ得ヘキナリ但本條ハ其豫審判事ノ管轄内ノ區裁判所判事ニ囑託スル場合ヲ規定セシモノニシテ管轄外ニ係ルトキノ處分ハ第七

十條及ヒ第百三十二條ニ依ルモノトス

第百十三條

豫審判事ハ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル

トキハ驛遞電信鏡道ノ官署諸會社ニ其事由ヲ通知シ被告入又ハ豫審事件ニ關係アル者ヨリ發シ若クハ此等ノ者ニ對シ發シタル書類電報又ハ物件ヲ受取開披スルコトヲ得但受取證書ヲ渡ス可シ

(解釋)本條ハ人民ノ自由權利ニ關シテ重大ナル事件ヲ定メタルモノナリ

信書ノ秘密ハ何人モ法律ニ依ルニアラサレハ之ヲ侵スコトヲ得サルハ彼ノ家宅安全ノ權利ト同シク國民ノ權利トシテ憲法ノ認ムル處ナリ又所有權ノ安固ニ付テモ全様ニシテ先キニ解説スルカ如シ故ニ是等ハ實ニ人民ノ榮譽ト權利義務ニ關スルコト大ナル可ケレハ本條ノ處置ハ容易ニ之ヲ行フヘキモノニアラス

然レモ是亦豫審處分ノ一ナレハ豫審判事ハ事實發見ノ爲メ必要ナルトキハ驛遞電信鏡道ノ官署諸會社ニ通知シテ書類電報又ハ物件ヲ受取之ヲ開披スルコトヲ得ヘシ而シテ豫審判事ハ之ヲ受取リタルトキハ官署會社ニ受取証書ヲ渡ス可キナリ官署會社ハ此受取証書ヲキトキハ若シ信書物件ノ紛失シタル場合ニ於テハ責任ヲ負ハサルヘカラサルナリ

第一百十四條 証言ヲ拒ムコトヲ得ル者ノ所持スル物件ニ

シテ其黙秘ス可キ義務アル事情ニ關スルモノハ其承諾アルニ非サレハ之ヲ差押ヘ及ヒ開披スルコトヲ得ス

(解釋)本條ハ証言ヲ拒ムコトヲ得ル者ノ所持スル物件ヲ差押ヘ若シハ開披スル場合ヲ規定シタルモノナリ
証言ヲ拒ムコトヲ得ル者トハ第二百二十五條ニ記載シタル官吏公吏又ハ官吏公吏タリシ者及ヒ醫師藥商穩婆辨護士辨護人公証人神職

僧侶ヲ云フ又黙秘ス可キ義務アルモノハ官吏公吏ノ職務上他言ス可カラサル公務上ノ秘事醫師藥商穩婆辨護士辨護人公証人神職僧侶等カ身分ニヨリ又ハ職業ノ爲メ委託ヲ受ケタタニ因テ知り得タル一私人ノ秘事ヲ云フ是ノ事柄ハ一ハ國家ノ安寧ヲ保チ一ハ私人ノ榮譽ヲ保護スル爲メ黙秘スヘキ義務アルモノニシテ若シ違フトキハ輕キハ服務紀律重キハ刑法ノ問フ處トナルナリ故ニ本條ニモ其黙秘スヘキ事情ニ關スルモノハ其承諾アルニ非サレハ濫リニ之ヲ差押ヘ及ヒ開披ヲ爲ス可カラスト定メタル所以ナリ

第六節 證人訊問

(解釋)証人ノ陳述ニシテ證據タルノ効力有ラシムルニハ如何ナル條件ヲ要スルカハ第九十條ノ解ニ於テ述ヘシ處ナリ即チ本節ニハ其証人ノ訊問及ヒ証言ノ効力証人タル者ノ能力等ヲ規定シタルモノナリ但シ爰ニハ唯々証人訊問トアレトモ事實參考人モ此内ニ包含

スルモノト知ルヘシ

第百十五條 證人ノ呼出狀ニハ其氏名住所及ヒ職業ヲ記

載ス可シ

又出頭ノ日時場所及ヒ呼出ニ應セサルトキハ罰金ヲ言

渡シ且勾引スルコトアル可キ旨ヲ記載ス可シ

呼出狀ノ送達ト出頭トノ間少クトモ二十四時ノ猶豫アル可シ

(解釋)本條ハ證人呼出狀ノ方式ヲ定メタルモノナリ

第一項ハ証人ノ人違ナキコトヲ確ムル爲メニ其職業迄モ記載スルナリ

第二項出頭ノ日時場所ヲ示スモ當然ノコトニテ更ニ説明スルモノナシ又呼出ニ應セサルトキハ罰金ヲ言渡シ且勾引スルコトアル可キ旨ヲ記載スルハ證人ノ法律ヲ知ラスシテ罰セラレ及ヒ公力ヲ以

テ引致セラル、場合ニ至ランコトヲ恐レテ注意上斯クハ規定シタルモノナリ

第三項二十四時間以上ノ猶豫ヲ與フルハ証人出頭ノ便宜ヲ計リタルモノニシテ別ニ理由ナシ

第百十六條 證人疾病其他正當ノ事故ニ因リ呼出ニ應ス

ル能ハサルコトヲ説明シタルトキハ豫審判事其所在ニ就テ之ヲ訊問ス可シ

(解釋)本條ハ証人呼出狀ニ應スル能ハサル場合ヲ定メタルモノナリ本條ノ規定ハ第七十四條被告人令狀ニ應スル能ハサル場合ト其趣ヲ同フス故ニ更ニ解説スルノ要ナシ

第百十七條 証人ト爲ル可キ者豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人軍属ナルトキハ其所屬長官又ハ隊長ヲ經由シテ呼出狀ヲ送達ス其長官又ハ隊長ハ即時ニ出頭セシム可

キコトヲ認可シ又ハ職務上已ムコトヲ得サル差支アルトキハ其事由ヲ付シテ出頭ノ延期ヲ豫審判事ニ請求ス可シ

(解釋)本條ハ証人ト爲ル可キ者軍人軍属ナル場合ヲ規定シタルモノナリ

証人ト爲ル可キ者現役軍人又ハ軍属ナルトキハ第八十一條ノ場合ト同シク其所屬長官又ハ隊長ヲ經由シテ之ヲ送達ス可キナリ而シテ其長官又ハ隊長ハ即時ニ出頭セシム可キコトヲ認可シ又ハ職務上已ムヲ得サル差支アルトキハ出頭ノ延期ヲ豫審判事ニ請求ス可キナリ又此場合ニ於テモ豫審判事ハ前條ノ規則ニヨリ其長官又ハ隊長ニ照會シテ軍營ニ至テ訊問スルコトヲ得ヘシ
軍人軍属ノコトハ第八十一條ニ於テ解説セシカ全條ニハ軍人ハ下士以下トアリ本條ニハ其制限ナシ故ニ証人訊問ノ規定ハ將校ニモ

適用スルコト勿論ニシテ被告人ノ場合トハ大ニ異ル處ナリ

第一百十八條

豫審判事ハ前二條ニ定メタル差支ノ場合ヲ

除ク外証人呼出ニ應セサルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ其不參ニ因リ生シタル費用ノ賠償及ヒ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ言渡ス可シ但其決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル効力ヲ有ス

豫審判事ハ其証人ニ對シ罰金ノ言渡書ト共ニ再度ノ呼出狀ヲ送達シ又ハ直チニ勾引狀ヲ發スルコトヲ得若シ証人再度ノ呼出ニ應セサルトキハ費用賠償ノ外二倍ノ罰金ヲ言渡ス可シ又勾引狀ヲ發スルコトヲ得豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人軍属ニ對スル罰金ノ言渡及ヒ執行ハ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑託シテ之ヲ爲ス可シ其勾引ニ付テモ亦同シ

(解釋)本條ハ証人故ナク出頭セサルトキノ制裁ヲ定メタルモノナリ
 (凡)ソ命令ヲ執行セシムルニハ其命令ニ應セサルトキハ之ニ從ハシムル
 ルノ督促法ヲカタルヘカラス若シ然ラザレハ恐クハ命令實行ノ期ナ
 カルヘシ是レ本條ニ証人呼出ニ應セサルトキニハ罰金勾引賠償等
 ノ制裁ヲ設ケタル所以ナリ然レモ前二條ノ場合即チ疾病其他正當
 ノ事故アリテ出頭スル能ハサル時ハ本條ノ制裁ヲ受クヘキモノニ
 アラス故ニ此等ニ對シテ若シ罰金若クハ賠償ノ言渡アリタルトキ
 ハ事故ヲ申立第二百九十三條以下ノ規則ニ從ヒ言渡書ノ送達アリ
 タルヨリ三日内ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキナリ
 本條ノ言渡ハ命令ヲ執行スルニ付テノ督促ノ手段ニシテ固ヨリ公
 判ノ式ニ依ルコトナク訴ヘナキモ訴ヘアリタルト見做ス例外法ナ
 レハ呼出ニ應セサル證人ニ對シ罰金ノ言渡書ト共ニ再度ノ呼出狀
 ヲ送達シ又ハ直チニ勾引狀ヲ發スルコトヲ得ヘク而シテ尙ホ呼出

ニ應セサル者ニハ費用賠償ノ外二倍ノ罰金ヲ言渡モ固ヨリ豫審判
 事ノ權内ニ在リ然レモ何レノ場合ニ於ルモ一應檢事ノ意見ヲ聽カ
 サルヘカラサルナリ
 現役軍人軍屬ニ對スル罰金言渡及ヒ執行又ハ勾引狀ヲ發スル場合
 ニ於テハ軍事裁判所又ハ其所屬長官隊長等ニ囑託シテ之ヲ爲スモ
 ノトス

(治罪法第七十六條証人呼出ニ應セサルカ爲罰金ノ言渡ヲ受ケタ
 ルトキハ故障及ヒ控訴ヲ許サ、リシカ此訴訟法ニ於テハ抗告ヲ爲
 スコトヲ許サレタリ是重ナル改正ノ第十四ナリ)

**第一百十九條 豫審判事ハ證人罰金言渡ノ送達アリタルヨ
 リ三日内ニ其出頭セサリシユトテ正當ノ理由ヲ以テ辨
 解シタルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ其罰金及ヒ賠償ノ決
 定ヲ取消ス可シ**

(解釋)本條ハ証人ニ言渡シタル罰金ヲ取消ス場合ヲ規定シタルモノナリ

証人罰金言渡書ノ送達アリタルヨリ三日内ニ出頭シテ呼出ニ應セザリシハ全ク天災等ノ豫知シ難キ正當ノ事故アリシ等正當ノ理由ヲ以テ辨解シタルトキハ豫審判事ハ檢事ノ意見ヲ聽キ其辨解理アリトスルトキハ罰金及ヒ賠償ノ決定ヲ取消ス可キモノトス

第二百二十條 証人呼出狀ニ因リ出頭シタルトキハ其呼出

狀ヲ差出ス可シ若シ之ヲ遺失シタルトキハ其人違ナキユトテ疏明ス可シ

(解釋)本條ハ証人出頭ノ心得方ヲ示シタルモノナリ

証人呼出狀ニ應シテ出頭シタルトキハ其呼出狀ヲ裁判所ニ差出ス可シ是レ詐欺ヲ防キ又ハ月日ヲ誤リ又ハ場所ヲ誤ル等ノ憂ヒナカラシメシカ爲メナリ然トモ其呼出狀ヲ遺失セシカ又ハ忘却シテ所

持セサルトキハ已テ得サルニヨリ其呼出ヲ受ケタル者ニ相違ナキコトヲ疏明セサルヘカラス

第二百二十一條 豫審判事ハ証人トシテ呼出シタル者ニ對

シ其氏名年齢職業住所及ヒ第二百二十三條ニ記載シタル者ナリヤ否ヤヲ問フ可シ

(解釋)本條ハ証人訊問ノ最初ノ手續ヲ定メタルモノナリ

豫審判事ハ証人出頭シタルトキハ第一ニ姓名年齢職業住所ヲ問フハ其人違ヒナキヤ否ヲ確メシカ爲メナリ第二ニ第二百二十三條ニ記載シタル關係ノ無能力者ニ非サルヤ否ヲ問ハサルヘカラス是レ証人タルノ能力ヲ確メ而シテ第二百二十二條ニヨリ宣誓セシメシカ爲メナリ

第二百二十三條ノ關係ノ無能力者ナルヤ否ヤハ之ヲ訊問スヘシト雖第二百二十四條ノ無能力者ナルヤ否ヤハ之ヲ訊問スルコトヲ許サ、

ルナリ何トナレハ若シ之ヲ訊問スルトキハ汝ハ知覺精神十分ナル
ヤ公權ヲ剝奪セラレタルモノニアラスヤト問フカ如キ實ニ其人ヲ
辱ムルコト甚シケレハナリ設シ又是等ハ訊問ヲ爲サ、ルモ他ニ之
ヲ知ルノ方法アルヲ以テナリ

第二百二十二條

豫審判事ハ證人ヲシテ良心ニ從ヒ眞實ヲ
述ヘ何事ヲモ黙秘セス又何事ヲモ附加セサル旨ヲ宣誓
セシム可シ

裁判所書記ハ証人ニ宣誓書ヲ讀聞カセ之ニ署名捺印セ
シム若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記
ス可シ

(解釋)本條ハ證人宣誓及ヒ其式ヲ定メタルモノナリ
豫審判事ハ前條ニヨリ證人ト爲ル可キ能力者ト認メタルトキハ本
條第一項ニ定メタル如ク良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ黙秘セス

又何事ヲモ附加セス其見聞ノ儘ヲ供述ス可キ旨ヲ宣誓セシム可シ
然レトモ此宣誓タル固ト吾良心ニ誓フモノナレハ虚言ヲ吐クヲ以
テ意トセサル輕薄者流ニ望ムヘカラサルカ如シト雖法律ノ眼界ハ
皆善良ナルモノト看做スカ故ニ斯ク良心ニ誓ヒテ立テシムルナリ
又此宣誓ナルモノハ證人タルノ責ヲ負フト否トノ境界ニ當ルモノ
ナレハ法律ノ責任ヲ恐ル、点ヨリスルモ正實ノ供述ヲ爲スニ庶幾
カルヘシ

第二項ハ宣誓ノ式ヲ規定シタルモノニシテ別ニ解説ヲ要セス

第二百二十三條

左ニ記載シタル者ハ證人ト爲ルコトヲ許
サス但宣誓ヲ爲ラシメスシテ事實参考ノ爲メ其供述ヲ
聽クコトヲ得

第一 民事原告人

第二 民事原告人及ヒ被告人ノ親屬但姻族ニ付テハ婚

姻ノ解除シタルトキト雖亦同シ

第三 民事原告人及ヒ被告人ノ後見人又ハ此等ノ者ノ後見ヲ受クル者

第四 民事原告人及ヒ被告人ノ雇人又ハ同居人

(解釋)本條ハ證人ト爲ルヲ得サル無能力者ノコトヲ定メタルモノナ

リ
凡ソ無能力者ニ二種アリ一チ關係ノ無能力者ト云ヒ一チ純粹ノ無能力者ト云フ即チ一ハ其關係ノ訴訟事件ニ付キテハ其直接タルト間接タルトチ問ハス利害ノ影響ヲ受クルモノナレハ法律ハ人情ニ從ヒテ之ヲ証人タル資格ヨリ除斥シタルモノニシテ即チ本條規定スル處ナリ又一ハ人身上ヨリ來ル無能力者ナレハ事件ノ如何ヲ論セズ總テ証人タルノ能力ナキモノニシテ即チ第二百二十四條ニ定ムルモノ是レナリ但第二百二十四條ノ第六號ニ掲ケタルモノハ關係ノ

無能力者ナルヲ以テ第一ノ部ニ入ルモノナリ

本條第二號ノ親屬姻族ノ事ハ第四十條第二號ノ解ニ於テ詳述シタレハ爰ニハ略ス

第二百二十四條 左ニ記載シタル者亦前條ニ同シ

第一 十六歳未滿ノ幼者

第二 知覺精神ノ不十分ナル者

第三 瘖啞者

第四 公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者

第五 重罪事件又ハ重禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪事件ニ

付キ公判ニ付セラレタル者

第六 現ニ供述ヲ爲ス可キ事件ニ付キ曾テ訴ヲ受ケ其

証憑十分ナラサルニ因リ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者

(解釋)本條ハ純粹ニ証人ト爲ル可カルサル無能力者ヲ示シタルモノ

ナリ

本條第一ヨリ第三迄ノ者ハ全ク人類ノ智能ヲ欲クカ又ハ智能ノ發達不十分ナルモノニシテ人格ノ變態ヨリ來ル無能力者ナリ又第四及ヒ第五ニ掲ケタル者ハ一ハ法律ノ結果ニ因リ一ハ犯罪ノ嫌疑ニ因リ法律上其言ヲ以テ信ヲ措クニ足ラストシテ無能力者トセシ者ナリ

第五ハ前條ニモ述ヘシ如ク全ク關係ノ無能力者ナリ即チ現ニ供述ヲ爲ス可キ事件ニ付キ曾テ訴ヲ受ケ其證憑十分ナラサルニ因リ免訴ノ言渡ヲ受ケタルトキニ限ル者ナリ而シテ此場合ニ於テ何故ニ証人ト爲ルヲ許サ、ルカト云フニ仮令ヒ免訴ノ言渡ヲ受ケタリト雖其事件ニ付キ犯人ノ出テサル以上ハ其嫌疑ヲ免ル、コト能ハサルヲ以テ被告人ヲシテ其罪ニ陷レシメ以テ自己ニ係ル世人ノ疑惑ヲ解カント欲シテ不當ノ證言ヲ爲スヤモ計リ難ケレハナリ爰ニ注

意スヘキハ此第六ノ無能力者ハ豫審ニ於テ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者ニ限ルコト是ナリ無罪ノ言渡ヲ受ケタルモノハ毫モ關係スル處ナシ

前條ノ無能力者及ヒ本條ノ無能力者ハ證人ト爲ルコトヲ得サレトモ宣誓ヲ爲サシメスシテ事實參考ノ爲メ其供述ヲ聽クハ妨ケナキモノトス

第二百二十五條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ証言ヲ拒ムコトヲ得

- 第一 官吏公吏又ハ官吏公吏タリシ者其職務上默秘ス可キ義務アル事情ニ關スルトキ
- 第二 醫師藥商穩婆辨護士辨護人公証人神職僧侶其身分職業ノ爲メ委託ヲ受ケタルニ因テ知リタル事實ニシテ默秘ス可キモノニ關スルトキ

證言ヲ拒ム者ハ拒絶ノ原由タル事實ヲ開示シ且之ヲ疏明ス可シ

(解釋)本條ハ證言ヲ拒ムコトヲ得ル人ト其事件ヲ規定シタルモノナリ
凡ソ官吏ハ官等ニ高下アリ其職權ニ大小アリト雖等シク國家ノ職務ニ干リ其權利ノ執行ヲ司ルモノナリ故ニ官吏ニシテ一朝機密ヲ漏スカ如キコトアラハ大ニシテハ國家ノ安危ニ係リ小ニシテハ一官廳ノ施政ヲ誤ルカ如キコトナシトモ是ヲ以テ官吏ニハ服務紀律ナルモノアリテ必ス遵奉セサルヘカテサルノ義務アリ之ヲ守ルハ特リ在職中ニ限ラス退官ノ後ト雖現職ノモノト同様ナリ若シ違背スルニ於テハ服務紀律ノ罪人タルモノトス又公吏モ其扱ヒ官吏ニ準スルモノニ付等シク服務紀律ノ配下ニ立ツモノナリ故ニ本條第一ニ官吏公吏ハ職務上黙秘ス可キ事件ニ關シテハ證言ヲ拒ムコトヲ得ヘキモノトセリ

又第二ノ醫師藥商穩婆辨護士辨護人公證人神職僧侶等カ其身分職業ニ於テ委託ヲ受ケタル事ニ因リテ知得タル陰私ニ於ルモ之ヲ漏告スルトキハ刑法上ノ制裁アルモノナレハ是亦黙秘スヘキ事件トシテ證言ヲ拒ムコトヲ得
然レトモ何レノ場合ニ於テモ必ス拒絶ノ原因タル事實ヲ開示シ且ツ説明セサルヘカテス拒絶ノ原因タル事實トハ黙秘スヘキ事柄ヲ云フニアラスシテ黙秘スルニ付テ証言ヲ拒ム原因ノ事ヲ云フ例ヘハ或ル事件ノ供述ヲ命セラル僧侶カ此事件ニ付證言スルニハ身分上何某ヨリ委託ヲ受ケタルニ因リ聞キ得タル事柄ヲ述ヘサルヲ得サル場合ナリ故ニ自分ハ身分上黙秘スヘキ義務アルヲ以テ供述スル能ハスト其身分上供述スル能ハサル事實ヲ開示説明スルカ如キヲ云フナリ

(治罪法ニハ醫師藥商穩婆代言人弁護人公証人神官僧侶等ハ秘密ノ事件ニ付宣誓ヲ肯セス陳述ヲ肯セサルモ罰金ノ言渡ヲ免ル、規定ナリシテ此訴訟法ニハ斷然ト証言ヲ拒ム場合ヲ規定セラレタリ是重モノナル改正ノ第十五ナリ)

第二百二十六條 證人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ供述ヲ肯

セサルトキハ豫審判事檢事ノ意見ヲ聽キ刑法第百八十八條ニ從ヒ罰金ヲ言渡ス可シ但其決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スユトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル効力ヲ有ス豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人軍屬ニ對スル罰金ノ言渡及ヒ執行ハ軍事裁判所ニ囑託シテ之ヲ爲ス可シ

(解釋)本條ハ證人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓スルモ供述ヲ肯セサルトキノ制才ヲ定メタルモノナリ
證人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓ニシテ供述ヲ肯セサルトキハ豫審判事

ハ檢事ノ意見ヲ聽キ刑法第百八十條ニ從ヒ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス可キナリ證人呼出ニ應セサル罪ハ刑事訴訟法第百十八條ニ依リ之ヲ處分シ宣誓供述ヲ肯セサル罪ハ刑法ノ規定ニ從ヒ一ハ輕シ一ハ重キハ如何ナル理由ニ基クカト云フニ呼出ニ應セサル者ヲ罰スルハ先キニモ述ヘシ如ク命令ヲ執行スル督促ノ方法ニ過キス又呼出ニ應セサル者ノ如キハ私ヲ先キニシ公ヲ後ニスルヲ以テ其罪アルモノナレバ宣誓ヲ肯セス供述ヲ肯セサル者ハ所謂官命ニ抗拒シ裁判權ヲ防クル所爲ナルヲ以テ其罪タルヤ重キカ故ナリ此供述ヲ肯セストハ事件全体ノ供述ヲ肯セサルモノハ勿論其一部分ノ供述ヲ肯セサル者モ本條ノ規定内ニ在ルナリ但此決定ニ對シテハ第百九十三條以下ノ規則ニヨリ抗告ヲ爲スコトヲ得又抗告アリタルトキハ其刑ノ執行ヲ停止スルモノトス

第二項現役軍人軍屬ニ對スル罰金ノ言渡及ヒ其執行ハ第百十八條